

2021 年度（令和 3 年度）

学生による授業評価アンケート
実施報告書

福山大学大学教育センター
教育開発部門

目次

はじめに	- 1 -
1. アンケート調査の目的	- 2 -
2. アンケート調査の概要	- 2 -
3. 全学、学部・センターのアンケート調査結果	- 5 -
(1) 全学、学部・センターの集計結果一覧	- 5 -
(2) アンケート回答率について	- 9 -
(3) 調査結果の内容（学生による授業評価結果について）	- 10 -
① 【質問 1】 授業準備について	- 10 -
② 【質問 2】 話し方について	- 11 -
③ 【質問 3】 授業の計画性について	- 12 -
④ 【質問 4】 授業時間について	- 13 -
⑤ 【質問 5】 講義の工夫について	- 14 -
⑥ 【質問 6】 質問への誠意について	- 15 -
⑦ 【質問 7】 講義の満足度について	- 16 -
(4) 調査結果の内容（学生の自己点検について）	- 17 -
① 【質問 8】 関連学習について	- 17 -
② 【質問 9】 集中力について	- 19 -
③ 【質問 10】 出席状況について	- 20 -
④ 【質問 11】 知識の深まりについて	- 21 -
⑤ 【質問 12】 質問への積極性について	- 22 -
⑥ 【質問 13】 意欲の高まりについて	- 23 -
⑦ 【質問 14】 学修の成果について	- 24 -
4. 全学、学部・センターの全体総括	- 25 -
5. 学科の授業評価アンケート結果	- 27 -
(1) 学科の集計結果一覧	- 27 -
6. 学科、センターの個別総括	- 31 -
① 経済学部経済学科	- 31 -
⑦ 工学部スマートシステム学科	- 52 -
⑧ 工学部建築学科	- 55 -
⑨ 工学部情報工学科	- 58 -
⑩ 工学部機械システム工学科	- 60 -
⑪ 生命工学部生物工学科	- 63 -

⑫	生命工学部生命栄養科学科.....	- 66 -
⑬	生命工学部海洋生物科学科.....	- 68 -
⑭	薬学部薬学科.....	- 71 -
⑮	大学教育センター	- 74 -
⑯	共同利用センター	- 78 -
⑰	国際センター.....	- 80 -
7.	令和3年度（前期）授業評価アンケート実施科目一覧.....	- 82 -
8.	令和3年度（後期）授業評価アンケート実施科目一覧.....	- 90 -

はじめに

福山大学は、次の 6 つを教育目的として掲げ、この目標を達成するべく、日々、教育の改革と改善に取り組んでいる。

福山大学教育目的

- (1) 真理の探究と道理の実践
- (2) 豊かな品性と強い意志の涵養
- (3) 生命と自然の尊重
- (4) 個性の発揮と信頼に基づく人間関係の構築
- (5) 可能性への挑戦
- (6) 地域社会の発展への貢献

教育とは、学修者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスであり、「何を教えたか？」ではなく、「学修者が、何ができるようになったか？」が問われる。通常、教育者は、教育の効果を試験の結果、すなわち学修成果として認識し把握している。

しかしながら、真に教育を改善するためには、学修者からの忌憚のないフィードバックを得ることは必要不可欠である。このため福山大学では、自己評価委員会が平成 16 年度に実施して以来、本学のすべての教員が毎年、学生による授業評価を受けている。平成 23 年度より大学教育センターが担当することになり、学生による授業評価だけでなく学生自身の学修の点検も加えたアンケート調査を実施している。

令和 3 年度も、大学教育センター教育開発部門が「学生による授業評価アンケート」を実施した。このアンケート調査結果が、教員と学生がそれぞれの目標とする教育と学修の成果向上の機会となることを願っている。

令和 3 年 3 月 31 日

大学教育センター センター長 鶴田 泰人
同 教育開発部門長 佐藤 英治

1. アンケート調査の目的

学生が主体的に学ぶ授業の展開を目指して、学生が授業をどのように受講しているのか、授業の何を期待しているのかを教員が理解し、各教員の授業改善に資するために本アンケートを実施する。また、全学的な教育改革の成果を検討する貴重な資料とする。さらに、学生が自己評価し、自身の学習姿勢を点検して改善に役立てるために本アンケートを実施する。なお、本学では、2020年度から3年間で全授業科目（実習・演習を含む、受講生6名未満の科目及び本アンケート形式が適切でないため独自に授業評価アンケートを実施している科目を除く）の授業評価アンケートを行うこととしているが、今年度は2年目である。

2. アンケート調査の概要

(1) 実施期間

前期：令和3年6月23日（水）～7月14日（水）

後期：令和3年12月13日（月）～令和4年1月14日（金）

(2) 調査科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）を対象に、各教員前期1科目、後期1科目のアンケートを選定した。科目の選定は、各学科長・センター長に依頼した。全学で前期288科目（受講者数延べ16,077人）、後期279科目（受講者数延べ15,132人）について実施した。調査科目はp. 83～98に示す。

(3) アンケート調査内容

アンケートの調査項目は、教員の授業評価に関する7項目、学生自身の学修点検に関する7項目、合計14項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。各設問を以下に示す。

【質問1】授業準備：授業の準備が適切になされていると思いますか？

【質問2】話し方：教員の話は聞き取りやすいですか？／（音声のない遠隔授業の場合では）資料は読みやすいですか？

【質問3】計画性：授業はシラバス通りに行われていますか？

【質問4】授業時間：授業をあまりに遅く始めたり、早く終わったりしないで、90分間の授業時間を守っていますか？

【質問5】講義の工夫：教員は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか？

【質問6】質問への誠意：教員は、あなたの質問に誠意をもって答えていますか？

【質問7】講義の満足度：この科目に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。

【質問8】関連学習：この授業に関して、1回の講義あたり平均してどのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか？

【質問9】集中力：授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどがありますか？

【質問10】出席状況：授業には特別な事情（公認欠席、忌引きなど）を除き、出席していますか？

【質問11】知識の深まり：この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？

【質問 12】 質問への積極性：授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？

【質問 13】 意欲の高まり：この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思いますか？

【質問 14】 学修の成果：この科目であなたが得た成果を 5 段階で自己評価してください。

(4) 調査結果の集計

アンケート調査及び結果の集計は学修支援システム Cerezo（セレッソ）の機能を利用して行った。集計後、各回答数に係数（強く肯定する回答には 5、強く否定する回答には 1）を乗じ全回答数で除することで、平均点を算出した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、最高点は 5.0、最低点は 1.0 となる。なお、質問 3 では「シラバスを読んでいない」、質問 12 は「質問したことがない」という選択肢を増やし、6 段階評価とした。これらの選択肢については、その回答を平均点の算出には用いていない。

集計は、全学、学部・センター、学科、科目単位で行った。本報告書では、全学、学部・センター、学科単位での集計結果を掲載した。各種集計結果は少数第二位以下を四捨五入して表示している。なお、所属教員が 1 名の国際センター、社会連携センター、および IR 室については本集計表から除外した。集計結果で表示している全学の各種値は、上記の 3 部署の数値も含めて計算しているため、学部・センターの合計値とは一致しないことに留意してほしい。

(5) 学生へのフィードバック方法

アンケート調査の結果のフィードバックは、授業担当教員がアンケート調査終了後の授業時や定期試験時に口頭で行ったか、あるいは Cerezo のコースニュース等を利用して行った。

(6) アンケート実施後の教員による報告書提出

授業担当教員に集計結果返却後、各教員は 1 ヶ月以内に報告書（p. 4 の報告書書式を参照）を学科長に提出し、学科長は学科教員の報告書を取りまとめて大学教育センター長に提出した。

(7) アンケート実施後の学科による総括

年度末に前期および後期の調査結果を踏まえて学科単位で授業評価アンケートを総括し、学科長から大学教育センター長に提出した。

令和3年度前期 授業評価アンケート結果に対する報告書									
担当教員	氏 名				所属学部・学科				
					学部		学科		
講 義 名					科目分類（不要な方を消去する）		受講者数	回答率	
					共通教育科目	専門科目	名	%	
お手数ですがこの科目のアンケート集計結果を各質問毎に記載してください									
質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7			
授業準備	話し方	計画性	授業時間	講義の工夫	質問への誠意	満足度			
質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	質問13	質問14			
関連学習	集中力	出席状況	知識の深まり	質問への積極性	意欲の高まり	学修の成果			
◆アンケート結果の学生へのフィードバック方法									
◆この講義に対する学生の評価結果について（アンケートの質問1～質問7が該当します）									
○高く評価された事項									
○改善を求められている事項									
○今後の授業改善の計画									
◆この講義を受講した学生の自己点検結果について（アンケートの質問8～質問14が該当します）									
○学修成果という点でこの結果をどのように考えますか									
○学生の学修成果を望ましい方向に進展させる方策はありますか									

3. 全学、学部・センターのアンケート調査結果

(1) 全学、学部・センターの集計結果一覧

全学、学部・センター単位の集計結果を以下に示す（表1：前期、表2：後期）。

表 1-1 令和3年度授業評価アンケート 学部別集計結果 前期【質問1～7】

講義番号										
学部										
学科										
曜限										
主担当教員										
実施教員										
科目名										
受講者数		16,077	2,955	2,058	1,986	1,822	4,709	2,028	463	
回答者数		9,195	1,347	1,117	1,312	1,313	2,325	1,395	332	
回答率		57.2%	45.6%	54.3%	66.1%	72.1%	49.4%	68.8%	71.7%	
【質問1】 授業準備 授業の準備は適切になされていると思いますか？	適切である	5	6,553	953	824	872	967	1,687	1,004	212
	ほぼ適切である	4	2,020	274	231	317	292	495	309	86
	どちらとも言えない	3	467	81	48	101	45	100	65	25
	やや不適切である	2	103	27	8	14	7	32	8	5
	不適切である	1	52	12	6	8	2	11	9	4
	平均点		4.62	4.58	4.66	4.55	4.69	4.64	4.64	4.50
【質問2】 教員の話し方 教員の話は聞き取りやすいですか？／ (音声のない遠隔授業の場合は)資料は読みやすいですか？	聞き取りやすい(読みやすい)	5	5,663	846	762	730	848	1,454	852	137
	ほぼ聞き取りやすい(ほぼ読みやすい)	4	2,296	299	250	375	361	565	338	92
	どちらとも言えない	3	751	109	76	130	72	174	146	40
	やや聞き取りにくい(やや読みにくい)	2	343	60	20	54	28	103	40	38
	聞き取りにくい(読みにくい)	1	142	33	9	23	4	29	19	25
	平均点		4.41	4.38	4.55	4.32	4.54	4.42	4.41	3.84
【質問3】 授業の計画性 授業はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	6,129	890	685	900	864	1,596	940	219
	ほぼ行われている	4	1,532	239	245	240	245	240	242	66
	どちらとも言えない	3	379	60	52	91	40	44	76	15
	やや異なっている	2	41	10	4	8	5	5	6	2
	全く異なっている	1	9	2	1	1	0	3	2	0
	シラバスを読んでいない	-	1,105	146	130	72	159	437	129	30
【質問4】 授業時間 授業を遅く始めたり、早く終わったりしないで、授業時間を守っていますか？	守っている	5	5,855	874	690	860	832	1,525	863	171
	ほぼ守っている	4	1,449	208	209	202	192	343	219	65
	どちらとも言えない	3	514	81	57	99	65	103	83	23
	やや守っていない	2	159	29	10	14	34	27	33	12
	守っていない	1	49	13	4	1	5	12	13	1
	この授業は遠隔授業なのでわからない	-	1,169	142	147	136	185	315	184	60
【質問5】 講義の工夫 教員は、授業内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか？	守っている	5	5,855	874	690	860	832	1,525	863	171
	ほぼ守っている	4	1,449	208	209	202	192	343	219	65
	どちらとも言えない	3	514	81	57	99	65	103	83	23
	やや守っていない	2	159	29	10	14	34	27	33	12
	守っていない	1	49	13	4	1	5	12	13	1
	この授業は遠隔授業なのでわからない	-	1,169	142	147	136	185	315	184	60
【質問6】 質問への誠意 教員は、あなたの質問に誠意をもって答えていますか？	思う	5	5,828	848	761	766	914	1,450	884	170
	やや思う	4	2,268	289	260	346	315	594	360	91
	どちらとも言えない	3	766	117	81	142	64	184	119	53
	あまり思わない	2	235	57	9	40	15	75	24	15
	思わない	1	98	36	6	18	5	22	8	3
	平均点		4.47	4.38	4.58	4.37	4.61	4.45	4.50	4.23
【質問7】 授業への満足度 この授業に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください	誠意をもって答える	5	3,829	598	565	621	597	665	637	116
	ほぼ誠意をもって答える	4	973	147	154	176	132	145	165	44
	どちらとも言えない	3	621	115	78	120	81	81	104	39
	やや誠意が感じられない	2	68	14	8	22	2	8	11	2
	誠意が感じられない	1	27	5	4	9	0	5	3	1
	質問したことがない	-	3,677	468	308	364	501	1,421	475	130
【質問1】～【質問7】の平均	平均点		4.54	4.50	4.57	4.45	4.63	4.61	4.55	4.35
	満足	5	4,806	708	643	645	751	1,166	742	129
	ほぼ満足	4	3,054	390	353	428	445	830	453	128
	どちらとも言えない	3	998	159	100	189	100	239	156	51
	やや不満	2	233	53	13	33	13	70	31	19
	不満	1	104	37	8	17	4	20	13	5
	平均点		4.33	4.25	4.44	4.26	4.47	4.31	4.35	4.08

表 1-2 令和3年度授業評価アンケート 学部別集計結果 前期【質問8～14】

講義番号		係数	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
学部										
学科										
曜限										
主担当教員										
実施教員										
科目名										
受講者数			16,077	2,955	2,058	1,986	1,822	4,709	2,028	463
回答者数			9,195	1,347	1,117	1,312	1,313	2,325	1,395	332
回答率			57.2%	45.6%	54.3%	66.1%	72.1%	49.4%	68.8%	71.7%
【質問8】関連学習 この授業に関して、1回の授業あたり平均してどのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか？	3時間以上	5	599	57	64	130	63	222	56	4
	2～3時間未満	4	952	110	101	134	103	382	102	16
	1～2時間未満	3	2,882	389	322	415	436	806	400	102
	30分～1時間未満	2	2,830	471	347	367	498	569	461	101
	30分未満	1	1,932	320	283	266	213	346	376	109
	平均点		2.51	2.34	2.39	2.62	2.47	2.81	2.28	2.11
【質問9】集中力 授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全くない	5	4,736	660	461	641	619	1,476	724	136
	ほとんどない	4	3,021	422	435	422	496	654	444	123
	どちらとも言えない	3	1,051	188	165	195	141	139	163	51
	しばしばある	2	318	58	45	41	53	52	52	17
	毎回ある	1	69	19	11	13	4	4	12	5
	平均点		4.31	4.22	4.15	4.25	4.27	4.53	4.30	4.11
【質問10】出席状況 授業には特別な事情（公認欠席、忌引きなど）を除き、出席していますか？	全出席	5	6,921	903	778	932	956	2,082	995	237
	ほぼ出席	4	1,820	346	279	292	307	205	306	73
	ときどき欠席する	3	328	71	37	63	41	29	64	19
	やや欠席が多い	2	98	23	17	19	7	9	21	2
	欠席が大変多い	1	28	4	6	6	2	0	9	1
	平均点		4.69	4.57	4.62	4.62	4.68	4.88	4.62	4.64
【質問11】知識や技能の深まり この授業を受講して、あなたの知識や技能は深まっていますか？	大いに深まっている	5	4,159	560	552	591	654	1,071	578	133
	やや深まっている	4	3,864	547	455	530	562	1,005	593	145
	どちらとも言えない	3	892	171	91	144	86	184	165	46
	あまり深まっていない	2	208	51	8	30	9	56	46	6
	全く深まっていない	1	72	18	11	17	2	9	13	2
	平均点		4.29	4.17	4.37	4.26	4.41	4.32	4.20	4.21
【質問12】質問への積極性 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？	学修が十分進んでおり、質問の必要がない	5	4,301	765	560	565	648	853	697	185
	しばしば質問する	4	762	82	112	162	123	154	115	11
	ときどき質問する	3	1,045	101	161	202	166	233	145	28
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	2,811	377	259	356	347	954	403	102
	学修に取り組んでいないため、質問すべきことがみつからない	1	276	22	25	27	29	131	35	6
	平均点		3.65	3.88	3.83	3.67	3.77	3.28	3.74	3.80
【質問13】意欲の高まり この授業を受講して、授業内容を更に詳しく学びたいと思いますか？	大いに思う	5	3,594	454	487	567	587	901	488	98
	やや思う	4	3,615	491	443	474	522	972	552	130
	どちらとも言えない	3	1,498	266	142	206	166	354	273	82
	あまり思わない	2	368	99	32	43	33	80	62	17
	全く思わない	1	120	37	13	22	5	18	20	5
	平均点		4.11	3.91	4.22	4.16	4.26	4.14	4.02	3.90
【質問14】学修の成果 この授業であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	十分に成果はあがっている	5	3,410	503	475	518	473	845	483	99
	少し成果はあがっている	4	4,229	560	488	565	662	1,126	640	159
	どちらとも言えない	3	1,240	210	130	172	156	291	207	64
	あまり成果はあがっていない	2	242	58	14	39	20	50	51	9
	全く成果はあがっていない	1	74	16	10	18	2	13	14	1
	平均点		4.16	4.10	4.26	4.16	4.21	4.18	4.09	4.04
【質問8】～【質問14】の平均			3.96	3.89	3.98	3.96	4.01	4.02	3.90	3.83

表 2-1 令和3年度授業評価アンケート 学部別集計結果 後期【質問1～7】

講義番号										
学部										
学科										
曜限										
主担当教員										
実施教員										
科目名										
受講者数		15,132	2,503	2,055	2,032	2,082	4,119	2,008	34	
回答者数		7,831	1,087	1,000	1,260	1,235	2,001	1,048	15	
回答率		51.8%	43.4%	48.7%	62.0%	59.3%	48.6%	52.2%	44.1%	
【質問1】授業準備 授業の準備は適切になされていると思いますか？	適切である	5	5,679	779	687	849	907	1,541	779	12
	ほぼ適切である	4	1,644	229	228	291	260	383	200	2
	どちらとも言えない	3	385	62	61	89	57	63	47	0
	やや不適切である	2	84	13	20	17	6	9	16	1
	不適切である	1	39	4	4	14	5	5	6	0
	平均点		4.64	4.62	4.57	4.54	4.67	4.72	4.65	4.67
【質問2】教員の話し方 教員の話は聞き取りやすいですか？／ (音声のない遠隔授業の場合は)資料は読みやすいですか？	聞き取りやすい(読みやすい)	5	4,989	716	631	735	780	1,335	680	9
	ほぼ聞き取りやすい(ほぼ読みやすい)	4	1,956	252	249	329	321	483	250	4
	どちらとも言えない	3	545	79	75	127	84	107	61	1
	やや聞き取りにくい(やや読みにくい)	2	249	27	37	45	39	57	41	0
	聞き取りにくい(読みにくい)	1	92	13	8	24	11	19	16	1
	平均点		4.47	4.50	4.46	4.35	4.47	4.53	4.47	4.33
【質問3】授業の計画性 授業はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	5,145	747	586	823	757	1,406	694	11
	ほぼ行われている	4	1,379	188	207	245	254	246	199	2
	どちらとも言えない	3	322	57	48	72	57	32	48	1
	やや異なっている	2	54	9	11	16	3	2	13	0
	全く異なっている	1	15	1	4	7	2	1	0	0
	シラバスを読んでいない	-	916	85	144	97	162	314	94	1
【質問4】授業時間 授業を遅く始めたり、早く終わったりしないで、授業時間を守っていますか？	守っている	5	5,192	724	625	859	801	1,327	735	10
	ほぼ守っている	4	1,396	196	186	240	235	330	171	3
	どちらとも言えない	3	350	56	55	77	49	64	40	2
	やや守っていない	2	94	6	15	16	7	21	22	0
	守っていない	1	45	9	4	11	2	9	9	0
	この授業は遠隔授業なのでわからない	-	754	96	115	57	141	250	71	0
【質問5】講義の工夫 教員は、授業内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか？	守っている	5	5,192	724	625	859	801	1,327	735	10
	ほぼ守っている	4	1,396	196	186	240	235	330	171	3
	どちらとも言えない	3	350	56	55	77	49	64	40	2
	やや守っていない	2	94	6	15	16	7	21	22	0
	守っていない	1	45	9	4	11	2	9	9	0
	この授業は遠隔授業なのでわからない	-	754	96	115	57	141	250	71	0
【質問6】質問への誠意 教員は、あなたの質問に誠意をもって答えていますか？	思う	5	5,078	739	631	743	813	1,333	699	11
	やや思う	4	1,921	242	249	322	302	509	240	2
	どちらとも言えない	3	577	81	86	130	86	104	73	1
	あまり思わない	2	182	21	24	40	26	46	20	1
	思わない	1	73	4	10	25	8	9	16	0
	平均点		4.50	4.56	4.47	4.36	4.53	4.55	4.51	4.53
【質問7】授業への満足度 この授業に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください	満足	5	3,584	568	514	624	579	649	569	10
	ほぼ満足	4	911	141	123	173	164	134	152	4
	どちらとも言えない	3	477	89	63	109	71	64	67	0
	やや不満	2	57	7	12	20	5	6	7	0
	不満	1	28	1	2	13	2	3	7	0
	平均点		4.58	4.57	4.59	4.46	4.60	4.66	4.58	4.71
【質問1】～【質問7】の平均			4.55	4.57	4.51	4.45	4.57	4.62	4.55	4.57

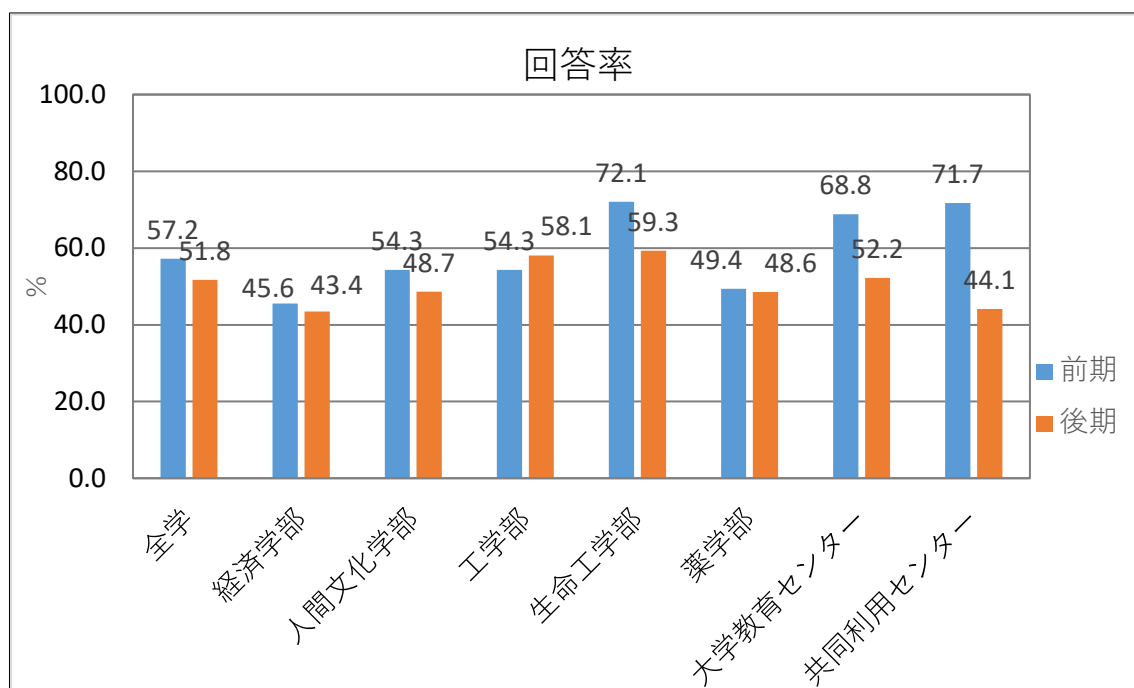
表 2-2 令和3年度授業評価アンケート 学部別集計結果 後期【質問8～14】

講義番号		係数	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
学部										
学科										
曜限										
主担当教員										
実施教員										
科目名										
受講者数			15,132	2,503	2,055	2,032	2,082	4,119	2,008	34
回答者数			7,831	1,087	1,000	1,260	1,235	2,001	1,048	15
回答率			51.8%	43.4%	48.7%	62.0%	59.3%	48.6%	52.2%	44.1%
【質問8】 関連学習 この授業に関して、1回の授業あたり平均してどのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか？	3時間以上	5	632	72	44	178	58	218	56	0
	2～3時間未満	4	793	97	73	132	82	310	88	0
	1～2時間未満	3	2,206	299	266	340	324	660	283	2
	30分～1時間未満	2	2,346	339	315	329	429	526	334	6
	30分未満	1	1,854	280	302	281	342	287	287	7
	平均点		2.49	2.39	2.24	2.68	2.26	2.82	2.32	1.67
【質問9】 集中力 授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全くない	5	3,965	522	397	529	608	1,265	573	5
	ほとんどない	4	2,506	355	382	436	414	560	282	8
	どちらとも言えない	3	923	150	158	195	139	109	139	1
	しばしばある	2	352	46	54	79	61	57	40	1
	毎回ある	1	85	14	9	21	13	10	14	0
	平均点		4.27	4.22	4.10	4.09	4.25	4.51	4.30	4.13
【質問10】 出席状況 授業には特別な事情（公認欠席、忌引きなど）を除き、出席していますか？	全出席	5	5,490	627	656	761	816	1,832	675	4
	ほぼ出席	4	1,840	356	263	376	336	145	305	9
	ときどき欠席する	3	362	74	51	80	70	21	51	2
	やや欠席が多い	2	114	25	27	33	8	3	15	0
	欠席が大変多い	1	25	5	3	10	5	0	2	0
	平均点		4.62	4.45	4.54	4.46	4.58	4.90	4.56	4.13
【質問11】 知識や技能の深まり この授業を受講して、あなたの知識や技能は深まっていますか？	大いに深まっている	5	3,756	522	467	601	628	981	490	9
	やや深まっている	4	3,140	430	408	471	482	843	409	4
	どちらとも言えない	3	693	105	85	133	101	148	97	1
	あまり深まっていない	2	192	28	29	40	19	25	41	0
	全く深まっていない	1	50	2	11	15	5	4	11	1
	平均点		4.32	4.33	4.29	4.27	4.38	4.39	4.27	4.33
【質問12】 質問への積極性 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？	学修が十分進んでおり、質問の必要がない	5	3,682	562	523	518	622	847	515	11
	しばしば質問する	4	789	142	95	174	99	130	130	0
	ときどき質問する	3	997	122	128	217	151	231	132	0
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	2,104	241	230	316	307	706	239	4
	学修に取り組んでいないため、質問すべきことがみつからない	1	259	20	24	35	56	87	32	0
	平均点		3.71	3.91	3.86	3.65	3.75	3.47	3.82	4.20
【質問13】 意欲の高まり この授業を受講して、授業内容を更に詳しく学びたいと思いますか？	大いに思う	5	3,172	440	377	527	551	805	425	8
	やや思う	4	2,989	382	396	448	449	851	376	6
	どちらとも言えない	3	1,203	191	162	207	168	264	161	1
	あまり思わない	2	333	58	45	56	48	59	56	0
	全く思わない	1	134	16	20	22	19	22	30	0
	平均点		4.12	4.08	4.07	4.11	4.19	4.18	4.06	4.47
【質問14】 学修の成果 この授業であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	十分に成果はあがっている	5	3,212	465	409	517	529	790	445	8
	少し成果はあがっている	4	3,451	450	454	511	539	964	433	4
	どちらとも言えない	3	927	152	102	167	140	212	120	2
	あまり成果はあがっていない	2	186	18	26	53	18	31	33	1
	全く成果はあがっていない	1	55	2	9	12	9	4	17	0
	平均点		4.22	4.25	4.23	4.17	4.26	4.25	4.20	4.27
【質問8】～【質問14】の平均			3.96	3.95	3.91	3.92	3.95	4.07	3.93	3.89

(2) アンケート回答率について

令和 2 年度前期の授業評価アンケートは、コロナ禍による影響で遠隔授業が始まったことから、本学の遠隔授業の実態を把握するため、従来の形式ではなく遠隔授業に特化した「遠隔授業アンケート」を実施した。令和 3 年度は遠隔授業も 1 年を過ぎたこともあり、前期および後期の授業評価アンケートともに従来の項目で実施した（質問 2 に関しては、遠隔授業でも対応できるよう、「（音声のない遠隔授業の場合では）資料は読みやすいですか？」の文言を質問内容に追加した）。

回答率をグラフに、実数を表に示した。全学平均では、前期が 57.2%、後期が 51.8%（令和 2 年度：前期（遠隔授業アンケート）53.2%、後期 52.1%）であった。例年前期と比べて後期は回答率が低くなる傾向がある。今後は学生へのアンケートの依頼方法についても再検討を行い、より多くの学生に協力してもらえるよう改善を図っていききたい。



▼令和 3 年度学生による授業評価アンケート 前期 回答率

	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
受講者数	16,077	2,955	2,058	1,986	1,822	4,709	2,028	463
回答者数	9,195	1,347	1,117	1,312	1,313	2,325	1,395	332
回答率 (%)	57.2	45.6	54.3	54.3	72.1	49.4	68.8	71.7

▼令和 3 年度学生による授業評価アンケート 後期 回答率

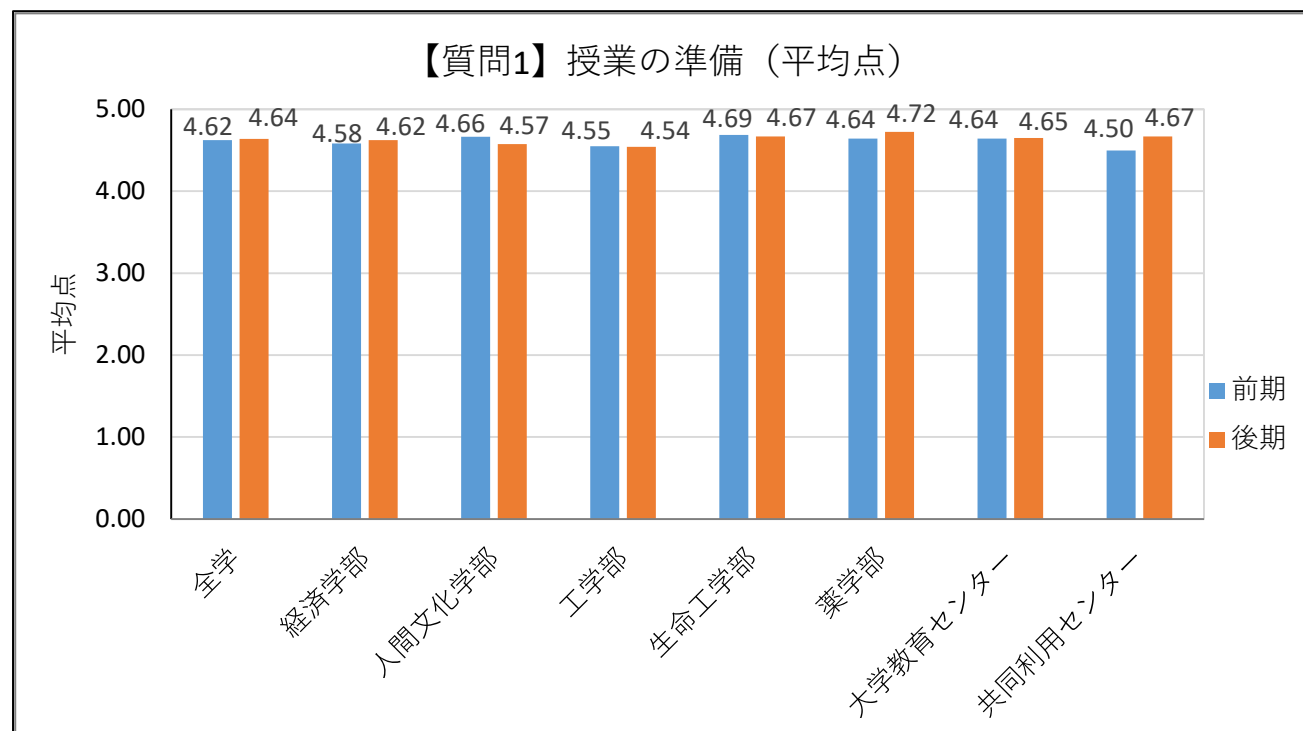
	全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
受講者数	15,132	2,503	2,055	2,032	2,082	4,119	2,008	34
回答者数	7,831	1,087	1,000	1,260	1,235	2,001	1,048	15
回答率 (%)	51.8	43.4	48.7	58.1	59.3	48.6	52.2	44.1

(3) 調査結果の内容（学生による授業評価結果について）

① 【質問 1】 授業準備について

教員の「授業準備」は、すべての学部・センターにおいて前後期とも 4.5 以上と高く評価されており、適切に実施されていると考えられた。

最高評価（回答の 5）の割合は、すべての学部・センターで 60%を超えていた。



▼令和 3 年度学生による授業評価アンケート 前期【質問 1】 授業準備 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問1】 授業準備 授業の準備が適切になされていると思いますか？	適切である	5	71.3%	70.7%	73.8%	66.5%	73.6%	72.6%	72.0%	63.9%
	ほぼ適切である	4	22.0%	20.3%	20.7%	24.2%	22.2%	21.3%	22.2%	25.9%
	どちらともいえない	3	5.1%	6.0%	4.3%	7.7%	3.4%	4.3%	4.7%	7.5%
	やや不適切である	2	1.1%	2.0%	0.7%	1.1%	0.5%	1.4%	0.6%	1.5%
	不適切である	1	0.6%	0.9%	0.5%	0.6%	0.2%	0.5%	0.6%	1.2%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

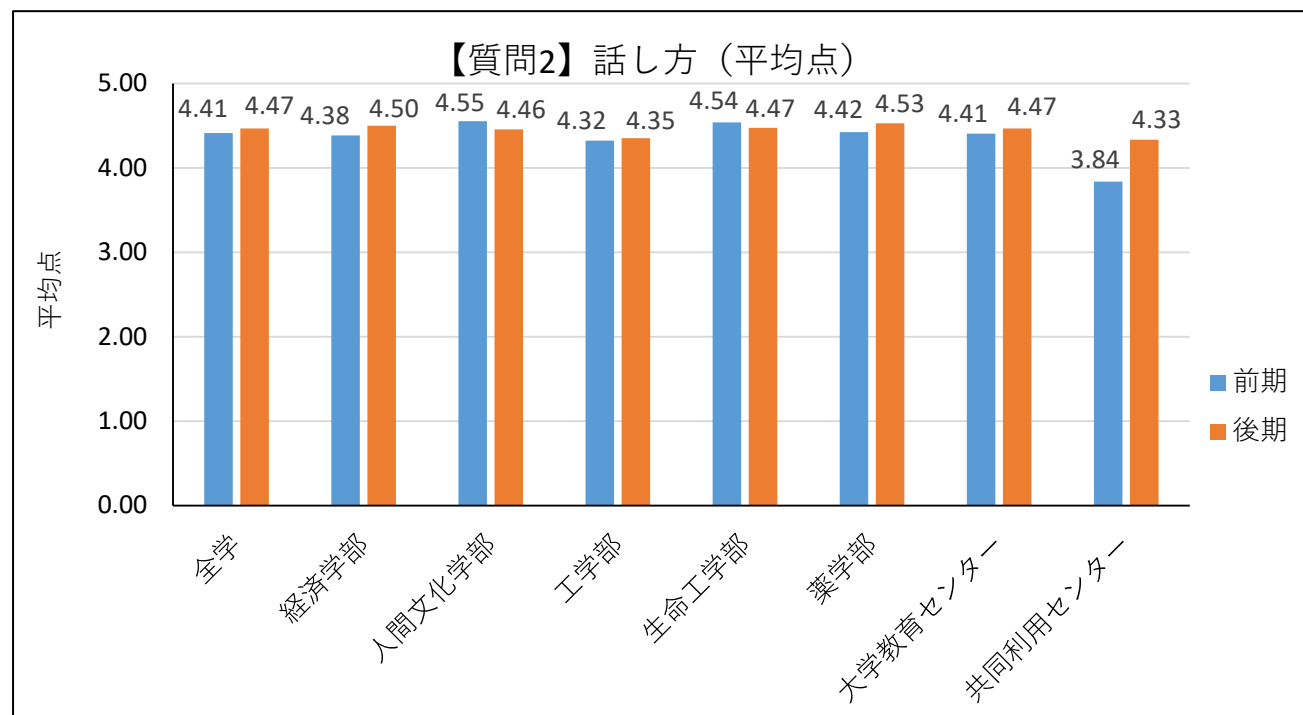
▼令和 3 年度学生による授業評価アンケート 前期【質問 1】 授業準備 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問1】 授業準備 授業の準備が適切になされていると思いますか？	適切である	5	72.5%	71.7%	68.7%	67.4%	73.4%	77.0%	74.3%	80.0%
	ほぼ適切である	4	21.0%	21.1%	22.8%	23.1%	21.1%	19.1%	19.1%	13.3%
	どちらともいえない	3	4.9%	5.7%	6.1%	7.1%	4.6%	3.1%	4.5%	0.0%
	やや不適切である	2	1.1%	1.2%	2.0%	1.3%	0.5%	0.4%	1.5%	6.7%
	不適切である	1	0.5%	0.4%	0.4%	1.1%	0.4%	0.2%	0.6%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 【質問2】話し方について

教員の「話し方」は、おおよその学部・センターにおいて前後期とも 4.3 以上と高く評価されていたが、共同利用センターの前期の平均点は 3.84 と他学部・センターと比較して若干低かった。

最高評価（回答の 5）の割合は、平均点の結果と同じく、共同利用センターの前期において「聞き取りやすい」と回答した学生が 41.3%と低かった。



▼令和 3 年度学生による授業評価アンケート 前期【質問2】話し方 回答割合

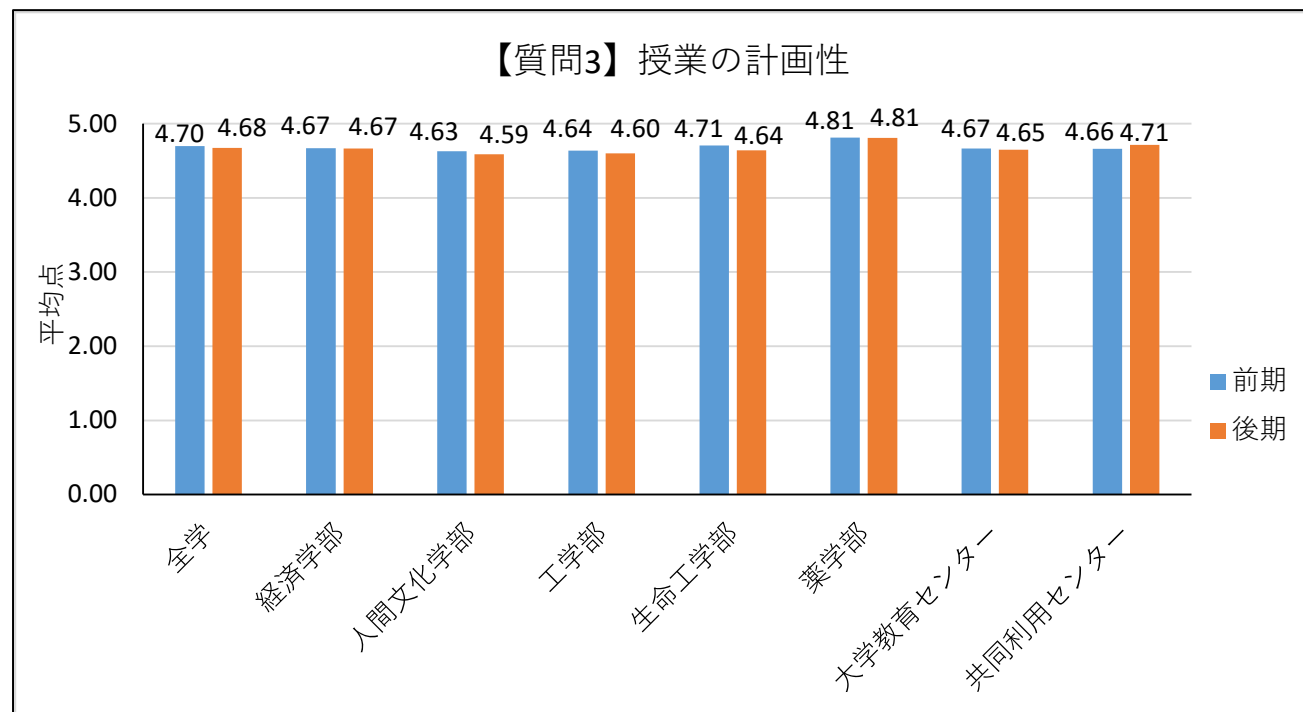
	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問2】 話し方 教員の話し方 は明確です か？	聞き取りやすい	5	61.6%	62.8%	68.2%	55.6%	64.6%	62.5%	61.1%	41.3%
	ほぼ聞き取りやすい	4	25.0%	22.2%	22.4%	28.6%	27.5%	24.3%	24.2%	27.7%
	どちらともいえない	3	8.2%	8.1%	6.8%	9.9%	5.5%	7.5%	10.5%	12.0%
	やや聞き取りにくい	2	3.7%	4.5%	1.8%	4.1%	2.1%	4.4%	2.9%	11.4%
	大変聞き取りにくい	1	1.5%	2.4%	0.8%	1.8%	0.3%	1.2%	1.4%	7.5%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

▼令和 3 年度学生による授業評価アンケート 後期【質問2】話し方 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問2】 話し方 教員の話し方 は明確です か？	聞き取りやすい	5	63.7%	65.9%	63.1%	58.3%	63.2%	66.7%	64.9%	60.0%
	ほぼ聞き取りやすい	4	25.0%	23.2%	24.9%	26.1%	26.0%	24.1%	23.9%	26.7%
	どちらともいえない	3	7.0%	7.3%	7.5%	10.1%	6.8%	5.3%	5.8%	6.7%
	やや聞き取りにくい	2	3.2%	2.5%	3.7%	3.6%	3.2%	2.8%	3.9%	0.0%
	大変聞き取りにくい	1	1.2%	1.2%	0.8%	1.9%	0.9%	0.9%	1.5%	6.7%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③ 【質問 3】授業の計画性について

「授業の計画性」は、すべての学部・センターにおいて前後期とも 4.5 以上と高く評価されており、適切に実施されていると考えられた。最高評価（回答の 5）の割合は、ほとんどの学部・センターにおいて 60%を超えていた。



▼令和 3 年度学生による授業評価アンケート 前期【質問 3】授業の計画性 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問3】 計画性 授業はシラバス通り行われていますか？	行われている	5	66.7%	66.1%	61.3%	68.6%	65.8%	68.6%	67.4%	66.0%
	ほぼ行われている	4	16.7%	17.7%	21.9%	18.3%	18.7%	10.3%	17.3%	19.9%
	どちらともいえない	3	4.1%	4.5%	4.7%	6.9%	3.0%	1.9%	5.4%	4.5%
	やや異なっている	2	0.4%	0.7%	0.4%	0.6%	0.4%	0.2%	0.4%	0.6%
	全く異なっている	1	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%
	シラバスを読んでいない	—	12.0%	10.8%	11.6%	5.5%	12.1%	18.8%	9.2%	9.0%
	計		33.3%	33.9%	38.7%	31.4%	34.2%	31.4%	32.6%	34.0%

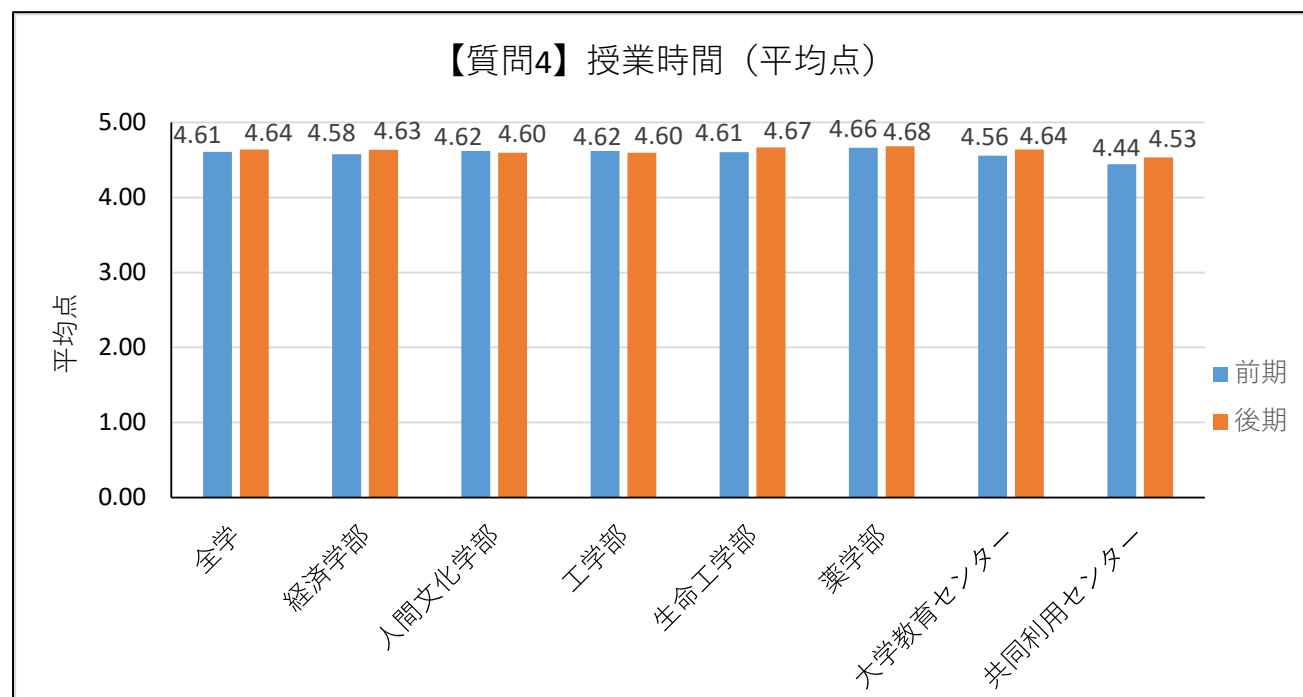
▼令和 3 年度学生による授業評価 アンケート 後期【質問 3】授業の計画性 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問3】 計画性 授業はシラバス通り行われていますか？	行われている	5	65.7%	68.7%	58.6%	65.3%	61.3%	70.3%	66.2%	73.3%
	ほぼ行われている	4	17.6%	17.3%	20.7%	19.4%	20.6%	12.3%	19.0%	13.3%
	どちらともいえない	3	4.1%	5.2%	4.8%	5.7%	4.6%	1.6%	4.6%	6.7%
	やや異なっている	2	0.7%	0.8%	1.1%	1.3%	0.2%	0.1%	1.2%	0.0%
	全く異なっている	1	0.2%	0.1%	0.4%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	シラバスを読んでいない	—	11.7%	7.8%	14.4%	7.7%	13.1%	15.7%	9.0%	6.7%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④ 【質問 4】 授業時間について

「授業時間」の遵守については、ほとんどの学部・センターにおいて前後期とも 4.5 以上と高く評価され、適切に実施されていると考えられた。

最高評価（回答の 5）の割合は前期ではほとんどの学部・センターにおいて 70%を超えていたが、後期ではほとんどの学部・センターにおいて 60%台であった。



▼令和 3 年度学生による授業評価アンケート 前期【質問 4】 授業時間 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問4】 授業時間 授業をあまりに遅く始めたり、早く終わったりしないで、90分間の授業時間を守っていますか？	守っている	5	73.0%	72.5%	71.1%	73.1%	73.8%	75.9%	71.3%	62.9%
	ほぼ守っている	4	18.1%	17.3%	21.5%	17.2%	17.0%	17.1%	18.1%	23.9%
	どちらともいえない	3	6.4%	6.7%	5.9%	8.4%	5.8%	5.1%	6.9%	8.5%
	やや守っていない	2	2.0%	2.4%	1.0%	1.2%	3.0%	1.3%	2.7%	4.4%
	守っていない	1	0.6%	1.1%	0.4%	0.1%	0.4%	0.6%	1.1%	0.4%
	この授業は遠隔授業なのでわからない	-	14.6%	11.8%	15.2%	11.6%	16.4%	15.7%	15.2%	22.1%
	計		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

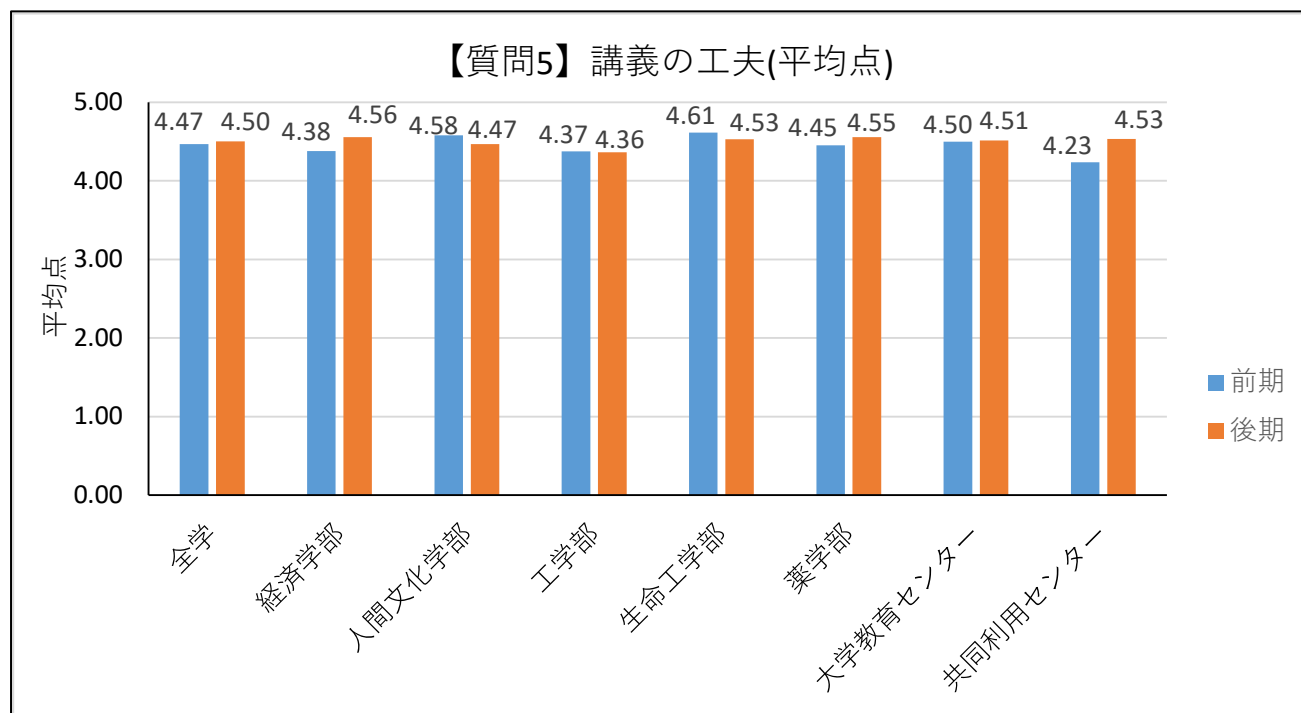
▼令和3年度学生による授業評価アンケート 後期【質問4】授業時間 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問4】 授業時間 授業をあまりに 遅く始めたり、 早く終わったり しないで、90分 間の授業時間を守 っていますか？	守っている	5	66.3%	66.6%	62.5%	68.2%	64.9%	66.3%	70.1%	66.7%
	ほぼ守っている	4	17.8%	18.0%	18.6%	19.0%	19.0%	16.5%	16.3%	20.0%
	どちらともいえない	3	4.5%	5.2%	5.5%	6.1%	4.0%	3.2%	3.8%	13.3%
	やや守っていない	2	1.2%	0.6%	1.5%	1.3%	0.6%	1.0%	2.1%	0.0%
	守っていない	1	0.6%	0.8%	0.4%	0.9%	0.2%	0.4%	0.9%	0.0%
	この授業は遠隔 授業なのでわか らない	-	9.6%	8.8%	11.5%	4.5%	11.4%	12.5%	6.8%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤ 【質問5】講義の工夫について

「講義の工夫」については、すべての学部・センターにおいて前後期とも4.2以上と高く評価されており、適切に実施されていると考えられた。

最高評価（回答の5）の割合は、50%台から70%台の範囲にあった。共同利用センターの前期が最も低く（51.2%）、共同利用センターの後期が最も高くなっていた（73.3%）。



▼令和3年度学生による授業評価アンケート 前期【質問5】講義の工夫 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問5】 講義の工夫 教員は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか？	思う	5	63.4%	63.0%	68.1%	58.4%	69.6%	62.4%	63.4%	51.2%
	やや思う	4	24.7%	21.5%	23.3%	26.4%	24.0%	25.5%	25.8%	27.4%
	どちらともいえない	3	8.3%	8.7%	7.3%	10.8%	4.9%	7.9%	8.5%	16.0%
	あまり思わない	2	2.6%	4.2%	0.8%	3.0%	1.1%	3.2%	1.7%	4.5%
	全く思わない	1	1.1%	2.7%	0.5%	1.4%	0.4%	0.9%	0.6%	0.9%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

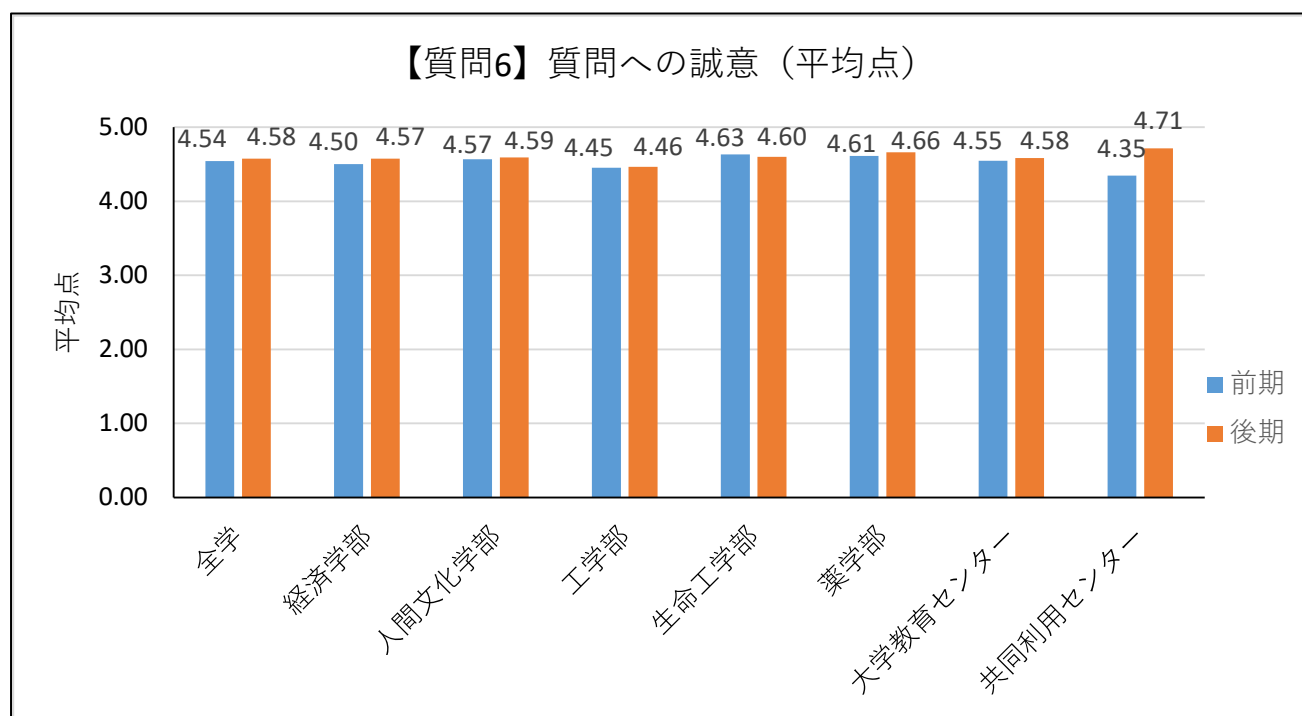
▼令和3年度学生による授業評価アンケート 後期【質問5】講義の工夫 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問5】 講義の工夫 教員は、科目内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか？	思う	5	64.8%	68.0%	63.1%	59.0%	65.8%	66.6%	66.7%	73.3%
	やや思う	4	24.5%	22.3%	24.9%	25.6%	24.5%	25.4%	22.9%	13.3%
	どちらともいえない	3	7.4%	7.5%	8.6%	10.3%	7.0%	5.2%	7.0%	6.7%
	あまり思わない	2	2.3%	1.9%	2.4%	3.2%	2.1%	2.3%	1.9%	6.7%
	全く思わない	1	0.9%	0.4%	1.0%	2.0%	0.6%	0.4%	1.5%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑥ 【質問6】質問への誠意について

「質問への誠意」については、すべての学部・センターにおいて前後期ともおおよそ4.3以上と高く評価されており、適切に実施されていると考えられた。

最高評価（回答の5）の割合は、薬学部において低い値が示された。薬学部では、質問したことがない学生の割合が、他の学部・センターよりも20%以上高いことが影響しているものと考えられる。これは昨年度も同じ傾向であった。



▼令和3年度学生による授業評価アンケート 前期【質問6】質問への誠意 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問6】質問への誠意 教員は、あなたの質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	41.6%	44.4%	50.6%	47.3%	45.5%	28.6%	45.7%	34.9%
	ほぼ誠意をもって答える	4	10.6%	10.9%	13.8%	13.4%	10.1%	6.2%	11.8%	13.3%
	どちらとも言えない	3	6.8%	8.5%	7.0%	9.1%	6.2%	3.5%	7.5%	11.7%
	やや誠意が感じられない	2	0.7%	1.0%	0.7%	1.7%	0.2%	0.3%	0.8%	0.6%
	誠意が感じられない	1	0.3%	0.4%	0.4%	0.7%	0.0%	0.2%	0.2%	0.3%
	質問したことがない	—	40.0%	34.7%	27.6%	27.7%	38.2%	61.1%	34.1%	39.2%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

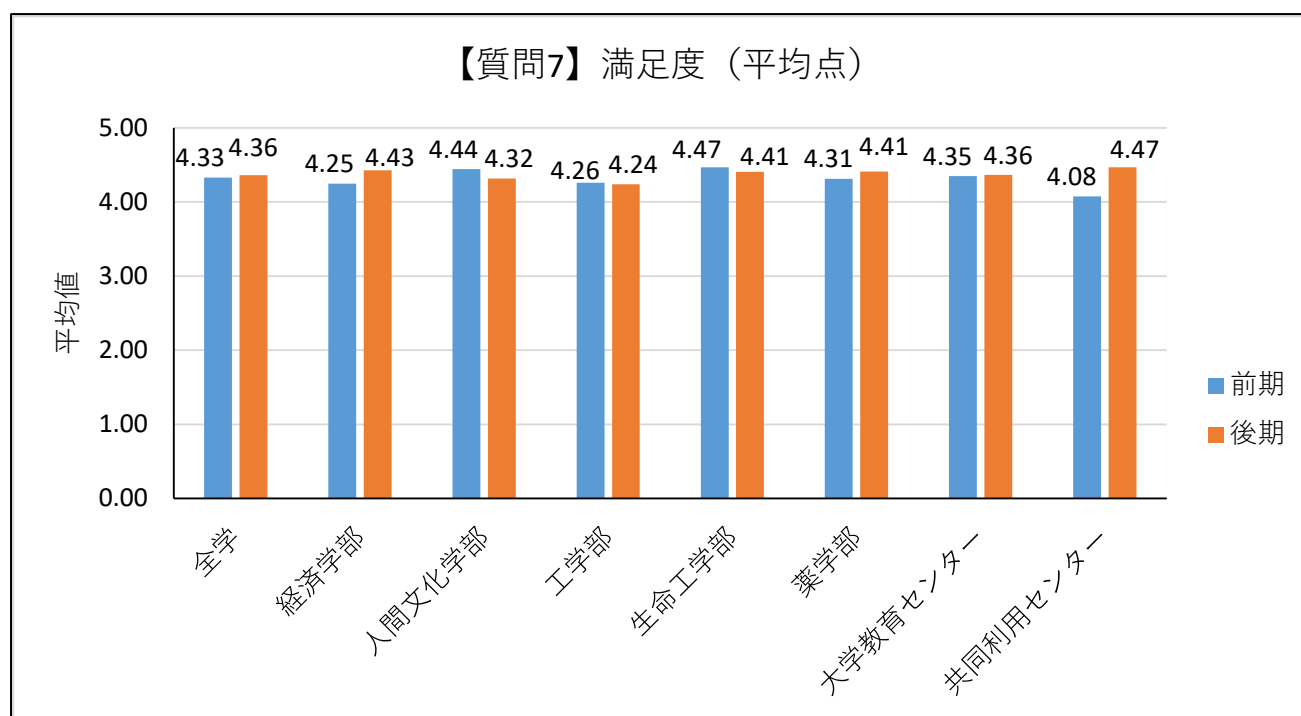
▼令和3年度学生による授業評価アンケート 後期【質問6】質問への誠意 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問6】質問への誠意 教員は、あなたの質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	45.8%	52.3%	51.4%	49.5%	46.9%	32.4%	54.3%	66.7%
	ほぼ誠意をもって答える	4	11.6%	13.0%	12.3%	13.7%	13.3%	6.7%	14.5%	26.7%
	どちらとも言えない	3	6.1%	8.2%	6.3%	8.7%	5.7%	3.2%	6.4%	0.0%
	やや誠意が感じられない	2	0.7%	0.6%	1.2%	1.6%	0.4%	0.3%	0.7%	0.0%
	誠意が感じられない	1	0.4%	0.1%	0.2%	1.0%	0.2%	0.1%	0.7%	0.0%
	質問したことがない	—	35.4%	25.9%	28.6%	25.5%	33.5%	57.2%	23.5%	6.7%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑦ 【質問7】講義の満足度について

「講義の満足度」については、すべての学部・センターにおいて前後期とも4.0以上と高く評価されており、適切に実施されていると考えられた。

最高評価（回答の5）の割合は、30%台から60%台の範囲にあった。共同利用センターの前期が最も低く（38.9%）、共同利用センターの後期が最も高くなっていた（66.7%）。



▼令和3年度学生による授業評価アンケート 前期【質問7】満足度 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問7】 授業への満足度 この授業に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください	満足	5	52.3%	52.6%	57.6%	49.2%	57.2%	50.2%	53.2%	38.9%
	ほぼ満足	4	33.2%	29.0%	31.6%	32.6%	33.9%	35.7%	32.5%	38.6%
	どちらとも言えない	3	10.9%	11.8%	9.0%	14.4%	7.6%	10.3%	11.2%	15.4%
	やや不満	2	2.5%	3.9%	1.2%	2.5%	1.0%	3.0%	2.2%	5.7%
	不満	1	1.1%	2.7%	0.7%	1.3%	0.3%	0.9%	0.9%	1.5%
	平均点		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

令和3年度学生による授業評価アンケート 後期【質問7】満足度 回答割合

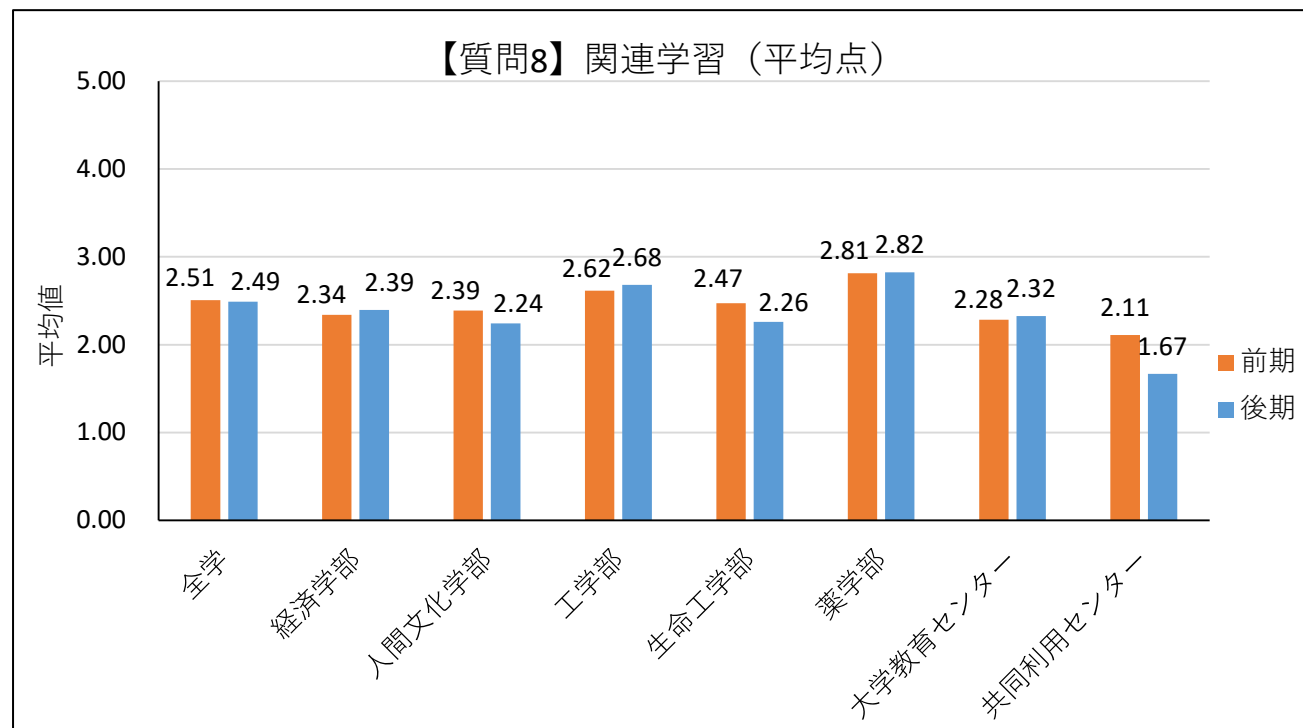
	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問7】 授業への満足度 この授業に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください	満足	5	54.4%	59.0%	52.2%	49.2%	57.1%	54.2%	57.3%	66.7%
	ほぼ満足	4	32.0%	28.2%	32.5%	33.0%	30.3%	35.2%	28.8%	26.7%
	どちらとも言えない	3	9.9%	9.8%	11.1%	12.1%	9.8%	8.1%	9.1%	0.0%
	やや不満	2	2.6%	2.7%	3.2%	3.8%	1.9%	1.9%	2.8%	0.0%
	不満	1	1.0%	0.4%	1.0%	1.8%	0.9%	0.5%	2.1%	6.7%
	平均点		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(4) 調査結果の内容（学生の自己点検について）

① 【質問8】 関連学習について

「関連学習（授業に関する予習や復習、あるいは関連の学習）」については、昨年度に続いてほとんどの学部・センターにおいて前後期とも 2.0 台であった。また、「関連学習の時間が 30 分未満」の学生は、

全学では前後期とも約 20%程度であり、令和 2 年度（後期 23.6%）の結果とほぼ同様であった。コロナ禍前の令和元年の授業評価アンケートでは、この「関連学習の時間が 30 分未満」と回答した学生の割合は、全学で 43.5%であったことから、令和 2 年度に引き続き、遠隔授業に関する課題やレポート作成により、授業時間外の時間が増えたためと考えられる。



▼令和 3 年度学生による授業評価アンケート 前期【質問 8】 関連学習 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問8】 関連学習 この授業に関し て、1回の講義 あたり平均して どのくらい予 習・復習、ある いは関連の学習 をしましたか？	3 時間以上	5	6.5%	4.2%	5.7%	9.9%	4.8%	9.5%	4.0%	1.2%
	2 ～ 3 時間未満	4	10.4%	8.2%	9.0%	10.2%	7.8%	16.4%	7.3%	4.8%
	1 ～ 2 時間未満	3	31.3%	28.9%	28.8%	31.6%	33.2%	34.7%	28.7%	30.7%
	30 分～1 時間未満	2	30.8%	35.0%	31.1%	28.0%	37.9%	24.5%	33.0%	30.4%
	30 分未満	1	21.0%	23.8%	25.3%	20.3%	16.2%	14.9%	27.0%	32.8%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

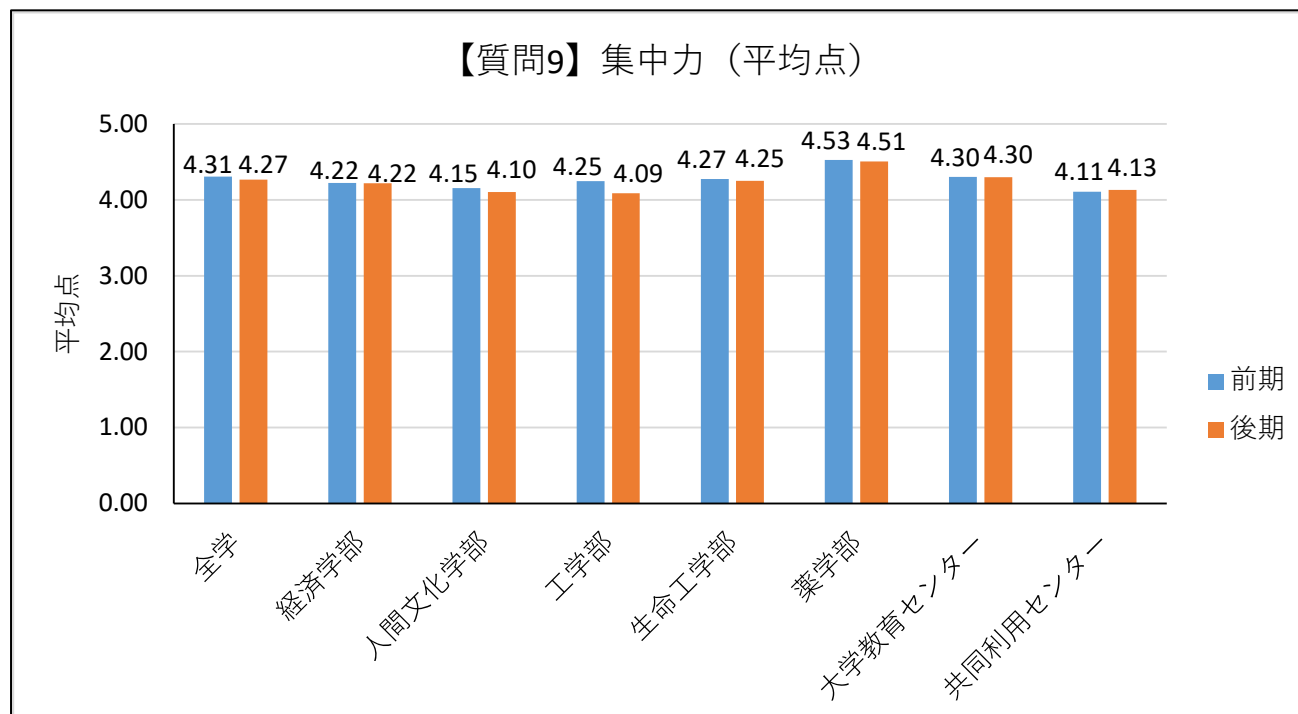
▼令和3年度学生による授業評価アンケート 後期【質問8】関連学習 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問8】 関連学習 この授業に関し て、1回の講義 あたり平均して どのくらい予 習・復習、ある いは関連の学習 をしましたか？	3時間以上	5	8.1%	6.6%	4.4%	14.1%	4.7%	10.9%	5.3%	0.0%
	2～3時間未満	4	10.1%	8.9%	7.3%	10.5%	6.6%	15.5%	8.4%	0.0%
	1～2時間未満	3	28.2%	27.5%	26.6%	27.0%	26.2%	33.0%	27.0%	13.3%
	30分～1時間未満	2	30.0%	31.2%	31.5%	26.1%	34.7%	26.3%	31.9%	40.0%
	30分未満	1	23.7%	25.8%	30.2%	22.3%	27.7%	14.3%	27.4%	46.7%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 【質問9】集中力について

「集中力」については、すべての学部・センターにおいて前後期とも4.1以上であり、高い自己評価となっている。

最高評価（回答の5）の割合は、薬学部が最も高かった（前期63.5%、後期63.2%）。



▼令和3年度学生による授業評価アンケート 前期【質問9】集中力 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問9】集中 力 授業中に私語、 居眠り、携帯電 話の操作、ある いは別のことを 考えることなど はありますか？	全くない	5	51.5%	49.0%	41.3%	48.9%	47.1%	63.5%	51.9%	41.0%
	ほとんどない	4	32.9%	31.3%	38.9%	32.2%	37.8%	28.1%	31.8%	37.0%
	どちらとも言えない	3	11.4%	14.0%	14.8%	14.9%	10.7%	6.0%	11.7%	15.4%
	しばしばある	2	3.5%	4.3%	4.0%	3.1%	4.0%	2.2%	3.7%	5.1%
	毎回ある	1	0.8%	1.4%	1.0%	1.0%	0.3%	0.2%	0.9%	1.5%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

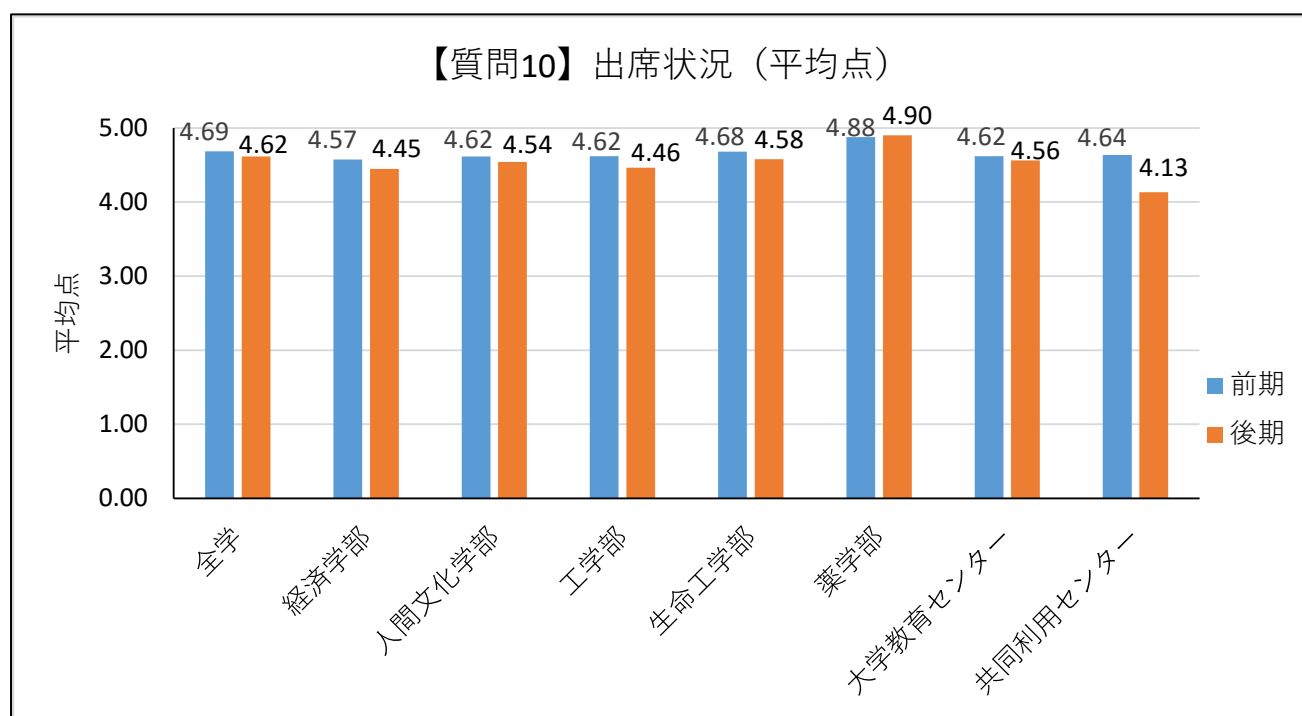
▼令和3年度学生による授業評価アンケート 後期【質問9】集中力 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問9】集中力 授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全くない	5	50.6%	48.0%	39.7%	42.0%	49.2%	63.2%	54.7%	33.3%
	ほとんどない	4	32.0%	32.7%	38.2%	34.6%	33.5%	28.0%	26.9%	53.3%
	どちらとも言えない	3	11.8%	13.8%	15.8%	15.5%	11.3%	5.4%	13.3%	6.7%
	しばしばある	2	4.5%	4.2%	5.4%	6.3%	4.9%	2.8%	3.8%	6.7%
	毎回ある	1	1.1%	1.3%	0.9%	1.7%	1.1%	0.5%	1.3%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

③ 【質問10】出席状況について

「出席状況」については、おおよその学部・センターにおいて4.5以上であり、高い自己評価となっている。出席確認を厳密に行って授業回数の1/5以上欠席した学生については担当教員が担任に連絡するというシステムが有効に機能しているものと考えられる。

最高評価（回答の5）の割合は、前後期とも薬学部が最も高く（前期89.5%、後期91.6%）、共同利用センターの後期が最も低かった（26.7%）。



▼令和3年度学生による授業評価アンケート 前期【質問10】出席状況 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問10】出席状況 授業には特別な事情（公認欠席、忌引きなど）を除き、出席していますか？	全出席	5	75.3%	67.0%	69.7%	71.0%	72.8%	89.5%	71.3%	71.4%
	ほぼ出席	4	19.8%	25.7%	25.0%	22.3%	23.4%	8.8%	21.9%	22.0%
	ときどき欠席する	3	3.6%	5.3%	3.3%	4.8%	3.1%	1.2%	4.6%	5.7%
	やや欠席が多い	2	1.1%	1.7%	1.5%	1.4%	0.5%	0.4%	1.5%	0.6%
	欠席が大変多い	1	0.3%	0.3%	0.5%	0.5%	0.2%	0.0%	0.6%	0.3%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

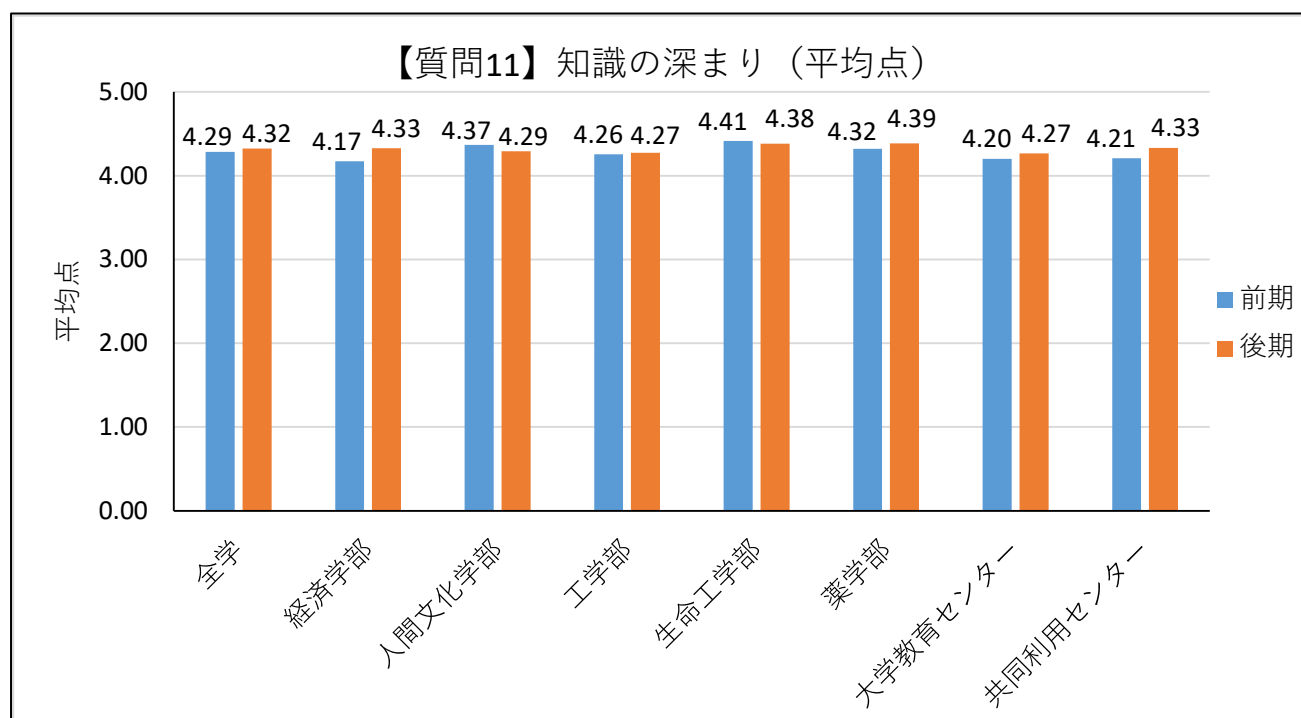
▼令和3年度学生による授業評価アンケート 後期【質問10】出席状況 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問10】出席状況 授業には特別な事情（公認欠席、忌引きなど）を除き、出席していますか？	全出席	5	70.1%	57.7%	65.6%	60.4%	66.1%	91.6%	64.4%	26.7%
	ほぼ出席	4	23.5%	32.8%	26.3%	29.8%	27.2%	7.2%	29.1%	60.0%
	ときどき欠席する	3	4.6%	6.8%	5.1%	6.3%	5.7%	1.0%	4.9%	13.3%
	やや欠席が多い	2	1.5%	2.3%	2.7%	2.6%	0.6%	0.1%	1.4%	0.0%
	欠席が大変多い	1	0.3%	0.5%	0.3%	0.8%	0.4%	0.0%	0.2%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④ 【質問11】知識の深まりについて

「知識の深まり」については、すべての学部・センターにおいて前後期とも4.1以上であり、高い自己評価となっている。

最高評価（回答の5）の割合は、40%台から60%台の範囲にあった。「知識がやや深まっている」（回答の4）と回答した学生とを合わせると、すべての学部・センターにおいて80%を超えることから、ほとんどの学生が、大学の授業を通して知識の深まりを実感していることが考えられた。



▼令和3年度学生による授業評価アンケート 前期【質問11】知識の深まり 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問11】 知識の深まり この科目を受 講して、あな たの知識は深 まっています か？	大いに深まっている	5	45.2%	41.6%	49.4%	45.0%	49.8%	46.1%	41.4%	40.1%
	やや深まっている	4	42.0%	40.6%	40.7%	40.4%	42.8%	43.2%	42.5%	43.7%
	どちらとも言えない	3	9.7%	12.7%	8.1%	11.0%	6.5%	7.9%	11.8%	13.9%
	あまり深まっていない	2	2.3%	3.8%	0.7%	2.3%	0.7%	2.4%	3.3%	1.8%
	全く深まっていない	1	0.8%	1.3%	1.0%	1.3%	0.2%	0.4%	0.9%	0.6%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

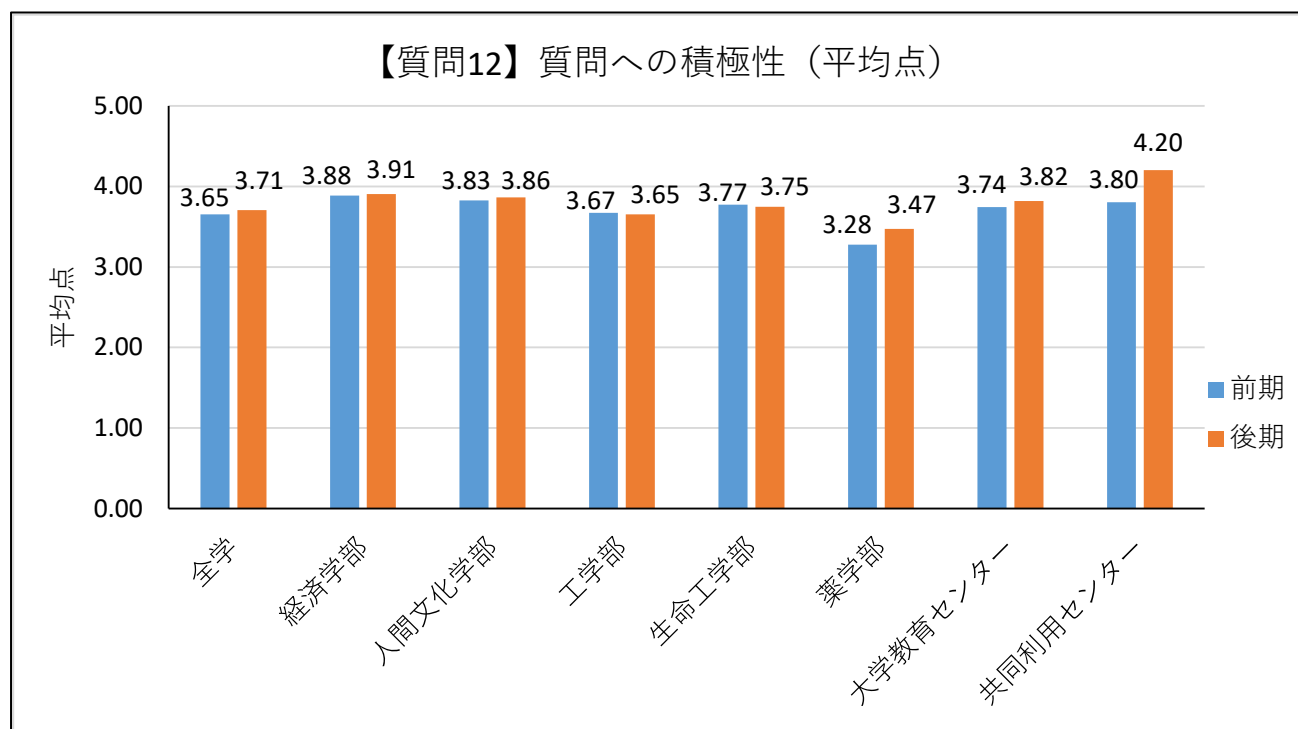
▼令和3年度学生による授業評価アンケート 後期【質問11】知識の深まり 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問11】 知識の深まり この科目を受 講して、あな たの知識は深 まっています か？	大いに深まっている	5	48.0%	48.0%	46.7%	47.7%	50.9%	49.0%	46.8%	60.0%
	やや深まっている	4	40.1%	39.6%	40.8%	37.4%	39.0%	42.1%	39.0%	26.7%
	どちらとも言えない	3	8.8%	9.7%	8.5%	10.6%	8.2%	7.4%	9.3%	6.7%
	あまり深まっていない	2	2.5%	2.6%	2.9%	3.2%	1.5%	1.2%	3.9%	0.0%
	全く深まっていない	1	0.6%	0.2%	1.1%	1.2%	0.4%	0.2%	1.0%	6.7%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑤ 【質問12】質問への積極性について

「質問への積極性」については、ほとんどの学部・センターにおいて前後期とも3.2以上の自己評価となっており、まだ改善の余地が残っている。

最高評価（回答の5）の割合は、30%台から70%台の範囲にあった。「質問はあるが、ほとんど質問していない」（回答の2）と回答した学生は、前後期ともに薬学部が多かった（前期41.0%、後期35.3%）。



▼令和3年度学生による授業評価アンケート 前期【質問12】質問への積極性 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問12】 質問への積極性 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？	学修が十分進んでおり、質問の必要がない	5	46.8%	56.8%	50.1%	43.1%	49.4%	36.7%	50.0%	55.7%
	しばしば質問する	4	8.3%	6.1%	10.0%	12.3%	9.4%	6.6%	8.2%	3.3%
	ときどき質問する	3	11.4%	7.5%	14.4%	15.4%	12.6%	10.0%	10.4%	8.4%
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	30.6%	28.0%	23.2%	27.1%	26.4%	41.0%	28.9%	30.7%
	学修に取り組んでいないため、質問すべきことがみつからない	1	3.0%	1.6%	2.2%	2.1%	2.2%	5.6%	2.5%	1.8%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

▼令和3年度学生による授業評価アンケート 後期【質問12】質問への積極性 回答割合

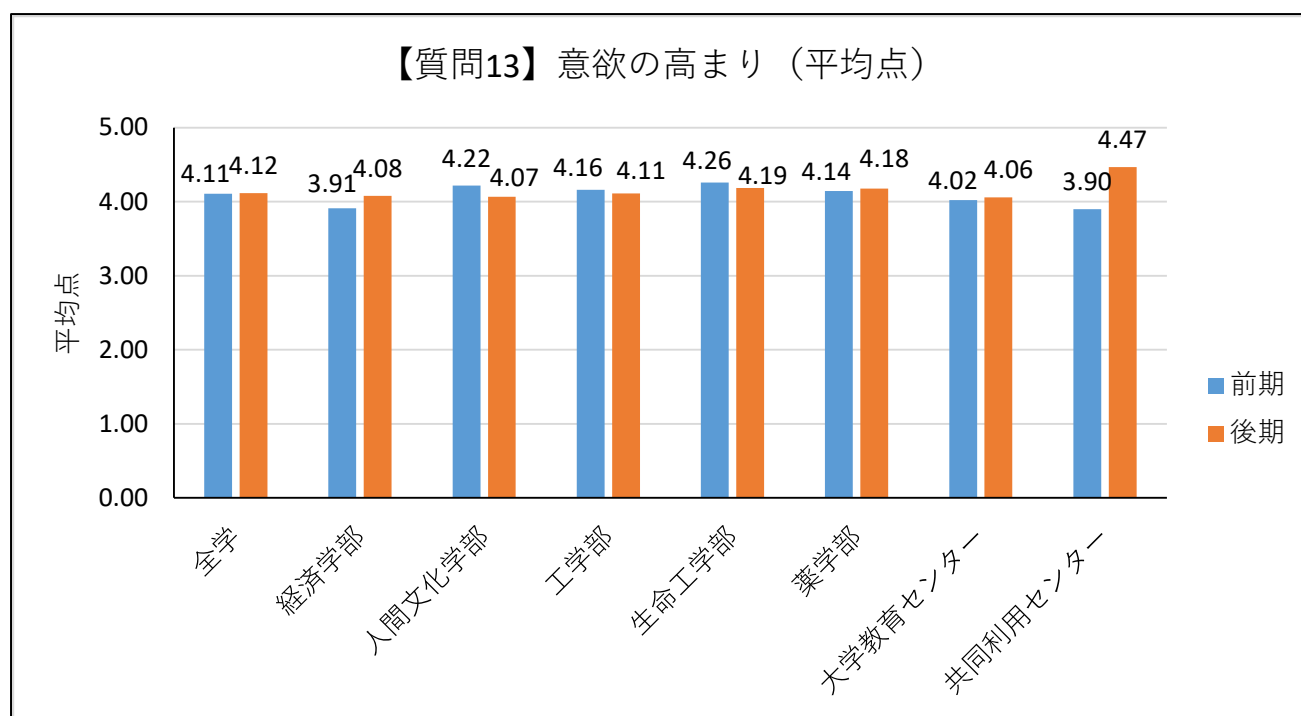
	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問12】 質問への積極性 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？	学修が十分進んでおり、質問の必要がない	5	47.0%	51.7%	52.3%	41.1%	50.4%	42.3%	49.1%	73.3%
	しばしば質問する	4	10.1%	13.1%	9.5%	13.8%	8.0%	6.5%	12.4%	0.0%
	ときどき質問する	3	12.7%	11.2%	12.8%	17.2%	12.2%	11.5%	12.6%	0.0%
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	26.9%	22.2%	23.0%	25.1%	24.9%	35.3%	22.8%	26.7%
	学修に取り組んでいないため、質問すべきことがみつからない	1	3.3%	1.8%	2.4%	2.8%	4.5%	4.3%	3.1%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑥ 【質問13】意欲の高まりについて

「意欲の高まり」については、すべての学部・センターにおいて前後期ともおおよそ 4.0 前後の自己評価となっており、おおむね良好であった。

最高評価（回答の 5）の割合は、20%台から 50%台の範囲にあった。最も低い値は、共同利用センターの前期で（29.5%）、最も高い値は同センターの後期であった（53.3%）。

本項目についてはまだ改善の余地があると考えられるので、学生の自己評価が上がるよう、授業担当教員にはさらなる授業内容・方法の改善が求められる。



▼令和3年度学生による授業評価アンケート 前期【質問13】意欲の高まり 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問13】 意欲の高まり この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思いますか？	大いに思う	5	39.1%	33.7%	43.6%	43.2%	44.7%	38.8%	35.0%	29.5%
	やや思う	4	39.3%	36.5%	39.7%	36.1%	39.8%	41.8%	39.6%	39.2%
	どちらともいえない	3	16.3%	19.7%	12.7%	15.7%	12.6%	15.2%	19.6%	24.7%
	あまり思わない	2	4.0%	7.3%	2.9%	3.3%	2.5%	3.4%	4.4%	5.1%
	全く思わない	1	1.3%	2.7%	1.2%	1.7%	0.4%	0.8%	1.4%	1.5%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

▼令和3年度学生による授業評価アンケート 後期【質問13】意欲の高まり 回答割合

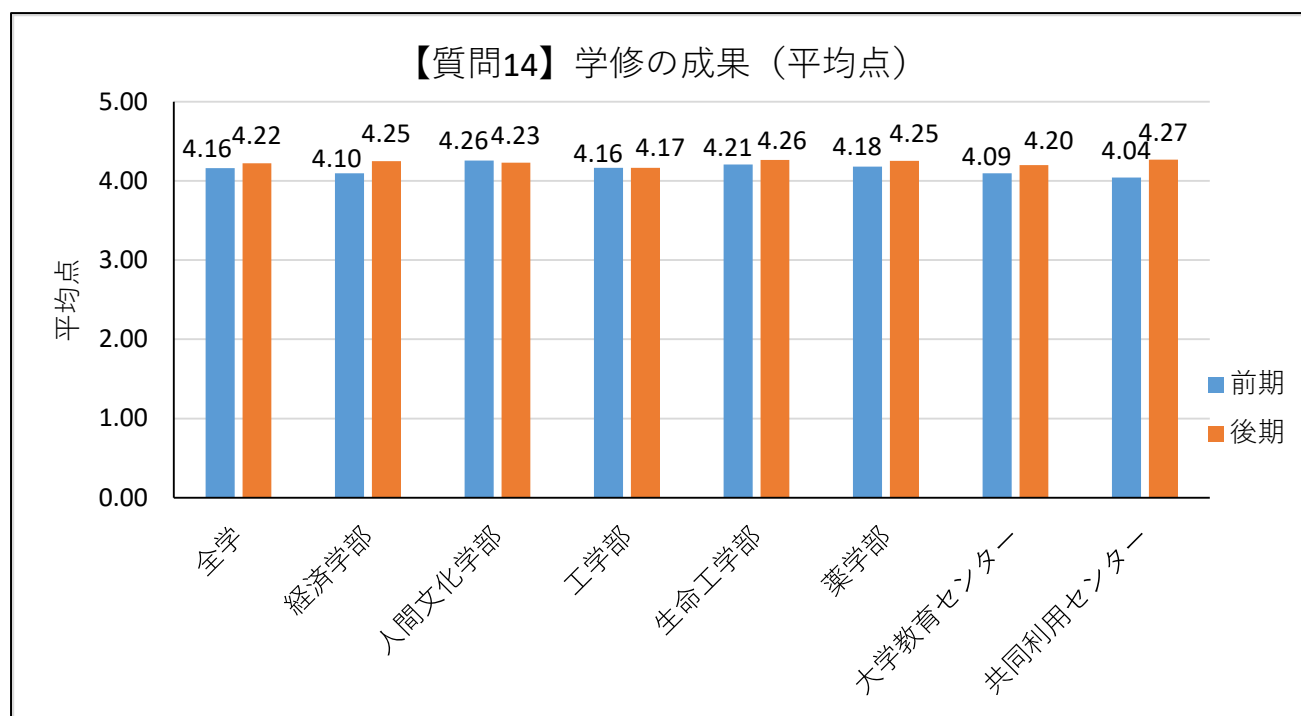
	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問13】 意欲の高まり この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思いますか？	大いに思う	5	40.5%	40.5%	37.7%	41.8%	44.6%	40.2%	40.6%	53.3%
	やや思う	4	38.2%	35.1%	39.6%	35.6%	36.4%	42.5%	35.9%	40.0%
	どちらともいえない	3	15.4%	17.6%	16.2%	16.4%	13.6%	13.2%	15.4%	6.7%
	あまり思わない	2	4.3%	5.3%	4.5%	4.4%	3.9%	2.9%	5.3%	0.0%
	全く思わない	1	1.7%	1.5%	2.0%	1.7%	1.5%	1.1%	2.9%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑦ 【質問14】学修の成果について

「学修の成果」については、すべての学部・センターにおいて前後期とも4.0以上であり、高い自己評価となっている。

最高評価（回答の5）の割合は、20%台から50%台の範囲にあった。最も低い値は、共同利用センタ

一の前期で（29.5%）、最も高い値は同センターの後期であった（53.5%）。



▼令和3年度学生による授業評価アンケート 前期【質問14】学習の成果 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問14】 学修の成果 この科目であ なたが得た成 果を5段階で 自己評価して ください。	大いに思う	5	37.1%	37.3%	42.5%	39.5%	36.0%	36.3%	34.6%	29.8%
	やや思う	4	46.0%	41.6%	43.7%	43.1%	50.4%	48.4%	45.9%	47.9%
	どちらともいえない	3	13.5%	15.6%	11.6%	13.1%	11.9%	12.5%	14.8%	19.3%
	あまり思わない	2	2.6%	4.3%	1.3%	3.0%	1.5%	2.2%	3.7%	2.7%
	全く思わない	1	0.8%	1.2%	0.9%	1.4%	0.2%	0.6%	1.0%	0.3%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

▼令和3年度学生による授業評価アンケート 後期【質問14】学習の成果 回答割合

	回答		全学	経済学部	人間文化学部	工学部	生命工学部	薬学部	大学教育センター	共同利用センター
【質問14】 学修の成果 この科目であ なたが得た成 果を5段階で 自己評価して ください。	大いに思う	5	41.0%	42.8%	40.9%	41.0%	42.8%	39.5%	42.5%	53.3%
	やや思う	4	44.1%	41.4%	45.4%	40.6%	43.6%	48.2%	41.3%	26.7%
	どちらともいえない	3	11.8%	14.0%	10.2%	13.3%	11.3%	10.6%	11.5%	13.3%
	あまり思わない	2	2.4%	1.7%	2.6%	4.2%	1.5%	1.5%	3.1%	6.7%
	全く思わない	1	0.7%	0.2%	0.9%	1.0%	0.7%	0.2%	1.6%	0.0%
	計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4. 全学、学部・センターの全体総括

全学レベル、学部・センターレベルでの授業評価アンケート結果を分析すると、本学では全体的に以下の特徴が認められる。

(1) 学生による授業評価結果（質問 1～質問 7）

- 全学およびほぼすべての学部・センターにおいて、質問 1～質問 7 の各平均点は 4.2 以上あり（共同利用センター前期の「教員の話し方」のみ 3.84）、良好である。
- 学生による総合的な授業評価（質問 1～質問 7 の点数を平均した値）は、全学およびすべての学部・センターで 4.5 前後であり、高く評価されている。

以上の結果より、全学および学部・センターレベルにおいて、本学の授業は学生により高く評価されていることが示された。しかしながら、個々の授業では、低評価のものも認められている。担当教員は学生からの意見を真摯に受け止め、さらなる授業改善に取り組む必要がある。今後も、自己点検・評価を繰り返しながら、さらなる向上を目指して授業に取り組んでいきたい。

(2) 学生の自己点検（質問 8～14）

- 全学および学部・センターレベルにおいて、質問 8 の「関連学習」については平均点が 2.0 以上 3.0 未満である。
- 全学および学部・センターレベルにおいて、質問 10 の「出席状況」については平均点が 4.1 以上である。
- 全学および学部・センターレベルにおいて、質問 12 の「質問への積極性」については、質問 8 と同様に依然として平均点が低い傾向にある。
- その他の質問項目については、平均点はほぼ 4.0 以上であり、おおむね良好である。

学生の自己点検結果は、全体的には昨年度に引き続きおおむね良好であると判断できる。しかし、質問 8 の「関連学習」に関しては、コロナ禍による遠隔授業において反転授業の導入や、レポートによる課題等が増えたことにより数値が改善したものの、昨年度に引き続き依然として低い評価となっている。学科によっては授業数・授業コマ数が多すぎて学生が関連学習まで手が回っていないという可能性も無視できない。この問題の解決にはカリキュラムの精査が必要かもしれない。

また質問 10 と 12 の結果は、授業には真面目に出席するものの、質問への積極性にはやや欠けるといふ本学の学生像を反映していると考えられる。質問への積極性に関しては、教員がハード面（ICT を用いた質問方法の工夫など）やソフト面（学生と教員の距離感を近づけるコミュニケーションの工夫など）の両方を通した、より質問をしやすい環境づくりが必要である。

各学科・センターごとの詳細な分析と総括は、「5. 学科の授業評価アンケート結果（p.27～30）」および「6. 学科、センターの個別総括（p.31～81）」を参照していただきたい。今後も、学科・センターレベルでの授業改善を通して、全学的な授業の向上を目指していきたい。

5. 学科の授業評価アンケート結果

(1) 学科の集計結果一覧

全学、学科単位の集計結果を以下に示す（表3：前期、表4：後期）。

なお、全学の各種値は、各センターとRI室を含めた値のため、本表の全学科の合計値とは一致していない。

表3-1 令和3年度授業評価アンケート 学科別集計結果 前期【質問1～7】

講義番号		係数	全学	経済学科	国際経済学科	税務会計学科	人間文化学科	心理学科	メディア・映像学科	スマートシステム学科	建築学科	情報工学科	機械システム工学科	生物工学科	生命栄養科学科	海洋生物科学科	薬学科	
学部																		
学科																		
曜限																		
主担当教員																		
実施教員																		
科目名																		
			16,077	1,688	818	449	604	884	570	316	785	456	429	342	416	1,064	4,709	
			9,195	786	344	217	300	508	309	220	526	230	336	287	266	760	2,325	
			57.2%	46.6%	42.1%	48.3%	49.7%	57.5%	54.2%	69.6%	67.0%	50.4%	78.3%	83.9%	63.9%	71.4%	49.4%	
【質問1】 授業準備	適切である	5	6,553	571	215	167	225	406	193	140	350	146	236	187	179	601	1,687	
	ほぼ適切である	4	2,020	164	71	39	57	84	90	62	120	60	75	83	71	138	495	
	どちらとも言えない	3	467	37	36	8	14	14	20	13	49	17	22	15	14	16	100	
	やや不適切である	2	103	11	14	2	3	3	2	3	5	5	1	1	2	4	32	
	不適切である	1	52	3	8	1	1	1	4	2	2	2	2	1	0	1	11	
	平均点		4.62	4.64	4.37	4.70	4.67	4.75	4.51	4.52	4.54	4.49	4.61	4.58	4.61	4.76	4.64	
【質問2】 教員の話し方	聞き取りやすい(読みやすい)	5	5,663	502	181	163	198	387	177	121	292	128	189	171	157	520	1,454	
	ほぼ聞き取りやすい(ほぼ読みやすい)	4	2,296	195	70	34	70	89	91	75	134	65	101	90	85	186	565	
	どちらとも言えない	3	751	55	39	15	26	24	26	15	60	22	33	19	17	36	174	
	やや聞き取りにくい(やや読みにくい)	2	343	25	31	4	4	6	10	7	28	9	10	5	7	16	103	
	聞き取りにくい(読みにくい)	1	142	9	23	1	2	2	5	2	12	6	3	2	0	2	29	
	平均点		4.41	4.47	4.03	4.63	4.53	4.68	4.38	4.39	4.27	4.30	4.38	4.47	4.47	4.59	4.42	
【質問3】 授業の計画性	行われている	5	6,129	540	211	139	192	335	158	147	365	156	232	170	179	515	1,596	
	ほぼ行われている	4	1,532	143	58	38	59	95	91	41	104	32	63	72	50	123	240	
	どちらとも言えない	3	379	29	23	8	19	12	21	13	45	18	15	14	10	16	44	
	やや異なっている	2	41	4	3	3	1	2	1	1	4	1	2	4	1	0	5	
	全く異なっている	1	9	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	
	シラバスを読んでいない	-	1,105	70	48	28	28	64	38	18	7	23	24	27	26	106	437	
	平均点		4.70	4.70	4.60	4.65	4.62	4.72	4.50	4.65	4.60	4.66	4.68	4.57	4.70	4.76	4.81	
【質問4】 授業時間	守っている	5	5,855	520	211	143	178	313	199	136	346	145	233	196	186	450	1,525	
	ほぼ守っている	4	1,449	126	52	30	52	88	69	34	86	28	54	40	31	121	343	
	どちらとも言えない	3	514	43	24	14	11	29	17	19	39	20	21	24	11	30	103	
	やや守っていない	2	159	17	9	3	4	5	1	1	8	4	1	4	9	21	27	
	守っていない	1	49	5	8	0	0	3	1	0	0	0	1	4	0	1	12	
	この授業は遠隔授業なのでわからない	-	1,169	75	40	27	55	70	22	30	47	33	26	19	29	137	315	
	平均点		4.61	4.60	4.48	4.65	4.65	4.61	4.62	4.61	4.61	4.59	4.67	4.57	4.66	4.60	4.66	
【質問5】 講義の工夫	思う	5	5,828	518	176	154	210	382	169	134	296	131	205	183	172	559	1,450	
	やや思う	4	2,268	178	70	41	63	99	98	55	137	60	94	80	71	164	594	
	どちらとも言えない	3	766	61	41	15	22	26	33	23	63	26	30	14	21	29	184	
	あまり思わない	2	235	21	32	4	3	1	5	6	20	10	4	7	2	6	75	
	思わない	1	98	8	25	3	2	0	4	2	10	3	3	3	0	2	22	
	平均点		4.47	4.50	3.99	4.56	4.59	4.70	4.37	4.42	4.31	4.33	4.47	4.51	4.55	4.67	4.45	
【質問6】 質問への誠意	誠意をもって答える	5	3,829	350	134	114	161	264	140	98	253	105	165	124	115	358	665	
	ほぼ誠意をもって答える	4	973	97	35	15	44	56	54	32	55	33	56	36	30	66	145	
	どちらとも言えない	3	621	63	38	14	23	29	26	17	60	16	27	23	19	39	81	
	やや誠意が感じられない	2	68	7	5	2	4	1	3	2	12	7	1	0	2	0	8	
	誠意が感じられない	1	27	2	3	0	1	0	3	1	5	1	2	0	0	0	5	
	質問したことがない	-	3,677	267	129	72	67	158	83	70	141	68	85	104	100	297	1,421	
	平均点		4.54	4.51	4.36	4.66	4.55	4.67	4.44	4.49	4.40	4.44	4.52	4.55	4.55	4.69	4.61	
【質問7】 授業への満足度	満足	5	4,806	419	150	139	176	327	140	97	280	105	163	140	140	471	1,166	
	ほぼ満足	4	3,054	245	87	58	89	147	117	83	145	82	118	113	97	235	830	
	どちらとも言えない	3	998	92	49	18	29	29	42	34	76	31	48	27	27	46	239	
	やや不満	2	233	21	31	1	4	5	4	4	19	6	4	6	2	5	70	
	不満	1	104	9	27	1	2	0	6	2	6	6	3	1	0	3	20	
	平均点		4.33	4.33	3.88	4.53	4.44	4.57	4.23	4.22	4.28	4.19	4.29	4.34	4.41	4.53	4.31	
【質問1】～【質問7】の平均				4.53	4.54	4.24	4.63	4.58	4.67	4.43	4.47	4.43	4.43	4.52	4.51	4.56	4.66	4.56

表 3-2 令和 3 年度授業評価アンケート 学科別集計結果 前期【質問 8～14】

講義番号		係数	全学	経済学科	国際経済学科	税務会計学科	人間文化学科	心理学科	メディア・映像学科	スマートフォンシステム学科	建築学科	情報工学科	機械システム工学科	生物工学科	生命栄養科学科	海洋生物科学科	薬学科
学部	学科																
曜限	担当教員																
実施教員	科目名																
受講者数			16,077	1,688	818	449	604	884	570	316	785	456	429	342	416	1,064	4,709
回答者数			9,195	786	344	217	300	508	309	220	526	230	336	287	266	760	2,325
回答率			57.2%	46.6%	42.1%	48.3%	49.7%	57.5%	54.2%	69.6%	67.0%	50.4%	78.3%	83.9%	63.9%	71.4%	49.4%
【質問8】関連学習 この授業に関して、1回の授業あたり平均してどのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか？	3時間以上	5	599	28	26	3	32	9	23	14	65	29	22	6	21	36	222
	2～3時間未満	4	952	62	32	16	33	35	33	27	43	33	31	22	9	72	382
	1～2時間未満	3	2,882	223	106	60	107	129	86	71	180	63	101	89	79	268	806
	30分～1時間未満	2	2,830	281	101	89	84	171	92	72	152	52	91	119	90	289	569
	30分未満	1	1,932	192	79	49	44	164	75	36	86	53	91	51	67	95	346
	平均点		2.51	2.30	2.49	2.24	2.75	2.12	2.47	2.60	2.71	2.71	2.41	2.35	2.35	2.56	2.81
【質問9】集中力 授業中に私語、居眠り、携帯電話の操作、あるいは別のことを考えることなどはありますか？	全くない	5	4,736	374	185	101	163	197	101	92	266	96	187	124	151	344	1,476
	ほとんどない	4	3,021	254	91	77	87	218	130	81	162	87	92	123	74	299	654
	どちらとも言えない	3	1,051	107	51	30	41	66	58	31	79	40	45	27	31	83	139
	しばしばある	2	318	40	11	7	7	23	15	12	15	6	8	13	9	31	52
	毎回ある	1	69	11	6	2	2	4	5	4	4	1	4	0	1	3	4
	平均点		4.31	4.20	4.27	4.24	4.34	4.14	3.99	4.11	4.28	4.18	4.34	4.25	4.37	4.25	4.53
【質問10】出席状況 授業には特別な事情（公認欠席、忌引きなど）を除き、出席していますか？	全出席	5	6,921	514	236	153	204	369	205	141	391	152	248	214	206	536	2,082
	ほぼ出席	4	1,820	208	86	52	81	111	87	55	113	54	70	59	53	195	205
	ときどき欠席する	3	328	46	16	9	10	18	9	17	16	16	14	12	6	23	29
	やや欠席が多い	2	98	15	5	3	4	8	5	6	5	4	4	2	1	4	9
	欠席が大変多い	1	28	3	1	0	1	2	3	1	1	4	0	0	0	2	0
	平均点		4.69	4.55	4.60	4.64	4.61	4.65	4.57	4.50	4.69	4.50	4.67	4.69	4.74	4.66	4.88
【質問11】知識や技能の深まり この授業を受講して、あなたの知識や技能は深まっていますか？	大いに深まっている	5	4,159	343	116	101	164	265	123	86	243	99	163	113	110	431	1,071
	やや深まっている	4	3,864	326	127	94	120	199	136	102	207	90	131	144	123	295	1,005
	どちらとも言えない	3	892	94	59	18	13	39	39	21	58	30	35	27	32	27	184
	あまり深まっていない	2	208	23	25	3	1	5	2	4	14	7	5	2	1	6	56
	全く深まっていない	1	72	0	17	1	2	0	9	7	4	4	2	1	0	1	9
	平均点		4.29	4.26	3.87	4.34	4.48	4.43	4.17	4.16	4.28	4.19	4.33	4.28	4.29	4.51	4.32
【質問12】質問への積極性 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？	学修が十分進んでおり、質問の必要がない	5	4,301	459	172	134	153	275	132	97	243	79	146	104	117	427	853
	しばしば質問する	4	762	47	20	15	32	47	33	24	53	39	46	24	24	75	154
	ときどき質問する	3	1,045	62	24	15	50	55	56	32	72	41	57	34	37	95	233
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	2,811	204	121	52	58	123	78	56	151	66	83	118	73	156	954
	学修に取り組んでいないため、質問すべきことがみつからない	1	276	14	7	1	7	8	10	11	7	5	4	7	15	7	131
	平均点		3.65	3.93	3.67	4.06	3.89	3.90	3.64	3.64	3.71	3.53	3.74	3.35	3.58	4.00	3.28
【質問13】意欲の高まり この授業を受講して、授業内容を更に詳しく学びたいと思いますか？	大いに思う	5	3,594	266	98	90	138	231	118	68	241	97	161	82	99	406	901
	やや思う	4	3,615	306	102	83	116	206	121	86	190	89	109	140	112	270	972
	どちらとも言えない	3	1,498	154	80	32	34	63	45	43	73	34	56	49	50	67	354
	あまり思わない	2	368	53	35	11	11	8	13	12	17	5	9	12	4	17	80
	全く思わない	1	120	7	29	1	1	0	12	11	5	5	1	4	1	0	18
	平均点		4.11	3.98	3.60	4.15	4.26	4.30	4.04	3.85	4.23	4.17	4.25	3.99	4.14	4.40	4.14
【質問14】学修の成果 この授業であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	十分に成果はあがっている	5	3,410	290	114	99	147	219	109	72	219	80	147	70	80	323	845
	少し成果はあがっている	4	4,229	353	116	91	122	225	141	108	213	106	138	156	139	367	1,126
	どちらとも言えない	3	1,240	115	73	22	27	59	44	24	80	28	40	48	45	63	291
	あまり成果はあがっていない	2	242	27	26	5	2	5	7	7	11	11	10	11	2	7	50
	全く成果はあがっていない	1	74	1	15	0	2	0	8	9	3	5	1	2	0	0	13
	平均点		4.16	4.15	3.84	4.31	4.37	4.30	4.09	4.03	4.21	4.07	4.25	3.98	4.12	4.32	4.18
【質問8】～【質問14】の平均			3.96	3.91	3.76	4.00	4.10	3.98	3.85	3.84	4.01	3.90	4.00	3.84	3.94	4.10	4.02

表 4-1 令和 3 年度授業評価アンケート 学科別集計結果 後期【質問 1～7】

講義番号		係数	全学	経済学科	国際経済学科	税務会計学科	人間文化学科	心理学科	メディア・映像学科	スマートシステム学科	建築学科	情報工学科	機械システム工学科	生物工学科	生命栄養科学科	海洋生物科学科	薬学科
学部																	
学科																	
曜限																	
主担当教員																	
実施教員																	
科目名																	
受講者数			15,132	1,357	606	540	869	783	403	515	780	409	328	359	430	1,293	4,119
回答者数			7,831	649	238	200	445	321	234	289	514	221	236	308	219	708	2,001
回答率			51.8%	47.8%	39.3%	37.0%	51.2%	41.0%	58.1%	56.1%	65.9%	54.0%	72.0%	85.8%	50.9%	54.8%	48.6%
【質問1】 授業準備 授業の準備は適切になされていると思いますか？	適切である	5	5,679	467	153	159	303	245	139	189	346	167	147	206	157	544	1,541
	ほぼ適切である	4	1,644	135	60	34	94	67	67	78	108	38	67	81	48	131	383
	どちらとも言えない	3	385	37	20	5	32	8	21	21	47	11	10	17	12	28	63
	やや不適切である	2	84	7	4	2	12	1	7	0	9	3	5	2	1	3	9
	不適切である	1	39	3	1	0	4	0	0	1	4	2	7	2	1	2	5
	平均点		4.64	4.63	4.51	4.75	4.53	4.73	4.44	4.57	4.52	4.65	4.45	4.58	4.64	4.71	4.72
【質問2】 教員の話し方 教員の話は聞き取りやすいですか？／ (音声のない遠隔授業の場合は)資料は読みやすいですか？	聞き取りやすい(読みやすい)	5	4,989	433	130	153	275	210	146	163	295	138	139	191	137	452	1,335
	ほぼ聞き取りやすい(ほぼ読みやすい)	4	1,956	145	70	37	91	91	67	87	130	48	64	86	64	171	483
	どちらとも言えない	3	545	51	21	7	51	10	14	34	60	15	18	16	12	56	107
	やや聞き取りにくい(やや読みにくい)	2	249	13	12	2	21	10	6	4	18	13	10	15	3	21	57
	聞き取りにくい(読みにくい)	1	92	7	5	1	7	0	1	1	11	7	5	0	3	8	19
	平均点		4.47	4.52	4.29	4.70	4.36	4.56	4.50	4.41	4.32	4.34	4.36	4.47	4.50	4.47	4.53
【質問3】 授業の計画性 授業はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	5,145	454	148	145	286	205	95	186	334	146	157	167	145	445	1,406
	ほぼ行われている	4	1,379	102	54	32	92	60	55	59	106	33	47	77	50	127	246
	どちらとも言えない	3	322	35	19	3	24	6	18	15	38	9	10	24	7	26	32
	やや異なっている	2	54	6	2	1	7	0	4	4	10	1	1	2	0	1	2
	全く異なっている	1	15	1	0	0	1	0	3	0	4	0	3	1	0	1	1
	シラバスを読んでいない	-	916	51	15	19	35	50	59	25	22	32	18	37	17	108	314
	平均点		4.68	4.68	4.56	4.77	4.60	4.73	4.34	4.62	4.54	4.71	4.62	4.50	4.68	4.69	4.81
【質問4】 授業時間 授業を遅く始めたり、早く終わったりしないで、授業時間を守っていますか？	守っている	5	5,192	439	138	147	285	188	152	166	360	167	166	217	151	433	1,327
	ほぼ守っている	4	1,396	113	52	31	83	53	50	63	78	44	55	85	43	107	330
	どちらとも言えない	3	350	32	18	6	27	9	19	24	38	6	9	5	11	33	64
	やや守っていない	2	94	5	1	0	8	1	6	5	7	0	4	1	3	3	21
	守っていない	1	45	6	2	1	2	0	2	2	4	3	2	0	0	2	9
	この授業は遠隔授業なのでわからない	-	754	54	27	15	40	70	5	29	27	1	0	0	11	130	250
	平均点		4.64	4.64	4.53	4.75	4.58	4.71	4.50	4.48	4.61	4.69	4.61	4.68	4.64	4.67	4.68
【質問5】 講義の工夫 教員は、授業内容を理解しやすくするように工夫していると思いますか？	思う	5	5,078	449	133	157	272	227	132	159	305	136	143	187	142	484	1,333
	やや思う	4	1,921	134	71	37	101	79	69	84	121	53	64	91	56	155	509
	どちらとも言えない	3	577	53	24	4	47	13	26	37	62	17	14	20	18	48	104
	あまり思わない	2	182	12	8	1	17	2	5	7	17	8	8	9	2	15	46
	思わない	1	73	1	2	1	8	0	2	2	9	7	7	1	1	6	9
	平均点		4.50	4.57	4.37	4.74	4.38	4.65	4.38	4.35	4.35	4.37	4.39	4.47	4.53	4.55	4.55
【質問6】 質問への誠意 教員は、あなたの質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	3,584	333	109	126	226	166	122	124	259	124	117	168	97	314	649
	ほぼ誠意をもって答える	4	911	83	33	25	41	44	38	39	65	29	40	53	34	77	134
	どちらとも言えない	3	477	64	23	2	35	8	20	32	51	10	16	23	10	38	64
	やや誠意が感じられない	2	57	4	2	1	11	0	1	3	14	1	2	1	1	3	6
	誠意が感じられない	1	28	1	0	0	1	0	1	1	10	1	1	2	0	0	3
	質問したことがない	-	2,774	164	71	46	131	103	52	90	115	56	60	61	77	276	1,145
	平均点		4.58	4.53	4.49	4.79	4.53	4.72	4.53	4.42	4.38	4.66	4.53	4.55	4.60	4.63	4.66
【質問7】 授業への満足度 この授業に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください	満足	5	4,262	378	125	138	237	193	92	120	267	117	116	148	121	436	1,085
	ほぼ満足	4	2,507	187	70	50	137	98	90	109	153	71	83	118	65	191	705
	どちらとも言えない	3	773	70	29	7	47	28	36	44	69	23	17	31	29	61	163
	やや不満	2	207	12	13	4	16	2	14	14	16	4	14	10	3	11	38
	不満	1	82	2	1	1	8	0	2	2	9	6	6	1	1	9	10
	平均点		4.36	4.43	4.28	4.60	4.30	4.50	4.09	4.15	4.27	4.31	4.22	4.31	4.38	4.46	4.41
【質問1】～【質問7】の平均			4.55	4.57	4.43	4.73	4.47	4.66	4.40	4.43	4.43	4.53	4.46	4.51	4.57	4.60	4.62

表 4-2 令和3年度授業評価アンケート 学科別集計結果 後期【質問8～14】

講義番号		係数	全学	経済学科	国際経済学科	税務会計学科	人間文化学科	心理学科	メディア・映像学科	スマートフォンシステム学科	建築学科	情報工学科	機械システム工学科	生物工学科	生命栄養科学科	海洋生物科学科	薬学科
学部																	
学科																	
曜限																	
主担当教員																	
実施教員																	
科目名																	
受講者数			15,132	1,357	606	540	869	783	403	515	780	409	328	359	430	1,293	4,119
回答者数			7,831	649	238	200	445	321	234	289	514	221	236	308	219	708	2,001
回答率			51.8%	47.8%	39.3%	37.0%	51.2%	41.0%	58.1%	56.1%	65.9%	54.0%	72.0%	85.8%	50.9%	54.8%	48.6%
【質問8】関連学習	3時間以上	5	632	47	9	16	20	9	15	27	116	12	23	5	13	40	218
	2～3時間未満	4	793	56	24	17	29	29	15	25	65	19	23	23	16	43	310
	1～2時間未満	3	2,206	156	71	72	113	87	66	63	152	63	62	55	56	213	660
	この授業に関して、1回の授業あたり平均してどのくらい予習・復習、あるいは関連の学習をしましたか？	2	2,346	200	74	65	142	95	78	86	94	81	68	119	70	240	526
	30分～1時間未満	2	2,346	200	74	65	142	95	78	86	94	81	68	119	70	240	526
【質問9】集中力	30分未満	1	1,854	190	60	30	141	101	60	88	87	46	60	106	64	172	287
	平均点		2.49	2.34	2.36	2.62	2.20	2.22	2.35	2.37	3.06	2.41	2.50	2.03	2.29	2.35	2.82
	全くない	5	3,965	310	103	109	199	120	78	123	212	85	109	110	109	389	1,265
	ほとんどない	4	2,506	211	85	59	155	131	96	111	176	76	73	119	77	218	560
	どちらとも言えない	3	923	92	33	25	63	49	46	38	90	38	29	51	21	67	109
【質問10】出席状況	しばしばある	2	352	27	12	7	24	19	11	13	31	15	20	24	8	29	57
	毎回ある	1	85	9	5	0	4	2	3	4	5	7	5	4	4	5	10
	平均点		4.27	4.21	4.13	4.35	4.17	4.08	4.00	4.16	4.09	3.98	4.11	4.00	4.27	4.35	4.51
	全出席	5	5,490	341	143	143	275	230	151	182	306	119	154	160	156	500	1,832
	ほぼ出席	4	1,840	235	73	48	129	67	67	80	148	84	64	107	50	179	145
【質問11】知識や技能の深まり	ときどき欠席する	3	362	50	16	8	27	11	13	17	42	8	13	36	11	23	21
	やや欠席が多い	2	114	19	5	1	11	13	3	8	15	7	3	3	1	4	3
	欠席が大変多い	1	25	4	1	0	3	0	0	2	3	3	2	2	1	2	0
	平均点		4.62	4.37	4.48	4.67	4.49	4.60	4.56	4.49	4.44	4.40	4.55	4.36	4.64	4.65	4.90
	大いに深まっている	5	3,756	313	97	112	222	162	83	121	281	95	104	122	109	397	981
【質問12】質問への積極性	やや深まっている	4	3,140	255	104	71	171	139	98	122	167	80	102	155	89	238	843
	どちらとも言えない	3	693	65	26	14	33	15	37	35	49	31	18	23	20	58	148
	あまり深まっていない	2	192	15	10	3	12	5	12	7	15	9	9	7	1	11	25
	全く深まっていない	1	50	1	1	0	7	0	4	4	2	6	3	1	0	4	4
	平均点		4.32	4.33	4.20	4.46	4.32	4.43	4.04	4.21	4.38	4.13	4.25	4.27	4.40	4.43	4.39
【質問13】意欲の高まり	学修が十分進んでおり、質問の必要がない	5	3,682	340	110	112	244	166	113	147	209	68	94	96	120	406	847
	しばしば質問する	4	789	74	42	26	38	35	22	31	65	38	40	33	14	52	130
	ときどき質問する	3	997	68	28	26	41	39	48	22	102	57	36	61	23	67	231
	質問はあるが、ほとんど質問していない	2	2,104	157	50	34	110	80	40	77	132	53	54	109	45	153	706
	学修に取り組んでいないため、質問すべきことがみつからない	1	259	10	8	2	12	1	11	12	6	5	12	9	17	30	87
【質問14】学修の成果	平均点		3.71	3.89	3.82	4.06	3.88	3.89	3.79	3.78	3.66	3.50	3.64	3.32	3.80	3.92	3.47
	大いに思う	5	3,172	262	72	106	179	128	70	89	257	76	105	95	92	364	805
	やや思う	4	2,989	228	95	59	163	151	82	117	173	79	79	145	75	229	851
	どちらとも言えない	3	1,203	114	50	27	74	33	55	60	67	51	29	38	42	88	264
	あまり思わない	2	333	35	17	6	17	8	20	17	14	9	16	24	7	17	59
この授業を受講して、授業内容を更に詳しく学びたいと思いますか？	全く思わない	1	134	10	4	2	12	1	7	6	3	6	7	6	3	10	22
	平均点		4.12	4.07	3.90	4.31	4.08	4.24	3.80	3.92	4.30	3.95	4.10	3.97	4.12	4.30	4.18
	十分に成果はあがっている	5	3,212	269	89	107	194	134	81	106	236	76	99	95	86	348	790
	少し成果はあがっている	4	3,451	273	102	75	188	160	106	132	187	91	101	163	99	277	964
	どちらとも言えない	3	927	98	39	15	40	26	36	42	69	37	19	41	32	67	212
この授業であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	あまり成果はあがっていない	2	186	8	8	2	16	1	9	7	21	12	13	6	1	11	31
	全く成果はあがっていない	1	55	1	0	1	7	0	2	2	1	5	4	3	1	5	4
	平均点		4.22	4.23	4.14	4.43	4.23	4.33	4.09	4.15	4.24	4.00	4.18	4.11	4.22	4.34	4.25
	十分に成果はあがっている	5	3,212	269	89	107	194	134	81	106	236	76	99	95	86	348	790
	少し成果はあがっている	4	3,451	273	102	75	188	160	106	132	187	91	101	163	99	277	964
	どちらとも言えない	3	927	98	39	15	40	26	36	42	69	37	19	41	32	67	212
	あまり成果はあがっていない	2	186	8	8	2	16	1	9	7	21	12	13	6	1	11	31
	全く成果はあがっていない	1	55	1	0	1	7	0	2	2	1	5	4	3	1	5	4
	平均点		4.22	4.23	4.14	4.43	4.23	4.33	4.09	4.15	4.24	4.00	4.18	4.11	4.22	4.34	4.25

6. 学科、センターの個別総括

令和3年度の授業評価アンケートについて、学科長・センター長が総括し、報告書を作成した。今後、この自己点検・評価を基に、さらなる授業改善が期待される。

① 経済学部経済学科

令和4年3月1日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

経済学部経済学科

学科長 楠田 昭二

令和3年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和3年6月23日（水）～7月14日（水）

後期：令和3年12月13日（月）～令和4年1月14日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者6名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、経済学科では前期21科目、後期21科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する7項目、学生自身の学習点検に関する7項目、合計14項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【1】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業準備や話し方など技術的な設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。経済学科の教員の授業準備や話し方、授業時間、講義の工夫、質問への誠意及び授業への満足度全てに渡って5段階評価で4段階以上の評価を得ており、専任及び非常勤においても十分に高いレベルを有していると判断できる。なお、全学教員平均と比較しても経済学科の教員の7項目平均は前期も後期も継続して高い評価となっている。

分析結果を踏まえた改善方策：

経済学科の教員の授業評価結果は押し並べて高い評価を受けているが、項目毎に全学教員平均と比較すると「質問への誠意」に関しては前期も後期も相対的には低い評価となっている。遠隔授業が主たる授業形態となっているので、学生に対するやりとりは Cerezo の機能を通じたものとなるが、今後は学生からの質問や問い合わせに関し今一層の丁寧さで対応するよう心がけたい。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

学生自身の学習点検に関する 7 項目のうち、「知識や技能の深まり」、「質問への積極性」という項目については、全学教員平均と比較しても高い評価となっているが、「関連学習」、「集中力」、「出席状況」に関しては全学教員平均と比較して低い評価であり、特に「関連学習」は相対的には最も低い項目となった。「関連学習」という項目を詳細に分析すると、1 時間以下の層は前期も後期も 60% 前後と余り変わらず、つまり過半の学生達は「関連学習」にそれほど時間を掛けていない実態が浮き彫りされた。しかし、前期には 3 時間以上の予習・復習、あるいは関連の学習を行ったと回答している学生が全学教員平均と比較し相当低い割合であったが、後期となると全学教員平均とほぼ同程度の学生が行っていることが分かり、熱心な学生が増え、少し状況が改善されたとも考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

全学的に取り組んでいる準備や復習などの学習の充実への努力を今後とも継続する必要がある。実生活上は、多くの学生がアルバイトを行っていることから、アルバイトの時間が過多にならないよう指導して、「関連学習」に時間とエネルギーを振り向けるよう指導していきたい。

【6】教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員（専任・非常勤を含め）全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、集計結果と同時に学科の教員の相対的な関係（評価の高いグループと評価の低いグループに属していると該当する項目）をこちらとして提示、それらをもとに自己評価を促し、授業アンケート実施報告書の提出を求めた。

【7】学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義中または最終回、定期試験実施時、あるいは Cerezo を通じて当該授業科目担当教員が行った。その詳細は、提出された報告書に記載している通りである。

【8】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

(1) 本講義だけで終わらず、リアルな現場へ学生をマッチングさせる仕組みを検討中。部活動やサークルなど身近な組織マネジメントに活かしてもらう。また、昨年度不開講であったため当初の想定 の 2 倍程度の学生が受講してくれた。来年度受講生が少なくなればより緊密なディスカッションが可能になる

と考えている。

(2) もう少し学生からの意見や考えを発表する機会を増やすことと、グループでの活動を取り入れて、より主体的な学習ができるようにしたい。

(3) 例年、この報告書が有効に活用されているように感じません。「実施すること」が目的として先行し、何かしらの補助金を獲得するための点数稼ぎで、形式的に実施されているように感じています。活用するのであれば、たとえば、評価の低い教員に対して、教員評価に利用するだけでなく、アンケートを根拠資料に注意するなど、有効に活用して欲しいと思います。事務的な管理目的の意味合いが強いのであれば、なおさら事務負担が軽減される方策を検討して欲しいと思います。

多くの教員が思っていると思いますが、次の3つを検討して欲しいです。

1. 授業評価は学部・学科を分類することなく、全教員に開示したほうが良いと思う（大教センター、学科長の負担を軽減できる）

2. 報告書の記入も Cerezo、Office365 フォームを活用してほしいです。（教員の入力・送信作業の軽減、とくに数値を入力する作業は不要だと思います。）

3. 授業評価アンケートの運用プロセスにおいて、事務員さんの作業負担が全く見えません。評価される側の教員が評価プロセスを主導しているのはおかしいです。現状の学科長の事務負担を学部事務室が負担するなど、運用プロセスの節々で事務員さんが関与する体制が望ましいと思います。

(4) 受講生に一定の教材を読ませ、教師の出題にこたえる小レポートを毎週提出させる方式で遠隔授業を進めてきました。採点。講義動画の作成などに手間はかかりますが、相当学修効果が上がることに気付きました、ただし、負担が重いので、受講生には嫌がられます。新しいカリキュラムでは日本経済史は廃止されたとのことですが、来年度、対面授業が再開され、3...4年生の受講生がいれば、何回か小レポートの提出を求め、学期末試験の成績評価に加えようと考えています。

(5) 対面授業が2回と少なく、学生の理解度を確認しながら進められたが進度は遅くなった。大部分は、遠隔授業（オンデマンド）で、パワーポイントの動画を YouTube で使用し、更に PDF 資料も準備したため学生の繰り返しの学習が可能になり、理解度は深まった。今後は学力に応じた内容で、さらに理解度を深められる内容に改良したいと思う。また規則正しい生活リズムは重要な学習条件として維持させたいと思う。

(6) 来年度からカリキュラムが変わるため、スポーツマネジメントコース対象講義ではなくなる。しかし彼らの柔軟な発想から出てきた例などは参考にし、来年度の講義で取り入れたい。またリアクションペーパーや期末レポートなどで学生の声を聞くと、Cerezo で提出したアンケートやレポートに対して個別にコメントをし、やりとりをしたことは前後期とも高く評価されたので、履修人数にもよるが来年度もできる限り取り入れたい。

(7) ゼミ生に1年を振り返って「どこが成長したか」と問うたところ、多くの学生が人前で発表する力、自分の意見や考えを相手に伝える力、グループで一つのことを成し遂げる力、相手目線での PowerPoint 作成発表能力などをあげている。また「他のゼミ生から学んだことは何か」では自分から積極的に行動することの大切さ、人の意見を聞くことの大切さ、相手を惹きつけるプレゼンなどをあげており、ゼミの活動やゼミ生から多くのことを学んでくれたことはとてもうれしい。

(8) 受講生からのコメントに「資料が分かりやすくてとても助かりました。対面じゃないのが悔やまれます」「資料が初心者にもとても分かりやすく説明されていて大変満足して授業を受けることができました」

た」とある反面、話し方の改善を求められている理由は、動画を用いなかったことが原因のひとつと考えられる。今後も遠隔授業が続くようであれば、動画教材を用意したほうがよいと考える。

【9】総 括

今回のアンケート調査を実施することにより、本学科における授業の実施と学生の学修成果の実態を表す結果が得られたと思う。長期にわたるコロナの影響で教員側も学生側も遠隔授業に慣れてきたことになり、このような状況下における授業実施の対応振りについてはある程度カスタマイズされた上での評価となったのではないかと考えられる。対面授業の実施が限られることで、逆に対面授業であればここまで出来るという目標をイメージしながら対面授業の改善に努めて参りたい。

② 経済学部国際経済学科

令和4年3月1日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

経済学部国際経済学科

学科長 足立 浩一

令和3年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和3年6月23日（水）～7月14日（水）

後期：令和3年12月13日（月）～令和4年1月14日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者6名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、国際経済学科では前期12科目、後期12科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する7項目、学生自身の学習点検に関する7項目、合計14項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

前期、後期ともに設問1～7については、全学平均及び学部平均を下回った。特に前期に関しては、授業準備、教員の話し方、講義の工夫、授業への満足度といった項目に関して、非常に評価が低かった。講義の工夫と授業への満足度は、前期は3点台であったが、後期は4点台に上昇した。新型コロナウイルス感染拡大により、遠隔授業となったが、国際経済学科においては特に低評価となった。この原因に関しては、教員の評価にばらつきが大きく、全体平均を押し下げている。学生からの自由記述には、「課題が難しすぎる」、「パワーポイントではなく動画を使用してほしい」、「資料が読みにくい」、「音声聞き取りにくい」、など不満の声があった。この講義に関しては、教員の努力により、後期にはかなり改善された。

分析結果を踏まえた改善方策：

今回の授業評価は教員間で評価が2極分化している。今後遠隔授業が続くかどうかは不確実ではあるが、教員各自が授業を受ける側の立場に立ってわかりやすい教材を作成しなければならない。特に専任教員

については学科 FD 等の機会を利用して学科全体で改善策を考える必要がある。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

「授業評価アンケート」同様、前期、後期ともに設問 7～14 について、質問 12（質問の積極性）以外の項目で全学平均を下回り、質問 11～14 で学部平均を下回っている。特に関連学習、学修の成果について自己評価が低い。原因についても同様である。遠隔授業により学生からは「各科目課題が多くなり、1 科目あたりにかけることができる学習時間が減った」という声を耳にする。

分析結果を踏まえた改善方策：

上記のように学科 FD を通じて、または、場合によっては学科長から個別にヒアリングする機会を設ける必要がある。学生のモチベーションを上げるにはどうすればいいのかを、学科全体で考えなければならない。

【6】教員へのフィードバックについて

学科会議において、全学、学部、学科の各項目の集計結果をフィードバックし、自分の授業評価が全学平均、学部平均、学科平均に比べてどの位置にあるかを認識してもらっている。それを基に自己評価を行い、授業アンケート報告書の提出を求めている。

【7】学生へのフィードバックについて

教員によって、最後の授業または Cerezo 上で学生に対してのフィードバックを行っている。

【8】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

(1) 学生が授業を理解することが最大の目標であり、理解度を測るには日常の定期的なチェックが必要である。

(2) 個々の学生を担当・指導するチューター制度の拡充（チューター1 名につき学生 8 名位が限度か？若しくはゼミの拡充とその担当教員のチューター兼務）を検討してみてもどうか？勿論 1 教員としては学生の学習意欲を高めるべく講義内容に様々な工夫と改善に努める。

(3) 個々の学生の学習意欲そのものは、いわば習慣化した形でこれを短期間で改善することは、何か大きなインパクト無しには至難というのが実情であろうと考える。どうやってインパクトを与えるかが重要である。

(4) コロナ禍が長期化する中、学生の「大学との距離感」「大学に期待するもの」「学外における活動内容」等、大きく変化している。今一度、学期初めに学習の仕方から指導し、大学において学ぶことの意義を伝え、魅力ある授業内容の展開に努めたい。また、時流に即した授業の在り方についても考えていきたい。

(5) 経済学の現実的な応用可能性を常に意識・強調して、学生の興味を今後も高めていきたい。

(6) 質問をする必要がないと思う学生と学習意欲が低い学生が主な問題である。よって、対応策として①

授業において参加者の発言力や発表の機会を増やしてあげ、②その都度理解度チェックできるようにレポートなり、小テストを実行する。

【9】総括

令和3年度前期、後期ともに国際経済学科の学生による授業評価アンケート結果は、反省すべきものであった。教員や科目により、多少の違いはあるものの、学生が、授業が難しすぎて消化不良を起こしていたり、授業が分かりにくかったりして学生の授業満足度が低ければ、学科としての教育目標が達成できていないことになる。「コロナだったから」、「理解できないのは、学生のレベルが低い」、「学生の努力が足りない」、「厳しくすると評価が低くなり、甘いと評価が高くなる」などといった言い訳をなくし、学生満足を追求するべきであると考ええる。

③ 経済学部税務会計学科

令和 4 年 3 月 11 日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

経済学部税務会計学科

学科長 白木 康晴

令和 3 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和 3 年 6 月 23 日（水）～7 月 14 日（水）

後期：令和 3 年 12 月 13 日（月）～令和 4 年 1 月 14 日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、税務会計学科では前期 9 科目、後期 9 科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

【前期】

・「質問 7 講義の満足度」では、全学（4.33）、経済学部（4.25）と比較して、税務会計学科は、4.53 と満足度が高くなっている。

・「質問 1～7 の平均」は、全学（4.53）、経済学部（4.48）と比較して、税務会計学科は、4.63 と高い。

【後期】

・「質問 7 講義の満足度」では、全学（4.36）、経済学部（4.43）と比較して、税務会計学科は、4.6 と満足度が高くなっている。

・「質問 1～7 の平均」は、全学（4.55）、経済学部（4.57）と比較して、税務会計学科は、4.73 と高い。

分析結果を踏まえた改善方策：

【前期及び後期】

・評価科目「質問 7 講義の満足度」と「質問 1～7 の平均」のどちらも、全学、経済学部と比べて高い。各教員が継続して改善を行った結果、学生に評価されているのではないかと考える。改善方策としては、今後とも講義の満足度を上げるように各教員が取り組みを行うことが必要である。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

【前期】

・「質問 8～14 の平均」は、全学（3.96）、経済学部（3.89）と比較して、税務会計学科は、4.0 と若干高い。
・この評価科目の結果が全学、学部と比較して高いのは、各教員が継続して改善を行った結果、学生に評価されているのではないかと考える。

【後期】

・「質問 8～14 の平均」は、全学（3.96）、経済学部（3.95）と比較して、税務会計学科は、4.13 と高い。
・この評価科目の結果が全学、学部と比較して高いのは、各教員が継続して改善を行った結果、学生に評価されているのではないかと考える。

分析結果を踏まえた改善方策：

【前期及び後期】

このような評価を行い、全学、学部で比較することで、どこが良くて、どこが足りないのか各自理解できたと考える。

改善方策としては、①事前学習を学生に課することで、講義に取り組み姿勢が生まれる、②ただ単に教えるのではなく、学生に質問をしたり、学生の興味を引くような内容の講義にすること、等が挙げられるのではないかと考える。

【6】教員へのフィードバックについて

【前期及び後期】

教員へのフィードバックは、メールで各教員へ送付し、各教員から結果報告書を受け取っている。

【7】学生へのフィードバックについて

【前期及び後期】

各教員が、授業時間内、セレッソで学生へのフィードバックを行っている。

【8】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

【前期】

<提案>

- (1) セレソの小テスト機能に不満があり、システムの改善ができないか。
- (2) 1・2年次の専門科目の教育強化が必要。

<意見>

- (1) マスクを着けて長時間話していると、声が聞きづらくなるだけでなく、段々と呼吸が苦しくなってくる。
- (2) 目標もなく、ただ漠然と授業を受けているだけでは学修効果が上がらない。
- (3) 受講生に、ミニツペーパーの提出を求め、次回の授業時にフィードバックをした。
- (4) 事例をできるだけ多く取り入れたい。
- (5) 関連学習について、具体的な指示をしていきたい。
- (6) 簿記検定の受験を促していきたい。
- (7) 一人一人へのフィードバックを実施していきたい。
- (8) 反転授業についても検討したい。
- (9) 学習時間を増やすために、課題を出すようにしたい。

【後期】

<提案>

- (1) 特になし。

<意見>

- (1) 1回ごとの講義資料を作成し、毎回、課題を課している。
- (2) 一人一人に細かい連絡や指導をしていく必要がある。
- (3) 予習、復習の内容を具体的に示すようにしたい。
- (4) 満足度を全員5にする気持ちで、授業をしたい。
- (5) 専門用語はできるだけ少な目で授業をして理解を深めたい。
- (6) セレソの掲示板機能の活用が高評価につながった。
- (7) 理論やフレームワークの実際のビジネスでの応用事例を多く紹介していきたい。
- (8) 高い評価を維持できるよう、提携先企業と新企画を考えたい。
- (9) オンデマンドの講義は学生との交流がほとんどできない。
- (10) 関連学習の評価が低いので簿記検定の受験を一層促していきたい。
- (11) 動画の視聴による遠隔授業は、最後まで授業内容に関心を持ってない学生の理解・意欲は低いままであった。

【9】 総 括

「質問 7 講義の満足度」、「質問 1～7 の平均」、「質問 8～14 の平均」は、すべて全学、経済学部とも比較して高くなっている。これは、各教員が遠隔講義や対面講義に対して、積極的に取り組んでいることが評

価されたのではないかと考える。

また「学生の自己点検」の評価科目はどちらも全学、学部と比較して高くなっている。これは各教員が継続して改善を行った結果、学生に評価されているのではないかと考える。

今後もこれらの評価科目について、さらに改善を行い、より良い講義を実施していきたいと考える。

④ 人間文化学部心理学科

令和4年2月26日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

人間文化学部心理学科

学科長 赤澤 淳子

令和3年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和3年6月23日（水）～7月14日（水）

後期：令和3年12月13日（月）～令和4年1月14日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者6名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、心理学科では前期12科目、後期12科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する7項目、学生自身の学習点検に関する7項目、合計14項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

令和3年度前期における「授業評価アンケート」質問項目7項目の全学平均が4.53で、心理学科の平均は4.67であった。また、後期の全学平均は4.55で、心理学科の平均は4.66であった。質問項目別にみると、前期・後期ともにほとんどの項目で全学平均を上回っており、平均値も4.5点以上である。唯一、全学平均と同じであった項目は、前期の「授業時間」のみであった（4.61点）。以上の結果より、心理学科の「授業評価アンケート」結果は、いずれの項目においても4.5点以上であり、全学平均より高い値を示していることから、高い評価が得られたといえるだろう。

分析結果を踏まえた改善方策：

上述したように、現在の高い水準を保つことが今後の課題といえる。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

令和3年度前期における「学生の自己点検」質問項目7項目の全学平均が3.96で、心理学科の平均は3.98であった。また、後期の全学平均は3.96で、心理学科の平均は3.97であった。いずれも4.0未満の値を示していることから、学生の自己点検は高いとはいえない。各項目別にみると、全学平均を下回っている項目は、前期・後期ともに「関連学習（前期：2.12；後期2.22）」「集中力（前期4.14；後期4.08）」「出席状況（前期4.65；後期4.60）」であった。一方「知識や技能の深まり」「質問への積極性」「意欲の高まり」「学修の成果」については全学平均より高かった。以上の結果より、学生の自己点検評価については、全項目の平均値が4.0に到達しておらず、「関連学習」において特に平均値が低く、平均値を下げる要因となっている。

分析結果を踏まえた改善方策：

上述したように、学生の自己点検における平均値を下げている要因は、「関連学習」の低さである。これについては、予習・復習を課題として課すことが改善策として考えられるが、現在オンライン授業で課題が多くなっていることから、学生の生活時間全体から考えて、すべての科目において1時間以上の予習・復習が可能であるかについては検討する必要があるだろう。

【6】教員へのフィードバックについて

各教員に授業評価アンケート結果を送る際に、大学全体の授業評価アンケート結果を一緒に送付し、心理学科の全体における位置づけについて周知している。また、各々の教員に個々で結果を送付する時に、気づいた点についてコメントを付けている。

【7】学生へのフィードバックについて

学生へのフィードバックは、個々の教員がそれぞれの方法で学生にフィードバックしているが、コロナ禍以降、対面授業が実施されていないため、Cerezoを通してフィードバックする教員がほとんどである。

【8】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

- (1) 学習意欲を高める方策として、視聴覚教材を用いたり、参加型の授業を実施したりする。
- (2) 学習成果向上のため、グループディスカッションなどを用い、学生同士が知識を共有できるようにして、知識の定着を図る。
- (3) Cerezoの掲示板やレスポンスを用い、質問のしやすい環境を整え、常にフィードバックを行う。
- (4) 関連学習の時間を増やすために、小テストの実施、分かりやすい教材の提供、日常生活と関連付けられるようなワークを準備する。
- (5) 機器の不具合で学生の集中力が途切れるということがあるため、機器の整備や使用法の習熟が必要。

【9】総 括

令和3年度「学生による授業評価アンケート」における心理学科教員の集計結果を分析した結果、「授業評価」については、ほとんどの教員が高い評価を得ていることが明らかとなった。今後もこの結果を維持することを課題とする。「学生の自己点検」については全学の傾向と同様に、学生の関連学習時間が少ないことが挙げられる。しかし、現在コロナ禍の影響でオンラインによる授業が多いため、どの科目においても課題が増えており、それについていけない学生も出ているほどである。このようなことを考えると、1科目において何時間の関連学習が適正であるのか、授業の種類等を勘案し検討する必要もあるだろう。

⑤ 人間文化学部人間文化学科

令和4年3月7日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

人間文化学部人間文化学科

学科長 小原 友行

令和3年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和3年6月23日（水）～7月14日（水）

後期：令和3年12月13日（月）～令和4年1月14日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者6名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、人間文化学科では前期19科目、後期20科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する7項目、学生自身の学習点検に関する7項目、合計14項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

質問1～7の平均は、前期は4.58（全学4.53、学部4.58）、後期は4.47（全学4.55、学部4.51）であった。

質問7（満足度）に焦点をあてると、前期は4.44（全学4.33、学部4.44）、後期は4.30（全学4.36、学部4.32）であった。4.37（全学4.29、学部4.37）であった。

このように、前期に比べて後期の結果は少し低めではあったが、全体としては概ね良好であったと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

コロナ禍の中での遠隔型と対面型の授業の両面で、前年度よりは数値も若干上向いており、工夫の成果はある程度みられたのではないかと考えられる。

さらに成果を上げるためには、受講生の好奇心や探究心を高めるような授業になるように内容や教材の工夫・改善を図っていくことが求められる。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

質問 8～14 の平均は、前期は 4.10（全学 3.96、学部 3.98）、後期は 3.91（全学 3.96、学部 3.91）であった。

質問 14（学修の成果）に焦点をあてると、前期は 4.37（全学 4.16、学部 4.26）、後期は 4.23（全学 4.22、学部 4.23）であった。

このように、前期に比べて後期の結果は少し低めではあったが、全体としては良好であったと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

他の項目と比較して、本年度も質問 8 の関連学習の数値が低く、自主的な学習態度に課題が残ると考えられる。

その改善のためにも、授業外での積極的な学びへつながっていくような授業の工夫が求められる。

これらを踏まえると、地域の事例や国際的な時事問題に関連づける教材化の工夫、図書館の積極的な活用、新聞・テレビ・インターネット等の多様なメディアを活用した指導法の工夫などが求められる。

【6】教員へのフィードバックについて

本年度も、「学生による授業評価アンケート」のデータを、常勤および非常勤の教員にメール添付で送付し、各授業科目に関する点検・分析・評価と今後の学習指導の改善策についての回答を求めた。

常勤教員に対しては、学科会議において検討を行い、次年度に向けての改善点について話し合い、確認した。

【7】学生へのフィードバックについて

コロナ禍の影響もあり、本年度も、常勤および非常勤のほとんどの教員が、セレッソを通してフィードバックを行った。

新年度 4 月の学科のオリエンテーションの場で、学生全体に対してのフィードバックを行う予定である。

【8】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

（1）個々人の小説読解は、受講生自身が述べている通り、ある程度の成果が上がったということが出来る。その意見を口頭のディスカッションによって深めたり、広げたりということはできなかったが、それは授業の本質と異なるので、それよりも受講生の意見を教員が評価して、新たな読解につなげていく講義の分量を増やしていく。

（2）対面授業において取り組みやすい確認テスト（小テストよりももう少し内容がシンプルなもの）を

する機会を積極的に増やすことができないかと考えている。外部のコンテンツを利用することで、学生自身が取り組むことのできる単語チェック課題を提示できれば、単語数の多い中級テキストにも取り組みやすい下地ができるのではないかと考える。

(3) 今回は途中で遠隔授業から対面授業、対面授業から遠隔授業に切り替わったこともあったためか。また、学生が史料を読み、それについての質問に答え、その答えを受けて授業を進める、という計画だが、人数が多いこともあり、答えることができる学生がいないというのはこちらの計画に反している。もう少しこの点を改善したい。感染状況が落ち着いた後には、席の移動なども認め、グループで相談する、といった方法をとることも考えたい。

(4) 映画から歴史を展望するという試みは、受講者のレポート等を見るかぎり、ある程度は成功したと思われる。ただし上述の通り、映画の選定にやや偏りが見られたため、同じ方式で行う際には大幅に内容を改め、できるだけ多くの時代を取りあげられるように工夫したい。

(5) パワーポイントなどを使用し、なるべく絵や写真、図を提示して講義を行った。また、草戸千軒町遺跡や鞆の浦、石見銀山など地域に関わる題材を取り入れることで学生に授業に対して関心を持ってもらう。

(6) 大人数の遠隔型であっても、毎回課題の提起とその探求というように、受講生の好奇心や探究心が継続する授業になるように、テーマや教材の工夫・改善を図っていきたい。ニュース等の時事問題を事例に、受講生の学習意欲を喚起するような教材の開発に一層の力がかけられてゆきたい。

【9】総 括

全体として総括すれば、コロナ禍の下で遠隔型と対面型の両面実施という状況ではあったが、前期・後期通して、「学生による授業評価アンケート」の結果を見る限りでは、学科の授業に対する評価は概ね良好と考えられる。しかし、コロナ禍の終息が見通せない中で、現状に満足することなく、引き続きもう一步の工夫・改善を行っていくことが必要である。

そのためにも、昨年度と同様ではあるが、各教員の研究内容に基づいた質の高い授業内容の工夫・改善、学生の興味・関心や知的好奇心・探究心、さらには感動や共感を喚起するような教材の開発・導入、遠隔授業であっても学生による主体的な学びを保証するような学習のアクティブ化、セレッソ等を活用して学生間の討論や議論を引き出す授業の工夫・改善等に、さらに磨きをかけていくことが求められる。

⑥ 人間文化学部メディア・映像学科

令和4年3月19日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

人間文化学部メディア・映像学科
学科長 安田 暁

令和3年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和3年6月23日（水）～7月14日（水）

後期：令和3年12月13日（月）～令和4年1月14日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者6名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、メディア・映像学科では前期13科目、後期10科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する7項目、学生自身の学習点検に関する7項目、合計14項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

教員の授業評価に関する項目では、学科教員の授業評価は概ね4点以上となっており、全額平均と比較して高い評価を得ている科目も多い。そのため、授業レベルについては一定以上の高いレベルを確保できていると考えている。一方、非常勤講師に実施を依頼している科目において、評価がやや低いものがあった。これについては、実習科目の遠隔授業実施にまだ解決が必要な点があるということとも重なっているとも考えられる。また、講義科目に対して実習系の科目の評価がやや低いという分析もできる。これについてはやはり、遠隔授業における実習科目の実施の難しさなどが表れてしまった面があると考えている。

分析結果を踏まえた改善方策：

評価が低かった一部科目では、担当の非常勤講師と緊密な連絡、面談等を行い、なるべく無理のない実施

方法を検討しながら進めているが、これを継続する。また、特に実習科目において、これを苦手とする学生のフォローをさらに充実させるべく、一部科目においては SA を導入し、サポート体制を厚くすること、また細かに内容のレベルを調整しながら行うことを学科会議でも確認している。次年度では非常勤講師が交代する科目も多いため、より注意深く実施する予定である。

遠隔授業については、オンデマンド型の実施で問題が発生することも多かったことから、リアルタイムでの zoom 配信による実施を積極的に導入することとしている。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

学生自身の学習点検に関する項目も、全学平均と比較し大きな差はないと考えている。設問の中では、「関連学習」のポイントが低くなっている。だがこの部分をもう少し詳しくみると、実習系の科目においては、3 時間を超える関連学習を行っているという回答があるなど、学生による取り組み方の差がかなり表れているとも考えられる。

その他の項目では、「質問への積極性」の項目が全学平均と同じように低い傾向があるが、一部科目においては全学平均よりかなり高いポイントを出している。

分析結果を踏まえた改善方策：

「関連学習」を適正な時間に伸ばすことは必要ではあるが、現状、学生が授業時間以外の学習時間を確保することに難しさはある。適切な課題を課すことで、無理なく関連学習に学生が取り組める環境を作る必要がある。課題のレベルを各担当教員が丁寧に設定することや、特に実習系の授業においてハードな課題が複数集中することなどを避けるべく、ゼミ等でのヒアリングなどを通じて情報収集し、教員間で共有することを意識している。

また、「質問への積極性」を高めるべく、成功事例については学科会議等で共有し取り組みたい。

【6】教員へのフィードバックについて

全てのアンケート結果を常勤教員が共有できる状況で公開しており、各科目の評価について知ることのできる状況にある。報告書についても共有フォルダへの提出としており、相互に確認できる状況を作っている。情報共有を元に共通の認識でカリキュラムに取り組むことのできる状況が準備できている。

【7】学生へのフィードバックについて

学生へのフィードバックは授業内もしくは cerezo で各教員が行なっており、それぞれの報告書に記載している。

【8】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

(1)「専門英語」の報告書より、<英語教授法を学んでいない教員がこの講義を担当していることに無理があると考えている。「英語」を学びたい学生のニーズには応えられていないことから、担当教員を変更

するか、廃止する必要がある。もしくは「原書購読」というような形で講義名から「英語」を外すべきである。＞との回答があった。

「専門英語」の実施は各学科に委ねられているが、この状況を設定したのは大学教育センターからの何らかの応答がいただければとは考えている。

(2) <本授業のアンケートはオンデマンド型授業と対面授業の切り替え時期に実施されている。【講義の工夫】はオンデマンド型授業への評価と考えられ、4.48 を超えるためにはコンテンツの改善のみでは不十分であり、Zoom 等の活用によるリアルタイム要素を加えるなど実施形態の工夫が必要である考え、実施したい。＞という回答があった。

授業評価アンケートの時期と状況により、「何が評価されているのか」は変わる。また、Zoom 等によるリアルタイム要素の重要性は研修でも言われていたことである。オンデマンド型中心の授業を運用はコロナ禍での授業が数年になろうかとする状況では、積極的に変更を考慮されることもあって良いのではないだろうか。

(3) 授業開講対象年次の変更提案がなされた授業もあり、これについては学科でも情報共有し、開講年度の変更なども行なった。

(4) 授業評価アンケートに回答してもらうため、何度も回答依頼をしたが、回答率がかなり低くなった。授業中の学修理解度を把握するため、毎回、Cerezo の機能を活用して授業理解度アンケートを実施していたため、受講生にアンケート疲れが発生したことも一因ではないかと考えている。

(5) オンライン授業では、特にインタラクティブな部分を相当程度大げさに取り入れないと成立しない(対面であれば隣同士で情報交換といった日常的な取り組みが可能)。1 年前期などでは、内容に加えて関係性の構築を意識した学修にしなければならないことを実感した。

(6) 学生の質問を引き出す授業実施は重要と考え実施しているが、質問というかたちでの授業への関わりを得意としない学生もいる。そういった学生からは無理に質問を引き出すよりは、別の形での意見の引き出し、授業への関わりをできるようにもしてきたが、それはこのアンケート項目では現れにくいようにも感じる。

(7) 満足度が 4.86 と高評価になっているが、少人数授業の影響は大きい(同内容の中、大規模で展開するのは容易ではない)。一人一人が毎回の授業で発言する場面を創出し、問いを投げかけ、「読む」「書く」「考える」を受講者と共に行えたことが、受講者の間に一体感を生み出すことにもつながっていたのではないか。

(8) 質問 6「質問への誠意」で「どちらとも言えない」が 3 名いた。途中からオンデマンド形式になったことで「質問しづらい」と感じた可能性がある。

【9】総括

メディア・映像学科としては、この授業評価アンケートを可能な限り共有し、特に低い評価の洗い出しや、自由記述コメントを共有することにより、授業レベル設定やカリキュラムの問題点などを見出す手がかりとするなど、活用はできていると考えている。今後も引き続き学科内で活用を進めたい。

一方、全学の数値を見ても、回答率は 6 割に満たない。このアンケートをどのように運用し、どのように用いるかについては、もう少し丁寧な議論があっても良いのではないか。また、積極的な授業改善のためのアンケートであれば、担当者が授業を工夫した点に応じて設問をカスタマイズできて良いのではとい

う意見もある。また前項にもあったように、受講人数や開講携帯で評価が変化する可能性もある。これを教員評価に一律に加えることには疑問がある。

⑦ 工学部スマートシステム学科

令和4年3月10日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

工学部スマートシステム学科

学科長 仲嶋 一

令和3年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和3年6月23日（水）～7月14日（水）

後期：令和3年12月13日（月）～令和4年1月14日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者6名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、スマートシステム学科では前期10科目、後期12科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する7項目、学生自身の学習点検に関する7項目、合計14項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

回答率は前期69.6%、後期56.1%と全学の前期57.2%、後期51.8%に対して良い値が得られ、アンケートに対して学生が誠実に取り組んでくれていることが分かる。しかしながら、アンケートの結果は総じて全学平均に対して低く、（ ）内を全学平均として、

＜前期＞授業準備：4.52（4.62）、教員の話し方：4.39（4.41）、計画性：4.65（4.70）、授業時間：4.61（4.61）、講義の工夫：4.42（4.47）、質問への誠意：4.49（4.54）、満足度：4.22（4.33）という結果であった。

＜後期＞授業準備：4.57（4.64）、教員の話し方：4.41（4.47）、計画性：4.62（4.68）、授業時間：4.48（4.64）、講義の工夫：4.35（4.50）、質問への誠意：4.42（4.58）、満足度：4.15（4.36）という結果であった。但し、後期には全学教養科目のオムニバス授業が含まれており、これを除くと、授業準備：4.62（4.64）、教員の話し方：4.49（4.47）、計画性：4.64（4.68）、授業時間：4.57（4.64）、講義の工夫：4.39

(4.50)、質問への誠意：4.49 (4.58)、満足度：4.23 (4.36) と向上し、これが正味の学科のスコアと認識する。

前、後期共に若干全学平均より低い値となったが、その差はほとんどなく、ほぼ平均と言える。また、比率で比較すると 2 点、1 点のネガティブの評価は少なく、全学平均に比べて 4 点が多く、5 点が少なくなった結果が、スコアに現れている。中庸な評価となったのは学生の特質に依るものか授業の影響なのか判断が難しいところである。

分析結果を踏まえた改善方策：

大きく下がっている項目が無いいためポイントを絞った改善は難しく、基本的には現状から落とさず、全体的に万遍なく授業の質を向上させることを心掛ける。但し、その中でも講義の工夫と満足度が若干低めであったので、学生が興味を引き理解が進むよう講義の工夫をしていく努力をする。このために、授業の方法に関する情報交換を FD 等により行い、授業内容の充実化や、個々人のスキルの向上を図っていく。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

学生の自己点検に関しては、

<前期> 関連学修：2.60 (2.51)、集中力：4.11 (4.31)、出席状況：4.50 (4.69)、知識技能の深まり：4.16 (4.29)、質問の積極性：3.64 (3.65)、意欲の高まり：3.85 (4.11)、学修の成果：4.03 (4.16)

<後期(全学オムニバス授業除く)> 関連学修：2.48 (2.49)、集中力：4.26 (4.27)、出席状況：4.53 (4.62)、知識技能の深まり：4.33 (4.32)、質問の積極性：3.76 (3.71)、意欲の高まり：4.03 (4.12)、学修の成果：4.25 (4.22)

であった。前期は全体的に全学平均より若干低めであるが、後期はほぼ拮抗している。後期の前半に対面授業が多くできたことが好材料であった可能性がある。意欲の高まりに関しては前、後期共に全学平均より低く、改善が望まれる項目である。

分析結果を踏まえた改善方策：

学生の意欲の低い要因は学生それぞれに別の理由があると考えられ、画一的な改善策を取ることは難しく、学生の状況を見ながら授業への参画意欲を高めていくほかなければと考える。反転学修できなもの、アクティブラーニング、実験の要素を取り入れる等、様々な方策を状況を見ながら臨機応変に授業を組み立てていくことが望まれる。この点においても対面に授業が最善であろう。

【6】教員へのフィードバックについて

各教員には自身の点数は配布したが、相互に評価点が見えるようにはしていない。各教員の提出した報告書について下記【8】の改善施策を学科長が抽出してまとめ、FD を実施した。この情報を学科教員全員で共有化すると共に、これに基づいて協議を行い、よりブラシアップした施策となるよう取り組んでいる。

【7】学生へのフィードバックについて

学生には、各教員から、口頭又は Cerezo によるフィードバックが行われた。

【8】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜今後の授業改善提案＞

- (1) ○×といったリアルタイム回答とフィードバックができるシステムの導入。
- (2) Cerezo と親和性のあるコンテンツ作成システム（特にデータ変換ソフト）の導入によるコンテンツ編集・作成の効率化。
- (3) テーマによっては学生参加型の授業を行っている。可能な限り、学生参加型の授業を行いたい。
- (4) 全ての学生に大学生活に対してポジティブな意識をもってもらうように、個々の学生の特性に合った課題を準備し調整するように心がけたい。
- (5) 設定した課題（ややこしいこと）を避けたり、疎んだりせず、自分の知恵を発揮して解決できる力量が身に着くように、気持ちを仕向けたい。そのためには、学生に対して課題の意図、行動目標を分かりやすく示し、納得してもらう必要があると思う。

＜今後の授業改善提案＞

- (1) 学習意欲を失って脱落する学生を少なくするための努力がより求められる。これは横のつながりをつくって連携させるグループワークが有効だと考えている。授業内容にグループワークをどのように導入するのかを研究していきたい。
- (2) 本当に実力がついたかどうかは、客観的なデータの分析が必要である。関心度を向上させることが重要である。演習を繰り返して実施する必要がある。
- (3) 可能な限り対面授業を実施し、生の話を聞く機会を提供したい。
- (4) 学生の適性を細かく判断し、適切な課題を与えることでより多くの学生が積極的に課題に取り組み、今後の学生生活の基礎になるように努めたい。
- (5) 座学と体験（実習）の繰り返しは、厳密に実施できると学生と教員が合気になり最高の学修効果が得られることは定性的にも定量的にも実感できてきている。厳密とは、毎回の授業前準備、授業内（実習の）ファシリテート、授業後の習熟度分析、そして、その結果の次回へのフィード（授業準備）を誠実に行うことであり、これ以上の方策はないと考えている。ただし、この方略を確実に継続するには教員の気力、体力の維持は不可欠である。
- (6) 講義に留まらず、他の活動や卒業研究で積極的に知識・技術を活用する。
- (7) 臆せず質問ができるような環境づくりに心掛ける。
- (8) オリジナル教科書の執筆

【9】総 括

大きな問題は無かったと認識する。学生の意欲向上とその他全般に亘る弛まぬ向上努力を学科 FD 等を通じて実行していく。

⑧ 工学部建築学科

令和4年3月10日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

工学部建築学科

学科長 梅國 章

令和3年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和3年6月23日（水）～7月14日（水）

後期：令和3年12月13日（月）～令和4年1月14日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者6名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、建築学科では前期14科目、後期15科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する7項目、学生自身の学習点検に関する7項目、合計14項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの5つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

前期後期とも、全学平均4.55に比べると4.43と少し低く、工学部平均と同等だった。

科目の特性による分析では、設計演習系（対面）の授業評価が高く、特に前期では学科平均を0.33上回る結果となった。学生のニーズや興味に授業内容や授業方法が合致しているものと考えられる。一方、構造系の授業評価は学科平均よりも0.25下回る結果となり、理数系授業難易度に学生の評価は影響される結果となった。

分析結果を踏まえた改善方策：

高評価の設計演習系の授業は、建築志望者の最も重要と考える授業であるので、実務者である非常勤講師と専任教員による授業を継続するとともに、実務経験のある専任教員等の採用を進め、授業に配置していく。

一方、理数系で難易度の高い授業については、基礎的な力をつけ、復習しやすいデジタルコンテンツや小テストなどを活用した授業方法としていく。また、学習範囲について検討する。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

前期後期とも、全学平均 3.96、工学部平均 3.94 に比べると 4.02 と少し高い結果となった。

科目の特性による分析では、ここでも、設計演習系（対面）での数値が高く、特に前期では学科平均を 0.28 上回る結果となった。学生のニーズや興味に授業内容が集中力や学修成果に結びついたものと考えられる。

一方、構造系の授業評価は学科平均よりも 0.25 下回る結果となり、理数系授業難易度に学生の評価は影響される結果となった。

分析結果を踏まえた改善方策：

設計演習系（対面）では、学生のニーズや興味に授業内容が集中力や学修成果に結びついており、継続して学生のニーズや興味に合致した授業内容及び授業方法を継続する。

一方、構造系では建築士など資格と授業科目の関連性などを説明し、科目の必要性を理解した上で、学修意欲を高めや学修成果に繋がるように工夫していきたい。

【6】教員へのフィードバックについて

対象科目のアンケート集計結果を担当教員にフィードバックし、担当教員はそれを基に授業アンケート実施報告書を作成した。実施報告書の提出率は、前期・後期ともに 100%であった。

また、アンケート結果をもとに授業改善に関する F D を実施した。

【7】学生へのフィードバックについて

アンケート対象全 29 科目のうち、97%の科目でセレッソ、または授業中に学生に対し、フィードバックがなされていた。1 科目のみでフィードバックがなされていなかった。100%のフィードバックとなるようにする。

【8】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

11 回中 9 回がオンデマンドであったことによる評価の低下が考えられ、オンデマンドでの資料提供方法を検討する。

セレッソなどを活用した質問のフォローもしてゆきたい。

授業時間外に学内施設（PC 室）の利用が制限されていたことから、学生自身が自分の PC に CG 制作で利用するソフトウェアを用意させるなど対策を検討する。

数式は必要最小限にして、できるだけ数式を使わない説明に置き換える方向で改善を試みる。

理解度に応じた授業範囲の見直しも検討する。

資格と授業科目の関連性などの説明を行う。

【9】総 括

建築学科では、授業の特性から比較的対面の授業が多かった。今回のアンケート結果から、対面かつ設計演習系の授業評価、自己点検のポイントが高いことがわかった。これらの高いポイントが直接学生の学修レベルの向上に繋がらない場合もあるが、一定の評価をし、これを継続していきたい。

一方、評価の低かった、リモート主体のエンジニアリング系についても、学生の学修の意識づけを変えるために、将来の資格取得や社会での活用のイメージに直結する説明などを取り入れて改善を継続する。また、経年的な変化についても、今後検討していきたい。

⑨ 工学部情報工学科

令和 4 年 3 月 10 日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

工学部情報工学科

学科長 尾関 孝史

令和 3 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和 3 年 6 月 23 日（水）～7 月 14 日（水）

後期：令和 3 年 12 月 13 日（月）～令和 4 年 1 月 14 日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、情報工学科では前期 9 科目、後期 9 科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

前期の質問 1～質問 7 の平均は、全学の平均が 4.53 であるのに対して、学科の平均は 4.43 と学科平均が全学平均から若干低かった。後期の質問 1～質問 7 の平均は、全学の平均が 4.55 であるのに対して、学科の平均は 4.53 とほとんど違いはなかった。また、この平均点が 3.5 以下のような低い評価の科目は見られなかった。

分析結果を踏まえた改善方策：

学科平均が 4.5 程度であることから、大きな改善方策は不要で、各自で細かな改善を行うこととした。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

前期の質問 8～質問 14 の平均は、全学の平均が 3.96 であるのに対して、学科の平均は 3.90 と学科平均が全学平均から若干低かった。後期の質問 8～質問 14 の平均は、全学の平均が 3.96 であるのに対して、学科の平均は 3.77 と低かった。また、この平均点が 3.5 以下のような低い評価の科目が 1 科目見られた。この科目は、旧カリキュラムの科目であり、2020 年度から始まった新カリキュラムでは廃止となった科目である。

分析結果を踏まえた改善方策：

特定の項目でなく、全ての科目で、学科平均が全学平均を若干下回った。特に演習科目に比べて、講義科目の評価が低い傾向にあったので、事前課題の内容等を見直したい。

【6】 教員へのフィードバックについて

アンケート結果を各教員に配布した。また、集計を元に、2 月 24 日に学科内の FD を行い、今後の改善方針に関して議論を行い、大きな改善点は必要ないことを確認した。

【7】 学生へのフィードバックについて

Cerezo を利用して、アンケート結果を学生へ公表した。また、各授業の必要な改善点を説明した。

【8】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書や学科内 FD により、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

（1）遠隔授業の影響で、集中力や出席状況が悪い学生が数名いた。また、レポート提出を締切時間内に提出できない学生がいた。レポートの提出時間を見ると、真夜中の学生も多いことから、レポートの締切を夕方までに設定するなどして、生活リズムの改善を指導したい。

（2）IT パスポート試験や基本情報処理技術者試験の過去問題を確認の小テストなどで利用する。

（3）セレッソの掲示板では質問できない学生がいる。質問がしやすくするための工夫を考える必要がある。

【9】 総 括

令和 3 年度も遠隔授業と対面授業が混在し、学生の集中力の維持に苦労した。遠隔授業では、教材を事前に読む学生が少なかった。映像による解説を増やしたが、期待したほど k 活用されていない。教科書やテキストを読んで細かい内容も学修するように指導する必要がある。また、セレッソでの小テストは選択問題が多く、解答の導出過程が見えないため、レポート課題を増やす必要がある。今後は Cerezo を利用した事前・事後学習を推し進め、学生の授業への準備や復習を促し、能動的な学修を指導したい。

令和 4 年 3 月 15 日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

工学部機械システム工学科

学科長 木村 純壮

令和 3 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

- 【1】実施期間 前期：令和 3 年 6 月 23 日（水）～令和 3 年 7 月 14 日（水）
後期：令和 3 年 12 月 13 日（月）～令和 4 年 1 月 14 日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、機械システム工学科では前期 19 科目、後期 15 科目について調査を行った。

令和 2 年度から 3 年間で全授業科目のアンケートを行う予定。今年度は 2 年目であり、計画的にアンケート科目の選定を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

総合的満足度を問う設問 7 は、全体的に見て 1.78～5.00 まで分布している。1.78 で極端に不評な 1 授業、3.25 で不評な 1 授業が見受けられるが、これらを除けば、大半の授業において、ある程度良好な範囲の評価結果に収まっている。教員の授業評価に関する 6 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。これらの設問 1～設問 6 までに関して学科平均を全学平均と比較してみると、前期結果ではどれもほぼ同程度の結果であったが、後期結果ではほぼ同程度になっているか、やや下回る結果である。一部の授業の悪評価が学科全体の結果に悪影響していると考えられる。また、授業ごとに全学平均と比較してみた場合、前述の 2 授業を除いて、大半の授業で概ね平均周辺に分布している。これらのことから、一部の授業を除き、本学科教員の板書、話法、計画性等の授業技術はあ

る程度の平均レベルに達していると考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

本学科教員の授業技術について、ごく一部の授業を除き、大半の授業で概ね平均程度の評価を受けており、ほぼ良好な状況にあると判断できる。これまで、学科全体、学科各教員においてアクティブラーニング等の導入を推進し、恒常的に授業技術・授業手法の改善・向上に取り組んできており、その効果による結果と思われる。昨年度、今年度と新型コロナウイルス感染症の影響を受け、遠隔授業を多用してきたが、学科ではほぼ問題なく、スムーズに対応することができており、これまでのセレッソやメディア教材を活用した授業技術・授業手法の改善取り組みが背景にあると考えられる。しかしながら、一部の授業では問題も浮かび上がっている。これらについては、学科 FD・SD のテーマとしても取り上げて検討を行ったりして、意識を高めるように努めている。このような活動を通して、さらなる改善取り組みが必要である。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

学科平均を全学平均と比較すると、学科平均が全学平均を上回ったのは次である。前期結果の「質問への積極性」、「意欲の高まり」、「学習の成果」。後期結果ではない。逆に、学科平均が全学平均を下回ったのは、前期結果の「関連学修」、後期結果の「集中力」、「出席状況」、「知識や技能の深まり」、「質問への積極性」。これらの後期の低調な結果は、一部の低評価の授業の悪影響を受けたものと推察される。一部の授業を除いて、全体的には概ね良好と判断している。

分析結果を踏まえた改善方策：

一部の授業を除き、学科全体として比較的良好な結果にあり、学生が学修の必要性を自ら理解し、学ぶ姿勢を見せているものと考えられる。学生が主体となり、授業に参加できるようにアクティブラーニングの導入を促進してきた成果と考えている。さらに、アクティブラーニングの質を高めて学生の自主性、主体性を引き出すように改善を進めるようにしたい。

【6】教員へのフィードバックについて

前期は 7 月 21 日（水）、後期は 1 月 21 日（金）、学科長からメールにより全ての集計結果を学科教員・非常勤講師へ配布伝達。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 100%であった。

【7】学生へのフィードバックについて

前期は 7 月 21（水）～8 月 11 日（水）の 3 週間、後期は 1 月 24（月）～2 月 4 日（金）の 2 週間（当該期間は活動指針レベル 3 であり、すべての授業が遠隔授業であった。）、当該授業科目担当教員から、講義・試験の時間に直接フィードバックあるいは Cerezo 等を用いてフィードバックした。各教員は、それぞれの結果を真摯に受けとめ評価しており、それぞれの場合に応じて、これからの対応を検討したりしている。

【8】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

- (1) 学生の興味や視野を広げるような内容により、学修成果向上を図る。
- (2) 身の回りのモノとの関連性について、よりわかりやすい教材や資料を提示し、機械工学への親近感を深め、学修意欲の向上を図る。
- (3) 学修内容が、今後どのような場で役立つのか説明する。
- (4) 予習や復習しやすい参考文献を紹介する。
- (5) 遠隔授業となった際の資料（動画を含む）の充実。
- (6) 資格試験との関連性を伝えることで、学生の関連学習や出席率の向上を図る。
- (7) 学習支援相談室が大変丁寧に対応してくださっているので、学習支援相談室を大いに活用したい。
- (8) プロダクトを制作する上で 3 次元 CAD の高度なスキルが必要な場合に、限られた授業時間内に的確に支援できるように指導側のスキルアップを不断に図る。
- (9) 学生らの関心の高いコンピュータ解析、CAD/CAE に関する自宅学習課題を効果的に与える。
- (10) BYOD を用いた演習は、コンピュータ関連の知識や勘を必要とするなど、かえって学習を難しくさせる要素がある。Cerozo を通じて予習情報を早め・十分に提供して改善を図って行く。
- (11) オンデマンド型の遠隔授業では、セレッソだけでなくメールも利用するなど、質問しやすい方法を積極的に採り入れる。
- (12) 遠隔授業が悪影響を与えている可能性がある。また、ICT 化が、学修取組みの負担になっているかもしれない。

【9】総括

学科教員全員が、授業評価アンケートの結果を冷静に分析し、各自の授業の問題点と原因究明、問題解決方針の検討等に関して記述し、積極的に取り組む姿勢を示している。1 授業の例外に関しては、学科として対応した。これまで、全学方針に沿い、各授業担当者によりアクティブラーニング・PBL 等の導入に積極的に取り組み、学生の学修成果向上のために努力している。ICT 活用、メディア教材活用も進んでいると考えられる。授業評価アンケート結果も近年向上傾向にあると思われる。不定期ではあるが、今年度、学科 FD・SD を開催し、授業研究（授業参観）や授業評価アンケート結果の意見交換等を行った。今後も、授業評価アンケート結果を利用し、学科授業の改善に取り組んでゆく方針である。

なお、極端に低評価であった 1 授業に関しては、学科として次の対応をとった。まず、当初提出された報告書は、評価結果に対して不十分と考えられ、担当教員には、評価結果に見合う入念な報告書の提出を求めた。しかし、再提出された報告書も十分なものとは言えず、学科審議を経て、授業担当者を交代することにした。（令和 4 年 2 月 10 日（木）メール会議により学科承認済み）

⑪ 生命工学部生物工学科

令和 4 年 2 月 26 日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

生命工学部生物工学科

学科長 岩本 博行

令和 3 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和 3 年 6 月 23 日（水）～7 月 14 日（水）

後期：令和 3 年 12 月 13 日（月）～令和 4 年 1 月 14 日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、生物工学科では前期 12 科目、後期 12 科目について調査を行った（教職科目 1 科目を含む）。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

- ・ 回答率は、全学に比べて著しく高く、学部に対しても有意に高かった。
- ・ 授業準備、話し方、授業時間、授業の工夫、質問への誠意、授業の満足度は、全学平均（と学部平均）に比べて有意な差は認められなかった。
- ・ 授業の計画性は、全学平均や学部平均に比べてやや低い値であった。僅差なので、この差が有意であるかどうかは不明である。
- ・ 全体的に、特に低い評価結果は見られなかった。
- ・ 全学や学部平均に比べて、著しく評価の高い項目も見られなかった。

分析結果を踏まえた改善方策：

- ・ 学科としてやや低く評価されたのは授業の計画性であった。

- ・これに関しては、もともと対面授業として計画していた内容が、急にオンデマンドやリモート授業に変更になり、学生が戸惑った面が大きかった。
- ・当学科は学生実験だけでなく、通常の授業でも実際に体験する部分が大きく、急なりモート授業や、リモートと対面を繰り返したりする形態では授業の計画性が担保できない。
- ・次年度からは安定した授業形態に移行することが望まれる。
- ・リモートやオンデマンドにはそれ相応のメリットがあり、これらを否定するものではない。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

- ・集中力、出席状況、知識や技能の深まりの項目は、全学平均と同程度であった。
- ・関連学修、質問への積極性、意欲の高まり、学修の成果の項目は、全学平均に比べるとやや低い傾向が見られた。
- ・特に点数の低い項目は関連学習で、比較的低い項目は質問への積極性と意欲の高まりであった。
- ・全体に、学修の積極性や意欲の高まりが全学に比べて低い傾向が見られ、その結果学修の成果の項目がやや低く出ているものと考えられる。
- ・全学や学部平均より、有意に評価の高い項目は見られなかった。

分析結果を踏まえた改善方策：

- ・全体に、積極的な学修姿勢をつけさせ、学修の意欲を高め、それによって学習成果をアップして、学生自身の成長につなげるような教育が必要である。
- ・そのためには一方的な授業ではなく、双方向の授業や学生に考えさせる課題の設定、グループディスカッション、課題解決型授業の設定、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを積極的に授業に取り入れる事が必要だと考えられる。

【6】 教員へのフィードバックについて

- ・教員へのフィードバックは、全学の資料を各教員に提示し、自身のアンケート結果と比較して頂き、それに基づいて授業の反省と学生へのフィードバックを行って頂いた。
- ・オンデマンドで行われた授業の一部を他の教員が視聴し、コメントを交換してフィードバックとした。

【7】 学生へのフィードバックについて

- ・学生へのフィードバックは、それぞれの授業について教員が個別に行った。
- ・フィードバック方法は、授業中に行ったり、オンデマンド資料にフィードバック内容を加えたりするなどがあった。
- ・フィードバックのための動画を作成し、YouTube にあげてオンデマンドで視聴してもらう教員もいた。

【8】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

＜意見・提案＞

- (1) 対面での授業を望む。
- (2) セレクションなどを活用して、質問しやすい環境を整備する
- (3) 動画等の AV 教材をもっと利用したかったが、リモートでは難しかった
- (4) 学生のネット環境に差があり、配信型授業ではデータのトラフィックが増大するので、授業に参加しない学生がいる。
- (5) ネット環境が厳しい学生は駅前キャンパスを使えと言うが、非現実的である。
- (6) 質問をしていないのに、質問に誠実に答えていると評価する学生が多く、事実在即さず印象で答えていると考えられる。
- (7) 学修や卒業後の人生について考えてエッセイを書かせる。
- (8) 自宅学習時間が短いので、もっと宿題などを出す。
- (9) 学生は多くのレポートや課題を抱えている。教員はその把握が困難で、一時的に過大な負荷をかけていることがあるかもしれない、それに気づかないこともありえる。今どれだけの課題を抱えているかを見える化できないか。
- (10) 急に授業形態が変わるので、シラバスからずれが生じる。
- (11) コミュニケーションが苦手な学生に対しては、メモを出してもらうなど工夫した。
- (12) オンデマンド教材のメリットが分かったので、今後も活用したい。
- (13) オンラインで提出された課題に対して、1つ1つ丁寧にコメントを返した。
- (14) 化学を例にとると、実力・能力に、どう教育しても埋めがたいほどの開きがある。
- (15) 担当授業科目が成熟するまでに年月がかかるので、担当科目を短期間で変えないでほしい。
- (16) 授業改善のアイデアがあればとくに実施している。もしあれば、他の教員に公開したい授業の工夫改善方法として、マニュアルを作成した方が良いのではないかと。

【9】総 括

新型コロナウイルス Covid-19 蔓延によるリモート・オンデマンド授業形態も3年目となり、教員、学生ともかなり定着した。教員のリモート・オンライン・オンデマンド授業スキルもだいぶ上がり、安定した運用ができるようになったが、対面とリモートが不規則にころころ入れ替わるのは、教員にも学生にもストレスが大きい。また学生の声を聞いていると、生活のリズムがすっかり狂い、課題〆切り前の深夜に、集中的に動画や資料を飛ばして視聴して課題を作成するので、ちっとも頭に入らない、課題を終えたら何をやってたのか思い出せない、といった声もよく聞いた。一方、大学に行かなくて良いので学修がはかどったとか、コミュニケーションに難があるのでリモート授業はとても助かる、という声も聞いた。対面には対面の、リモートにはリモートの良さがあるので、これからもこの両方を活用していきたい。一方、対面とリモートが不規則にころころと変わると、授業計画やシラバスからずれが生じ、安定した授業ができない。今後は、何とか安定した授業運営ができるよう望む。

授業評価結果に対する分析や改善点については、個別に上述した。教員も学生も多様性があり、色々な意見やアイデアがあって、どれが最適かを判断することは困難である。本授業評価アンケートは半期に一度行い、その都度報告や総括をしているが、教員・学生ともにマンネリ化しており、新たな提案やアイデアは出にくい状況にある。一方、また全く別の取り組みを取り入れるのは、時間的・労力的に負担が増すばかりである。

令和 4 年 3 月 19 日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

生命工学部生命栄養科学科

学科長 石井 香代子

令和 3 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和 3 年 6 月 23 日（水）～7 月 14 日（水）

後期：令和 3 年 12 月 13 日（月）～令和 4 年 1 月 14 日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、生命栄養科学科では前期 12 科目、後期 11 科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

生命栄養科学科として、全学及び学部の結果と比較して、回答率が全学よりは高値だが学部では低値で前期では平均 63.9%、後期では平均 50.9%となった。50～60%余りの回答者のため全員の意見が反映されていないことが分かった。まずきちんと回答を得る方策を学科で徹底する。質問 1 から質問 7 では、前期は平均 4.56、授業の満足度 4.44、後期は平均 4.57、授業の満足度 4.36 と比較的高値となった。

分析結果を踏まえた改善方策：

回答率向上のために、全教員が授業中での回答を推進し学生の意見を十分に吸い上げることを徹底する。授業内容への評価では後期はやや下がったが、概ね平均値をクリアできていた。学部では海洋生物科学科が通年で良好な評価を得ており、本学科としても現状の維持向上をはかれるよう教員間で情報共有と学生に分かり易い授業を更に目指す。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

質問 8 から質問 14 では、前期は平均 3.94、学修の成果 4.12、後期は平均 3.96、学修の成果 4.22 となった。

分析結果を踏まえた改善方策：

学生自身の評価から、出席はきちんとしているものの、自己学習時間が非常に少なく、学修評価は全学平均値となっていた。自己学習の機会を増やせるようごく簡単な課題などで振り返りや予習を入れることも理解につながるのではないかと考える。国家試験を控えていることを考え、試験前の学修だけでなく、日々の学修の大切さを少しでも学生に伝えていきたい。

【6】 教員へのフィードバックについて

各教員の評価はもとより、全学、学部と評価点は周知している。点数の良好な教員は良いかが、やや低値であったりする教員や科目については問題点や課題について、学科会議や学修検討会等で検討する機会を作って学科教員皆で授業を考える意義はある。

【7】 学生へのフィードバックについて

口頭での結果報告に留まらず、セレッソでもフィードバックしてより詳細に内容の説明と学生の問題点や課題を一緒に考えることをしていく。

【8】 学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

(1) 関連教科と連携して、複数回の教育が必要な領域と考えるので、複数の強化で連携して積み重ねにより最終到達目標に導く

(2) 最初から情報量が多くならないように、基本的事項から段階的に 4 年次の国試対策へと進められるよう、講義内容の見直しを行う。(国試科目である)

(3) 授業内容に関連する穴抜き問題も入れたが、それだけでは意欲的な復習への取組が薄い印象である。記入すれば正解、と言うものだけではなく自由記述のような自身の学習評価できるような内容も検討する。

【9】 総 括

総じて本学科の授業評価はまずまず受入れられていると考えられた。若干の科目・教員に対して低値の評価がある部分は今後の課題と捉え、検討する余地があると確認した。学生の問題としては、自己学習時間が非常に少なく、授業の理解度にもつながると考える。学生の負担を考慮しつつ、適度な課題の提示や振り返りなどを授業内での確認など授業方法も検討する。

令和 4 年 3 月 15 日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

生命工学部海洋生物科学科

学科長 北口 博隆

令和 3 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和 3 年 6 月 23 日（水）～7 月 14 日（水）

後期：令和 3 年 12 月 13 日（月）～令和 4 年 1 月 14 日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、海洋生物科学科学科では前期 17 科目、後期 15 科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

質問 1 から質問 7 までが授業への評価に当たる項目であるが、これらの項目の平均は、海洋生物科学科は全学を前期 0.12 ポイント、後期 0.05 ポイント上回っていた。また、【質問 7】（授業への満足度）は、当学科の平均は全学平を前期 0.20 ポイント、後期 0.10 ポイント上回っていた。これらの結果から、当学科で開講している授業科目は学生から概ね満足できると評価されていると考えられた。一方、【質問 4】（授業時間）、後期の【質問 2】（教員の話し方）は全学平均に近い値であった。これは、当学科の講義が後期にも一部の実習を除き遠隔授業となったためではないかと分析している。

分析結果を踏まえた改善方策：

2020 年度から当学科ではほとんどの授業が遠隔での実施となり、2 年目となる今年度は遠隔教材の改訂と Cerezo の活用が進み、新しい授業形態に教員・学生とも順応したことで授業評価が高い水準を維持で

きたと考えられる。しかし、一部の授業科目では遠隔教材の改善を求めるコメントがあるため、学科教員による相互チェックや優れた取り組みの共有などを通じて、授業の質改善に地道に取り組むことが必要である。また、社会情勢の変化に伴って、次年度以降は対面での授業が増えることが予想されるため、遠隔授業に適応した学生が対面授業での学修にスムーズに移行することを促すため、Cerezo の活用等による事前・事後学習の支援などの取り組みも必要となると考えられる。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

【質問 11】（知識や技能の深まり）、【質問 13】（意欲の高まり）、【質問 14】（学修の成果）、はいずれも全学平均を上回っており、遠隔授業においても学生にとって授業内容には魅力があり、学生が学修成果を実感していると判断された。一方、【質問 9】（集中力）、【質問 10】（出席状況）は全学平均に近く、学生が遠隔授業でのモチベーションの維持に苦労していることを反映していると考えられた。

分析結果を踏まえた改善方策：

受講人数の多い科目において遠隔と対面を交互に半数ずつ実施するハイブリッド授業の導入など、受講のモチベーションを維持する取り組みの実施を検討する。また、遠隔授業に慣れた学生がスムーズに対面での授業に適応できるよう、Cerezo の活用による事前・事後学習の支援を多くの授業科目に導入する。

【6】教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、全ての集計結果を学科専任教員全員に対してフィードバックしている。対象科目担当教員には、すべての集計結果に目を通したうえで自己評価を行い、それに基づいた授業評価アンケート実施報告書の作成を促している。

【7】学生へのフィードバックについて

講義の際、定期試験実施時、あるいは Cerezo を通じて当該授業科目担当教員が行った。

【8】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

(1) 遠隔授業の実施により Cerezo を利用した事前・事後課題を導入した結果、学生の自己評価が改善した。このような取り組みは、対面授業においても有効であると思われる。

(2) 課題提出を Cerezo で行うことで、他の学生と作品を共有しお互いに評価をする仕組みを導入することができ、遠隔授業であっても他者の存在を意識した学修が可能となった。

(3) 学生の学修時間（関連学習）の増加のために、図書館の学術情報検索システム（ふくふく）の活用を推進することを検討する。

遠隔授業の実施で浮き彫りとなった、学生の受け身の姿勢やモチベーションの低下を改善して主体的な学びを促すような取り組みに関するコメントが多く見られた。

【9】総 括

遠隔授業を余儀なくされたことで各教員が新たな試みを行った結果、遠隔授業のみならず対面授業においても授業改善に結びつくようなアイデアや取り組みが生まれてきている。今後はこれらの取り組みについて学科 FD 等を通じて共有し、学生の学修成果を高めるよう授業の改善に取り組んでいきたい。

⑭ 薬学部薬学科

令和 4 年 3 月 14 日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

薬学部薬学科

学科長 佐藤 英治

令和 3 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和 3 年 6 月 23 日（水）～7 月 14 日（水）

後期：令和 3 年 12 月 13 日（月）～令和 4 年 1 月 14 日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、薬学科では前期 46 科目、後期 42 科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

前期授業評価では、教員の授業評価に関する 7 項目のうち、全学平均を上回っているものは 5 項目（授業準備、教員の話し方、計画性、授業時間、質問への誠意）あったが、基本的にはすべての項目において、ほぼ全学平均と同程度であった（授業準備：全学 4.62、薬学 4.64、話し方：全学 4.41、薬学 4.42、計画性：全学 4.70、薬学 4.81、授業時間：全学 4.61、薬学 4.66、講義の工夫：全学 4.47、薬学 4.45、質問への誠意：全学 4.54、薬学 4.61、授業への満足度：全学 4.33、薬学 4.31）。後期授業評価では、7 項目すべてが全学平均上回っていたが（授業準備：全学 4.64、薬学 4.72、話し方：全学 4.47、薬学 4.53、計画性：全学 4.68、薬学 4.81、授業時間：全学 4.64、薬学 4.68、講義の工夫：全学 4.50、薬学 4.55、質問への誠意：全学 4.58、薬学 4.66、授業への満足度：全学 4.36、薬学 4.41）、前期と同様、大きな相違は認められなかった。

分析結果を踏まえた改善方策：

全体的にはすべてが 4 点以上のため問題ないと考えるが、これらの情報を教員にフィードバックし、さらなる授業改善を促していく予定である。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

前期授業評価では、学生の自己点検に関する 7 項目のうち、全学平均を上回っているものは 6 項目あったが、基本的にはすべての項目において、ほぼ全学平均と同程度であった（関連学習：全学 2.51、薬学 2.80、集中力：全学 4.31、薬学 4.53、出席状況：全学 4.69、薬学 4.88、知識の深まり：全学 4.29、薬学 4.32、質問への積極性：全学 3.65、薬学 3.28、意欲の高まり：全学 4.11、薬学 4.14、学修の成果：全学 4.16、薬学 4.18）。後期授業評価でも同様の結果であった（関連学習：全学 2.49、薬学 2.82、集中力：全学 4.27、薬学 4.51、出席状況：全学 4.62、薬学 4.90、知識の深まり：全学 4.32、薬学 4.39、質問への積極性：全学 3.71、薬学 3.47、意欲の高まり：全学 4.12、薬学 4.18、学修の成果：全学 4.22、薬学 4.25）。

分析結果を踏まえた改善方策：

前期、後期共に「質問への積極性」が低い傾向にある。学生が質問しやすい環境作りに改善していきたい。

【6】教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、学科教員全員に対してフィードバックしている。対象科目担当教員には、それをもとに授業アンケートの実施報告書の提出を求めた。

【7】学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは、講義最終回、定期試験実施時、Cerezo のいずれかにおいて実施した。詳細は各教員が提出した報告書に記載している。

【8】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

(1) 遠隔授業の場合は、セレッソだけでなく、Zoom 等を利用した補講や問題解説の授業時間を設け、学習意欲を高めていく。

(2) オンライン授業であっても学生が自己学習を行いやすいように、事前配布する講義資料に学生自身があらかじめ調べておくべきキーワードを記載する。

(3) 複数教員で分担している授業を、一人の教員が責任をもって担当するよう変更すれば、アンケートの各項目について一貫性を持った教育ができるようになり、その結果として学生の学習成果が望ましい方向に進展する。

(4) 基礎科目が選択科目であるため、この単位を取得していない学生が応用科目を受講している場合がある。当該学生の学習成果を上げるためには、基礎科目の必修化が望まれる。

(5) 今の薬学部多くの講義は記号問題・選択問題が多いため、学生個人が講義内容を自分の知識で記

述して説明することが問われなくなっている。毎回の講義でも内容を自分の知識で説明させる課題を取り入れて理解させる必要がある。

(6) 授業毎に確認試験をおこなうことは、学生及び教員がお互いに理解度を把握しながら進行でき、理解不足項目を補足説明しながら進行できる（セレッソを用いることで分からない項目についても統計を取れる）。

(7) 各講義の初めと終わりに、その講義の概要を伝えることで理解が促されるのではないかと考える。

(8) 学生の学習意欲や成果・能力を高めるためには、教員の講義の質を向上させることが重要と考える。授業アンケートや FD も重要だが、その受け止め方に温度差があるように感じる。学内で研究成果を評価・公表するように、教育内容も評価・公表するような仕組みを作るのも一つの方策である。

【9】総 括

薬学部では「質問への積極性」が低い傾向にあるものの、その他の項目は概ね全学平均よりも高い傾向にあった。これは学生に対してオフィスアワーの周知徹底を図るなどすることで質問への積極性を高め、学習の成果をさらに伸ばす努力を続ける必要がある。また、カリキュラム編成、筆記式の課題設定、教育内容の評価・公表する仕組み等について提案がなされ、今後の検討課題である。

⑮ 大学教育センター

令和 4 年 3 月 18 日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

大学教育センター

センター長 鶴田 泰人

令和 3 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本センターの授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和 3 年 6 月 23 日（水）～7 月 14 日（水）

後期：令和 3 年 12 月 13 日（月）～令和 4 年 1 月 14 日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、大学教育センターでは前期 52 科目、後期 59 科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査は、従来通りの設問項目とし、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。

各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとしたが、【質問 3】授業の計画性では「シラバスを読んでいない」、【質問 4】授業時間では「この授業は遠隔授業なのでわからない」、【質問 6】質問への誠意では「質問したことがない」が設けられており、6 つの選択肢としている。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。調査結果は集計後、各回答に係数を乗し全回答数で除すことで、5 点満点で評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、標準値は 3.5 となる。

調査結果は、大学教育センター教育開発部門から、大学教育センター長経由で配布されたものを受理した。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。

点検結果の分析：

(R3 前期)

本センター平均 4.52 (一昨年 4.50) 全学平均 4.53 より 0.01 ポイント低い

全学平均より低い設問

「授業の計画性」(本センター4.67<全学 4.70) 0.03 ポイント低い

「授業時間」(本センター4.56<全学 4.61) 0.05 ポイント低い

(R3 後期)

本センター平均 4.55 (昨年 4.46) 全学平均 4.55 と同じ

全学平均より低い設問

「授業の計画性」(本センター4.65<全学 4.68) 0.03 ポイント低い

分析結果を踏まえた改善方策：

下線を引いたように、前期・後期を通じて「授業の計画性」で同じ 0.03 ポイント全学平均よりも低いことが判った。同設問は「授業はシラバス通りに行われていますか？」と問うものである。授業は時には脱線することもあるが、決して「シラバス通りに行わなければならない」ものでもないとする。全学平均との比較で低いというだけで「ここに問題がある」とは言い難い。

とはいえ、もしその授業の計画が当受講者と確認し合える時間が設けられていない科目があるなら、当科目担当者にそうした時間を設けてもらえるように提案してみたい。そうした結果は、ここでの改善に繋がるだろうか。試してみることに始めてみたい。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

(R3 前期)

本センター平均 3.90 (一昨年 3.72) 全学平均 3.96 より 0.06 ポイント低い

全学平均より低い設問

「関連学習」(本センター2.28<全学 2.51) 0.23 ポイント低い

「集中力」(本センター4.30<全学 4.31) 0.01 ポイント低い

「出席状況」(本センター4.62<全学 4.69) 0.07 ポイント低い

「知識や技能の深まり」(本センター4.20<全学 4.29) 0.09 ポイント低い

「意欲の高まり」(本センター4.02<全学 4.11) 0.09 ポイント低い

「学修の成果」(本センター4.09<全学 4.16) 0.07 ポイント低い

(R3 後期)

本センター平均 3.93 (昨年 3.88) 全学平均 3.96 より 0.03 ポイント低い

全学平均より低い設問

「関連学習」(本センター2.32<全学 2.49) 0.17 ポイント低い

「出席状況」(本センター4.56<全学 4.62) 0.06 ポイント低い

「知識や技能の深まり」(本センター4.27<全学 4.32) 0.05 ポイント低い

「意欲の高まり」(本センター4.06<全学 4.12) 0.06 ポイント低い

「学修の成果」(本センター4.20<全学 4.22) 0.02 ポイント低い

分析結果を踏まえた改善方策：

全体的には、前期に比べて後期のほうが全学平均との差が縮小したように見える。ここでは、個別に見た場合に、全学平均との差が比較的大きい「関連学習」「知識や技能の深まり」「意欲の高まり」の3つに注目してみたい。

本センター『大学教育論叢』第8号（2022年3月刊行予定）には、令和3年度第8回教育改革シンポジウムのアンケート結果が記録されている。その記録では「4. 視聴後の様々な感想から言えること」がまとめられている。これによれば、遠隔方式による教育では「関連学習、集中力、意欲の高まり」が期待できると述べるもののあったことが紹介されている。

本センターにおける「関連学習」「意欲の高まり」の各平均は、たしかに全学平均に比べれば低いと言えるが、見方を変えて本センターの前期と後期で比べてみると、各設問とも後期では当平均の上昇していることが判る。このことは、「知識や技能の深まり」でも言えることである。

先述の遠隔方式による教育への一期待に照らしてみるならば、コロナ禍以降の時間の経過とともに、本センター関係教員の遠隔方式による教育も少しずつ充実していると言えるのかもしれない。また、そのことが一定の学生の期待に応えるものとなっているのかもしれない。

翻って元へ戻すと、これら3つの設問において全学平均との差が大きいのは、学生の本センターが担う全学共通教育への興味・関心や意欲が各学部・学科における専門教育へのそれらとは異なると考えられる点に、その差の理由があると思われる。ならば、全学共通教育に属する各科目が専門教育とどう繋がるのかが問われ続ける中で、ここでの問題は解決していくだろう。

【6】教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果は、非常勤講師を含む大学教育センター関係教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックした。非常勤講師の場合、大学のメールシステムへのアクセスが常勤者のように容易ではないことや、そもそもインターネットを使用しない非常勤講師も含まれることから、集計結果を適時、適切に各人の手許に届けること自体に大変な労力を要する。しかし、最終的には全ての教員に各自の授業評価の結果を知らせることができた。

【7】学生へのフィードバックについて

学生に対するフィードバックは講義最終回までに、あるいは定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行うこととした。これについても非常勤講師に関しては連絡などに手間取ることもあり、所定の期間内に学生へのフィードバックが困難なケースも生じたようである。また、そもそもすべての授業を遠隔で実施した科目もあり、この場合も含めて、多くの科目担当者がCerezo上に掲載することで学生へのフィードバックを行った。

このフィードバック結果に基づき、対象科目担当教員には授業評価アンケート実施報告書の提出を求めた。最終的に全ての大学教育センター関係教員からフィードバック報告書が提出された。

【8】大学教育センター関係教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要

約する。

<意見・提案>

(1) 意見

検討を必要とする問題を指摘していると思われる意見を、以下に挙げる。

- ・ 全 15 回の授業を待たずに途中でアンケートをとることは、映画の感想を最後まで見ずに途中 7、8 割の段階で聞くことと同じであるので、アンケートは授業回数の最後近辺でとるべきである

(2) 提案

本センター関係教員にとって有用であると思われる提案を抜粋し、以下に列举する。

- ・ 授業者自らが授業内容をさらに理解しようとする態度をもつことが、学生の学習成果を望ましい方向に進展させる最も重要な方策である
- ・ 各学科に所属する受講者は学科での専門的な学びが中心となることを十分に考慮し、各受講者のプロフィールを知りつつ理解しながら自身が担当する科目の授業を作る
- ・ 「振り返り」の機会を増やして、過去の自分との比較を促すようなワークを組み込む
- ・ 教員からのフィードバックの機会を増やす
- ・ 遠隔の手法が、対面授業時よりも却って積極的で詳細な意見や感想のセッション上での開陳を生んだのも事実であり、アフターコロナの時期になっても、この利点は大いに活かす
- ・ 自ら取り組むレッスンとすることを考慮に入れるならば、13「意欲の高まり」の数値を向上させるために、より取り組みやすいメニューに絶えずアップデートしていく必要がある
- ・ 学力が多様化した学生を同時に満足させる授業を実現することには困難な面もあるが、遠隔・対面いずれの授業でも対応できるように、教材の見直し、演示実験の活用、動画教材の作成等、より多くの学生の興味を引けるような授業を目指して、講義内容を不断に修正していく

【9】総括

コロナ禍の中で、遠隔授業が続けられている。同時に、その状況によっては、従来の対面授業が行われもした。教員によっては、コロナ禍後を見据えて、早くも対面・遠隔のハイブリッド型の教育を志向し、そのための創意工夫をしている。

遠隔教育の実施で「思いのほか学生からの質問が多くなった」「予習の充実が図られるようになった」「学生の繰り返し学習が充実した」など遠隔のよさに気づくと同時に、「やはり対面のほうが…」のように対面のよさに気づくことにもなった。

本センター関係教員は、今年度の授業評価アンケートの結果を振り返り、それぞれに問題点を見い出し、見つけた問題点を真摯に受けとめて、よりよい授業実践へと繋げようとしている。

ある教員が持っている課題を、自身の課題とも受けとめ、ともに授業力の向上に努めて参りたい。そのために、各々の結果の開示のあり方を検討したり、すでに本センター内で実施が続けられている「授業研究」の充実を図ったりしていくことが考えられる。

⑩ 共同利用センター

令和 4 年 3 月 10 日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

共同利用センター

センター長 鶴崎 健一

令和 3 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和 3 年 6 月 23 日（水）～7 月 14 日（水）

後期：令和 3 年 12 月 13 日（月）～令和 4 年 1 月 14 日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、共同利用センターでは前期 2 科目（8 時間分）、後期 1 科目について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

今回、アンケートを実施した科目（前期 2 科目、後期 1 科目）のうち、2 科目は全学平均と同程度か若干上回る評価であった。評価の低かった前期の 1 科目（備後地域学）は、学外講師を含めたオムニバス形式の授業である。この科目は受講生数も多い（令和 3 年度は 232 名）ため、昨年度、今年度は新型コロナウイルス感染防止の影響で、すべてオンデマンドの授業となった。そのうちほぼ半分の授業については過去に授業を録画したビデオを利用することとなり、pdf 資料なども配布は行なったものの、音声の聞き取りにくさや資料の見えにくさなどが低評価につながったと思われる。

分析結果を踏まえた改善方策：

新型コロナウイルス感染防止のため、受講生の多い授業では対面での実施ができず、また、学外講師が多いこともありすべての授業について資料を新規に作成することが難しい状況にあった。来年度も同様の

状況が考えられるので、ビデオ教材の新規録画を外部講師も含めて全教員に依頼することとしたい。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

今回、アンケートを実施した科目（前期 2 科目、後期 1 科目）のうち、2 科目は全学平均と同程度であった。評価の低かった備後地域学については、自分たちの住む地域について興味関心を持ってもらうことが目的の科目であるが、「知識の深まり」や「意欲の高まり」の項目で高い評価を得られなかった。また、いずれの科目も「関連学習」の時間が全学平均よりも短いという結果であった。

分析結果を踏まえた改善方策：

評価の低かった備後地域学については、「知識の深まり」や「意欲の高まり」を高めるために学生にとって臨場感のある授業を行うことが重要と思うため、対面での実施が望まれる。叶わない場合は、すべての授業についてビデオ教材の新規録画を行いたい。

また、前年度も「関連学習」の時間の短さが課題となり、各授業で工夫を行なったものの改善に至らなかった。受講生への負担とならないように注意を払いながら、適切な課題の提示による「関連学習」の増加のためのさらなる工夫を各教員に促したい。

【6】教員へのフィードバックについて

アンケート集計結果を各教員個別にフィードバックした。

【7】学生へのフィードバックについて

各教員が、授業時間内（主に最終回）に Cerezo のグラフデータを利用してフィードバックを行った。

【8】学科教員からの提案、意見

各教員より提出された授業アンケート実施報告書より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

<意見・提案>

(1) 受講生が多く、オムニバス形式の授業については、対面授業ができない場合には、ビデオ教材の新規録画を外部講師も含め全教員に求めることで、授業内容の改善を図る。

(2) 学修時間の確保については、単に調べさせるだけでなく考えさせるような課題を設定するよう工夫する。集中力や出席状況の改善のためには、これまで以上に授業中での学生自身による検索、学生に発言させるなどの機会を増やす工夫をする。

【9】総括

共同利用センターは、センター独自の授業科目を開講しておらず共通教育科目や学科の専門科目の一部を担当している、また、授業内容が教員間で大きく異なるため、本センター全体としての評価は難しい。一方で、教員の勤めとして、学生のための効果的な授業展開は必要である。昨今の新型コロナウイルス感染防止対策などの影響で通常と異なる対応が必要な状況が続いているが、SD などを通じて継続的に教員としての資質を高める努力を本センターにおいても怠らないようにしたい。

⑪ 国際センター

令和 4 年 3 月 2 日

大学教育センター

鶴田 泰人 センター長 殿

国際センター長

伊丹 利明

令和 3 年度「学生による授業評価アンケート」の集計結果を踏まえ、本学科の授業とその成果について点検したので報告いたします。

【1】実施期間 前期：令和 3 年 6 月 23 日（水）～7 月 14 日（水）

後期：令和 3 年 12 月 13 日（月）～令和 4 年 1 月 14 日（金）

【2】対象科目の選定

全ての授業科目（受講者 6 名未満の授業を除く）についてアンケートを実施する方針に従い、国際センターでは前期「日本語（3）」、後期「中国語（1）」について調査を行った。

【3】アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 7 項目、学生自身の学習点検に関する 7 項目、合計 14 項目について調査した。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

【4】調査結果の集計

アンケート調査および集計は学習支援システム Cerezo を利用して行った。

【5】調査結果に対する点検

◇「授業評価アンケート」について

評価結果の分析：

「授業準備」、「講義の工夫」及び「質問への誠意」に対する評価から、先生が熱心に授業にあたっていたことが窺える。それにも関わらず、満足度が低いというのは、学生が「中国語が話せるようになった」等確たる実感や自信が掴めていないことに起因しているのではないかと考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

今後、授業では身につけてもらう基本的なことをより明確に毎回示し、中国語の会話でよく使う基本フレーズの暗記を徹底にすることにより、学生の「できた感、わかった感」などの実感を高める。授業外では受講者と中国人留学生と交流する場を設けて、実践体験による学習意欲の向上を図る。

◇「学生の自己点検」について

点検結果の分析：

初修第2外国語に対する期待とは裏腹に、現実には週1回の授業、しかも遠隔が多い状況である。このような学習環境では、学習者は初修第2外国語を「実用」的な学習としてとらえるのか、あるいは「教養」としてとらえるのか、迷っているように感じられ、迷いが満足度の低さの原因と考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：

初修第2外国語としての「実用」と「教養」のバランスについて、学生とビジョンをしっかりと統一しておく。毎回の授業で最小限身につけてもらう学習内容を明確にして、徹底にした上で、中国の社会、文化、また中国語の特徴など幅広い知識に触れさせ、中国語や中国文化への興味関心を持続させる。

【6】教員へのフィードバックについて

「授業評価アンケート結果に対する報告書」の提出後、意見交換を行った。

【7】学生へのフィードバックについて

期末試験時、行った。

【8】学科教員からの提案、意見

特になし

【9】総括

「中国語」は国際センターの科目ではないが、中国人留学生が多い本校の国際交流において、日本人学生の国際化への何らかの接点、またヒントになればと考える。

7. 令和3年度（前期）授業評価アンケート実施科目一覧

学部	学科	実施教員	科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
経済学部	経済学科	石丸 敬二	情報処理基礎	G02INL110i	水	3時限	39
経済学部	経済学科	北浦 孝	スポーツ生理学	EE6SPM1300	木	2時限	59
経済学部	経済学科	楠田 昭二	ミクロ経済政策	EE6GME3280	火	4時限	80
経済学部	経済学科	高羅 ひとみ	ミクロ経済学	E05MBS1101	火	4時限	69
経済学部	経済学科	櫻木 規美子	スポーツ理論Ⅰ	EE6SPM1200	木	4時限	112
経済学部	経済学科	佐藤 彰三	地方財政論基礎	EE6GME2650	木	3時限	128
経済学部	経済学科	田中 征史	経済数学入門	E05MBS1131	火	1時限	73
経済学部	経済学科	中村 和裕	現代スポーツ論Ⅰ	EE6SPM1100	火	4時限	78
経済学部	経済学科	野田 光太郎	スポーツ産業論	EE6SPM3100	金	2時限	53
経済学部	経済学科	藤本 倫史	スポーツ社会学	EE6SPM3350	水	1時限	60
経済学部	経済学科	三川 敦	経済数学	E05MBS1451	水	2時限	22
経済学部	経済学科	村松 悠次	ミクロ経済学入門	E05MBS1111	火	4時限	119
経済学部	経済学科	吉田 卓史	スポーツマネジメント論	EE6SPM2200	木	3時限	78
経済学部	経済学科	李 森	社会保障論	EE6GME3400	水	2時限	114
経済学部	経済学科	岡本 昌規	体育実技Ⅲ（陸上競技）	EE6SPM2600	金	1時限	18
経済学部	経済学科	勝矢 倫生	日本経済史	EE6GME2300	金	2時限	160
経済学部	経済学科	高阪 勇毅	金融システム	EE6GME2350	月	5時限	234
経済学部	経済学科	新谷 士朗	スポーツ心理学	EE6SPM3450	金	1時限	56
経済学部	経済学科	田邊 一洋	スポーツとメディア	EE6SPM3400	金	1時限	14
経済学部	経済学科	畑本 佳恵	情報処理基礎	G02INL110j	水	4時限	39
経済学部	経済学科	大和証券	証券市場論	EE6GME3840	水	4時限	83
経済学部	国際経済学科	足立 浩一	国際学	EI6IEC2630	木	2時限	26
経済学部	国際経済学科	呉 青姫	中国経済論Ⅰ	EE6IEC2300	木	2時限	49
経済学部	国際経済学科	佐野 穂先	貿易概論	EE6IEC3100	木	1時限	140
経済学部	国際経済学科	佐野 穂先	英語マスターⅠ	EI6IEC1300	月	2時限	65
経済学部	国際経済学科	鍋島 正次郎	専門英語	G02ENG350m	木	4時限	64
経済学部	国際経済学科	早川 達二	マクロ経済学	E05MBS1151	月	1時限	33
経済学部	国際経済学科	Bisset Ian James	経済学演習Ⅰ	E06CMS310r	月	3時限	10
経済学部	国際経済学科	富士 彰夫	アメリカ経済論Ⅰ	EI6IEC2180	木	1時限	83
経済学部	国際経済学科	白 映旻	オープンマクロ経済学	EE6IEC3150	月	2時限	147
経済学部	国際経済学科	尾田 温俊	EU経済論Ⅰ	EE6IEC3250	月	2時限	34
経済学部	国際経済学科	平山 亮	アジアビジネス事情Ⅰ	EI6IEC3700	金	3時限	43
経済学部	国際経済学科	向井 洋	金融から見える世界Ⅰ	EE6IEC2400	水	5時限	124
経済学部	税務会計学科	大城 朝子	経営戦略論Ⅰ	EE6ACM3100	水	3時限	109
経済学部	税務会計学科	許 霽	監査論Ⅰ	EA6ABA3800	火	2時限	72
経済学部	税務会計学科	小林 正和	プレゼンテーション	E06CMS2100	木	1時限	14
経済学部	税務会計学科	白木 康晴	所得税法	EA6ABA3900	月	2時限	27
経済学部	税務会計学科	関下 弘樹	簿記原理	E05MBS1212	水	3時限	85

学部	学科	実施教員	科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
経済学部	税務会計学科	張 楓	地域調査Ⅱ	EA6ABA2970	月	5時限	11
経済学部	税務会計学科	長濱 照美	会計学総論Ⅰ	EA6ABA1100	月	5時限	60
経済学部	税務会計学科	堀田 彩	人的資源管理	EA6ABA3350	金	3時限	28
経済学部	税務会計学科	荒谷 隆紘	税務会計Ⅰ	EA6ABA3700	金	2時限	43
人間文化学部	人間文化学科	青木 美保	日本文学研究法Ⅰ	HA6LIT3140	月	3時限	33
人間文化学部	人間文化学科	小原 友行	地誌概論	HA5BDS1750	火	3時限	62
人間文化学部	人間文化学科	小原 友行	文化演習Ⅰ	HA6RPE3101	木	4時限	8
人間文化学部	人間文化学科	重迫 隆司	専門英語	G02ENG350q	金	3時限	55
人間文化学部	人間文化学科	清水 洋子	中国古典文化研究Ⅰ	HA6LIT3220	火	2時限	32
人間文化学部	人間文化学科	原 千史	ヨーロッパの芸術と思想Ⅰ	HA6ETH3370	月	3時限	24
人間文化学部	人間文化学科	原 千史	ドイツ語表現法Ⅰ	HA6ETH2220	水	2時限	7
人間文化学部	人間文化学科	古内 絵里子	日本史概論	HA5BDS1850	水	2時限	59
人間文化学部	人間文化学科	村上 亮	世界史概論	HA5BDS1900	金	2時限	44
人間文化学部	人間文化学科	柳川 真由美	日本近世の政治と文化Ⅰ	HA6HIC3220	木	3時限	48
人間文化学部	人間文化学科	柳川 真由美	地域史研究法Ⅰ	HA6HIC3100	金	2時限	26
人間文化学部	人間文化学科	脇 忠幸	日本語学概論Ⅰ	HA6ETH2100	金	4時限	32
人間文化学部	人間文化学科	市瀬 信子	中国近世文化研究Ⅰ	HA6LIT3260	金	4時限	24
人間文化学部	人間文化学科	竹村 信治	日本の中世文学Ⅰ	HA6LIT3420	月	2時限	36
人間文化学部	人間文化学科	佐藤 和博	文化企画実習Ⅱ	HA6RPE2100	水	4時限	47
人間文化学部	人間文化学科	田野 慎二	日本王朝文学研究Ⅰ	HA6LIT2100	木	1時限	15
人間文化学部	人間文化学科	藤本 真理子	日本語の歴史	HA6ETH3100	火	5時限	11
人間文化学部	人間文化学科	三井 麻央	ヨーロッパ美術史Ⅰ	HA6HIC2280	金	4時限	22
人間文化学部	人間文化学科	嶋村 佳奈	日本古代の社会と文化Ⅰ	HA6HIC3160	月	4時限	19
人間文化学部	心理学科	赤澤 淳子	発達心理学	HP6CRS2350	木	2時限	65
人間文化学部	心理学科	枝廣 和憲	教育相談	QC7TTC3200	木	5時限	59
人間文化学部	心理学科	大杉 朱美	捜査心理学	HP6ADS3450	金	2時限	106
人間文化学部	心理学科	金平 希	障害者・障害児心理学	HP6ADS3300	月	3時限	68
人間文化学部	心理学科	日下部 典子	心理学概論	H05BFS1100	木	1時限	72
人間文化学部	心理学科	武田 知也	健康・医療心理学	HP6ADS3200	火	1時限	68
人間文化学部	心理学科	中野 美奈	心理実習	HP6PRS4300	金	4時限	10
人間文化学部	心理学科	平 伸二	神経・生理心理学	HP6CRS2250	水	1時限	66
人間文化学部	心理学科	福留 広大	心理調査概論	HP6CRS2100	火	2時限	58
人間文化学部	心理学科	松本 明生	心と健康	G03THC1200	火	1時限	187
人間文化学部	心理学科	宮崎 由樹	知覚・認知心理学	HP6CRS2200	月	1時限	61
人間文化学部	心理学科	山崎 理央	臨床心理学概論	HP6CRS2150	水	3時限	64
人間文化学部	メディア・映像学科	内垣戸 貴之	メディア表現入門	HM5BDS1150	木	1時限	44
人間文化学部	メディア・映像学科	田中 始男	情報セキュリティ	HM6RAS3150	月	3時限	33
人間文化学部	メディア・映像学科	筒本 和広	eビジネス	E06CMS3200	月	3時限	120

学部	学科	実施教員	科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
人間文化学部	メディア・映像学科	中嶋 健明	専門ゼミ	HM6IPS4100	水	3時限	35
人間文化学部	メディア・映像学科	丸山 友美	専門英語	G02ENG350b	月	4時限	31
人間文化学部	メディア・映像学科	安田 暁	写真論	HM6EPS2300	火	4時限	46
人間文化学部	メディア・映像学科	渡辺 浩司	メディア表現入門	HM5BDS1150	木	1時限	44
人間文化学部	メディア・映像学科	大谷 治	メディア応用実習	HM6EPS3350	火	3時限	36
人間文化学部	メディア・映像学科	長尾 光徳	メディア応用実習	HM6EPS3350	火	3時限	36
人間文化学部	メディア・映像学科	松下 和弘	マスメディア論	HM6FSU1100	火	3時限	49
人間文化学部	メディア・映像学科	山本 光秀	サウンドデザイン	HM6EPS3150	水	4時限	35
人間文化学部	メディア・映像学科	大塚 勉	グラフィックデザイン	HM6EPS2100	木	2時限	42
人間文化学部	メディア・映像学科	渡辺 敏恵	アナウンス	HM6EPS1100	金	3時限	19
工学部	スマートシステム学科	沖 俊任	M B D実習Ⅰ	TA6EXE3150	月	2時限	7
工学部	スマートシステム学科	香川 直己	電気電子基礎	TA6COM1110	火	1時限	17
工学部	スマートシステム学科	伍賀 正典	プログラミング実習	TA6EXE2300	水	1時限	19
工学部	スマートシステム学科	菅原 聡	電気磁気学Ⅱ	TA6COM2110	木	3時限	31
工学部	スマートシステム学科	関田 隆一	技術者倫理	TA6COM2500	月	1時限	30
工学部	スマートシステム学科	田中 聡	通信工学	TA6EEC3100	木	1時限	11
工学部	スマートシステム学科	仲嶋 一	基礎電気工学	LM5PHS2100	木	3時限	57
工学部	スマートシステム学科	三谷 康夫	工業数学Ⅰ	TA5FUS1200	火	2時限	18
工学部	スマートシステム学科	宮内 克之	防災工学	T06SSE2100	火	1時限	80
工学部	スマートシステム学科	鳴石 しのぶ	キャリアデザインエンジニア入門	TI5FUS3100	木	2時限	46
工学部	建築学科	伊澤 康一	建築環境工学Ⅰ	TK6FUA2400	木	4時限	75
工学部	建築学科	梅國 章	建築構法	TK6FUA2500	木	3時限	77
工学部	建築学科	大島 秀明	都市計画	T06SSE3200	水	1時限	142
工学部	建築学科	酒井 要	C A D演習Ⅰ	TK6FUA2250	金	4時限	77
工学部	建築学科	佐々木 伸子	福祉住環境計画	TK6LED3300	火	1時限	51
工学部	建築学科	佐藤 圭一	建築保存・再生論	TK6COM3350	水	2時限	22
工学部	建築学科	田辺 和康	測量学及び実習	TK6COM3750	金	2時限	20
工学部	建築学科	都祭 弘幸	建築構造Ⅱ	TK6ARC3300	木	3時限	36
工学部	建築学科	藤原 美樹	建築計画Ⅰ	TK6FUA2300	月	4時限	77
工学部	建築学科	山田 明	構造・力学入門	TK6FUA1300	金	1時限	78
工学部	建築学科	山本 一貴	建築設計演習Ⅰ	TK6FUA2110	火	4時限	54
工学部	建築学科	島田 美和子	生活デザイン演習Ⅲ	TK6LED3100	水	4時限	15
工学部	建築学科	秋岡 昌彦	造形デザインⅠ	TK6FUA2200	木	2時限	23
工学部	建築学科	藤井 稔己	建築材料実験	TK6COM3600	木	5時限	38
工学部	情報工学科	池岡 宏	みらい工学プロジェクト	T06PBL1109	月	5時限	33
工学部	情報工学科	尾関 孝史	確率・統計	TI5FUS1750	木	3時限	33
工学部	情報工学科	金子 邦彦	人工知能	TI6APP3100	金	3時限	85
工学部	情報工学科	新谷 敏朗	ゲームプログラミング	TI6SOF3150	月	2時限	50

学部	学科	実施教員	科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
工学部	情報工学科	中道 上	ソフトウェア設計演習	TI6EXE3150	火	3時限	55
工学部	情報工学科	宮崎 光二	プログラミング応用演習	TI6EXE2100	木	4時限	78
工学部	情報工学科	森田 翔太	Webプログラミング	TI6NET3100	火	2時限	47
工学部	情報工学科	山之上 卓	みらい工学プロジェクト	T06PBL1104	月	5時限	16
工学部	情報工学科	吉原 和明	コンピュータネットワーク	TI6NET2100	月	3時限	59
工学部	機械システム工学科	内田 博志	エンジンシステム	TG6MSA3300	月	3時限	20
工学部	機械システム工学科	内田 博志	自動車工学実習Ⅰ	TG6AME1200	水	4時限	9
工学部	機械システム工学科	内田 博志	機械工学実験Ⅰ	TG6MSA2250	月	2時限	33
工学部	機械システム工学科	内田 博志	自動車整備検査実習Ⅲ	TG6CMT4100	金	4時限	7
工学部	機械システム工学科	内田 博志	エンジンデザイン	TG6MSB3100	金	4時限	20
工学部	機械システム工学科	内田 博志	自動車構造Ⅰ	TG6AME1100	木	3時限	10
工学部	機械システム工学科	加藤 昌彦	要素設計学	TG6MSA2200	木	2時限	36
工学部	機械システム工学科	木村 純壮	工業数学Ⅱ	TG5FUS2100	金	4時限	16
工学部	機械システム工学科	小林 正明	自動車法規	TG6CMT4150	火	1時限	9
工学部	機械システム工学科	小林 正明	みらい工学プロジェクト	T06PBL110a	月	5時限	14
工学部	機械システム工学科	坂口 勝次	感性デザイン	TG6MSB4100	木	2時限	11
工学部	機械システム工学科	坂口 勝次	熱力学	TG6MSA2500	月	3時限	38
工学部	機械システム工学科	坂口 勝次	機械システム工学入門	TG6MSA1100	金	5時限	44
工学部	機械システム工学科	関根 康史	メカニカルデザイン	TG6MSB3150	火	3時限	25
工学部	機械システム工学科	中東 潤	デジタルデザイン	TG6MSB2102	金	1時限	15
工学部	機械システム工学科	中東 潤	モノづくり実習	TG6MSA2150	木	4時限	23
工学部	機械システム工学科	真鍋 圭司	機械工学実験Ⅱ	TG6MSA3100	月	2時限	20
工学部	機械システム工学科	真鍋 圭司	工業力学	TG6MSA2100	水	3時限	46
工学部	機械システム工学科	土井 康明	流体工学	TG6MSA2450	木	1時限	33
生命工学部	生物工学科	岩本 博行	専門英語	G02ENG350h	木	1時限	34
生命工学部	生物工学科	太田 雅也	構造生化学	LB5BCH2700	月	1時限	40
生命工学部	生物工学科	佐藤 淳	環境ゲノム学	LB6ABI3800	金	1時限	28
生命工学部	生物工学科	秦野 琢之	微生物培養工学	LB6ABI3200	月	2時限	36
生命工学部	生物工学科	原口 博行	生化学Ⅰ	LN5BMD1100	火	1時限	34
生命工学部	生物工学科	久富 泰資	多様性生物学	LB6BII4800	木	1時限	6
生命工学部	生物工学科	広岡 和丈	化学Ⅱ	LB5CHE1620	月	2時限	28
生命工学部	生物工学科	松崎 浩明	教養ゼミ（教養講座を含む）	G01FYE1104	水	3時限	28
生命工学部	生物工学科	山口 泰典	動物資源学	LB6BII2400	火	1時限	33
生命工学部	生物工学科	山本 覚	代謝生化学	LB5BCH3700	火	2時限	32
生命工学部	生物工学科	吉崎 隆之	食品化学	LB6BII2300	水	1時限	33
生命工学部	生物工学科	磯崎 哲夫	理科教育法Ⅰ	QC7TTC3820	火	3時限	10
生命工学部	生命栄養科学科	石井 香代子	給食マネジメント実習Ⅱ	LN6FSM3150	他	その他	42
生命工学部	生命栄養科学科	井ノ内 直良	食品科学	LN5FOH1100	水	1時限	28

学部	学科	実施教員	科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
生命工学部	生命栄養科学科	菊田 安至	分子生物学	LN5BMD2100	水	1時限	33
生命工学部	生命栄養科学科	田中 信一郎	解剖生理学Ⅱ	LN5BMD2150	水	2時限	33
生命工学部	生命栄養科学科	中崎 千尋	健康管理概論	LN5SHE1100	火	2時限	28
生命工学部	生命栄養科学科	西 彰子	栄養教育論実習	LN6NUE3200	他	その他	43
生命工学部	生命栄養科学科	村上 泰子	臨床栄養学Ⅱ	LN6CLN3250	木	2時限	37
生命工学部	生命栄養科学科	山本 英二	食品の製造と保存	LN5FOH3101	木	1時限	43
生命工学部	生命栄養科学科	吉田 純子	応用栄養学実習	LN6APN2250	他	その他	31
生命工学部	生命栄養科学科	福田 伸治	食品衛生学	LN5FOH2150	金	2時限	34
生命工学部	生命栄養科学科	荻野 太司	社会福祉概論	LN5SHE2200	火	2時限	32
生命工学部	生命栄養科学科	久保田 みどり	調理学実習Ⅱ	LN5FOH2400	他	その他	32
生命工学部	海洋生物科学科	有瀧 真人	水産学概論	LM6MCS2450	金	1時限	126
生命工学部	海洋生物科学科	伊丹 利明	微生物と人間	G03NAS1950	木	2時限	49
生命工学部	海洋生物科学科	太田 健吾	増養殖学	LM6RUD3101	水	1時限	71
生命工学部	海洋生物科学科	金子 健司	遺伝資源の利用と管理	LM6RUD4100	月	2時限	7
生命工学部	海洋生物科学科	金子 健司	専門英語	G02ENG350k	木	1時限	36
生命工学部	海洋生物科学科	我如古 菜月	フードプロセス	LM6MFS3100	水	2時限	68
生命工学部	海洋生物科学科	北口 博隆	沿岸域の環境と生物	LM6FIE3100	水	2時限	51
生命工学部	海洋生物科学科	倉掛 昌裕	微生物発酵と食品	LM6MFS3150	火	1時限	89
生命工学部	海洋生物科学科	阪本 憲司	生物学Ⅱ	LM5BIO1150	火	1時限	114
生命工学部	海洋生物科学科	真田 誠至	博物館概論	LM6AQS3200	金	2時限	66
生命工学部	海洋生物科学科	高村 克美	バイオ情報処理演習	LM5BIS3150	水	3時限	12
生命工学部	海洋生物科学科	高村 克美	生物学Ⅰ	LM5BIO1100	金	2時限	116
生命工学部	海洋生物科学科	水上 雅晴	水生観賞生物の分類と飼育	LM6AQS3150	火	1時限	36
生命工学部	海洋生物科学科	満谷 淳	専門英語	G02ENG350i	木	1時限	34
生命工学部	海洋生物科学科	満谷 淳	海洋生物科学入門	LM6CAP1100	水	4時限	113
生命工学部	海洋生物科学科	三輪 泰彦	遺伝子組換え食品	LM6MFS4100	木	2時限	9
生命工学部	海洋生物科学科	山岸 幸正	フィールド調査法	LM6FIE3150	火	2時限	67
薬学部	薬学科	赤崎 健司	実感する化学	G03NAS1550	木	3時限	46
薬学部	薬学科	石津 隆	薬学の基礎となる化学A	PP5MBS1340	木	2時限	101
薬学部	薬学科	井上 敦子	実習Ⅳ	PP6PET3100	月	3時限	106
薬学部	薬学科	井上 裕文	基礎分析化学A	PP5MBS1260	月	2時限	101
薬学部	薬学科	江藤 精二	悪性腫瘍の薬・病態・治療	PP6CLP4180	火	2時限	114
薬学部	薬学科	大西 正俊	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療	PP6CLP3100	火	2時限	110
薬学部	薬学科	小川 祥二郎	薬局方収載の試験法	PP6PHY3150	水	1時限	108
薬学部	薬学科	片山 博和	統計解析と臨床研究	PP6CLP4220	火	1時限	120
薬学部	薬学科	上敷領 淳	生体エネルギー代謝	PP6BIO2100	木	2時限	106
薬学部	薬学科	木平 孝高	★【医薬評価アンケート】ファーマシューティカルケア総合演習Ⅰ プログラム20	PP6PET6150aj	その他	その他	21
薬学部	薬学科	小嶋 英二郎	機器分析学	PP6PHY2200	木	1時限	110

学部	学科	実施教員	科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
薬学部	薬学科	今 重之	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療	PP6CLP4100	月	1時限	120
薬学部	薬学科	坂根 洋	化学物質の生体への影響	PP6HLS3100	月	1時限	108
薬学部	薬学科	佐藤 雄己	薬物の臓器への到達と消失	PP6CLP3180	火	1時限	108
薬学部	薬学科	猿橋 裕子	医薬品管理	PP6LAS4100	金	1時限	127
薬学部	薬学科	重永 章	実習Ⅱ	PP6PET2100	月	5時限	106
薬学部	薬学科	柴田 紗知	統計解析と臨床研究	PP6CLP4220	火	1時限	120
薬学部	薬学科	白川 真	薬学の基礎としての数学A	PP5MBS1180	月	1時限	102
薬学部	薬学科	杉原 成美	化学物質の生体への影響	PP6HLS3100	月	1時限	108
薬学部	薬学科	高山 健人	薬になる動植物	PP6CHE2150	火	2時限	108
薬学部	薬学科	竹田 修三	化学物質の生体への影響	PP6HLS3100	月	1時限	108
薬学部	薬学科	田中 哲郎	薬物の臓器への到達と消失	PP6CLP3180	火	1時限	108
薬学部	薬学科	田村 豊	薬の効くメカニズム	PP6CLP2100	水	1時限	103
薬学部	薬学科	町支 臣成	基礎有機化学Ⅰ	PP6CHE1100	火	2時限	101
薬学部	薬学科	中村 徹也	薬物の臓器への到達と消失	PP6CLP3180	火	1時限	108
薬学部	薬学科	西山 卓志	医薬品の化学構造と性質	PP6CHE4100	水	2時限	130
薬学部	薬学科	秦 季之	物質の構造と相互作用	PP6PHY2150	火	1時限	103
薬学部	薬学科	秦 季之	化学反応速度	PP6PHY3100	木	3時限	107
薬学部	薬学科	半田 由佳	実習Ⅴ	PP6PET4100	月	5時限	121
薬学部	薬学科	稗田 雄三	実感する化学	G03NAS1550	木	3時限	46
薬学部	薬学科	広瀬 雅一	生命倫理	PP5MBS3100	金	5時限	105
薬学部	薬学科	藤岡 晴人	有機化学Ⅰ	PP6CHE2100	月	1時限	107
薬学部	薬学科	前田 頼伸	病原微生物と感染症	PP6BIO3150	水	2時限	106
薬学部	薬学科	前原 昭次	薬物の宝庫としての天然物	PP6CHE3150	金	1時限	103
薬学部	薬学科	松岡 浩史	ゲノム情報と創薬	PP6BIO2150	月	2時限	105
薬学部	薬学科	松岡 浩史	バイオ・細胞医薬品	PP6CLP4340	金	2時限	14
薬学部	薬学科	道原 明宏	ゲノム情報と創薬	PP6BIO2150	月	2時限	105
薬学部	薬学科	道原 明宏	バイオ・細胞医薬品	PP6CLP4340	金	2時限	14
薬学部	薬学科	本屋敷 敏雄	生体エネルギー代謝	PP6BIO2100	木	2時限	106
薬学部	薬学科	森田 哲生	生体調節分子	PP6BIO3100	月	2時限	108
薬学部	薬学科	山下 純	コミュニケーション交流学習	PP5MBS2100	木	5時限	106
薬学部	薬学科	渡邊 正知	中枢神経系疾患の薬・病態・治療Ⅱ	PP6CLP4140	水	1時限	122
薬学部	薬学科	尾上 洋	ファーマシューティカルケア総合演習Ⅰ	PP6PET6150	他	その他	141
薬学部	薬学科	岡田 昌浩	ファーマシューティカルケア総合演習Ⅰ	PP6PET6150	他	その他	141
薬学部	薬学科	岡村 信幸	漢方医学概説	PP6CLP1100	水	2時限	101
薬学部	薬学科	数野 博	ファーマシューティカルケア総合演習Ⅰ	PP6PET6150	他	その他	141
薬学部	薬学科	長崎 信浩	生命倫理	PP5MBS3100	金	5時限	105
大学教育センター	大学教育センター	今井 航	教育原理	QC7TTC1100	火	5時限	82
大学教育センター	大学教育センター	上西 幸治	英語Ⅰ	G02ENG110h	木	2時限	28

学部	学科	実施教員	科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
大学教育センター	大学教育センター	小野 太幹	数理科学	G03NAS1102	火	4時限	22
大学教育センター	大学教育センター	記谷 康之	情報処理基礎	G02INL110g	火	4時限	45
大学教育センター	大学教育センター	地主 弘幸	物理の世界	G03NAS1251	水	3時限	43
大学教育センター	大学教育センター	SUZUKI HEATHER ANNE	英語Ⅰ	G02ENG110b	火	4時限	27
大学教育センター	大学教育センター	竹盛 浩二	日本語表現法 1	G02JNE1154	火	2時限	27
大学教育センター	大学教育センター	竹盛 浩二	日本語表現法	G02JNE110d	月	2時限	31
大学教育センター	大学教育センター	Tang Warren	英語Ⅰ	G02ENG110u	金	4時限	35
大学教育センター	大学教育センター	Tang Warren	英語Ⅲ	G02ENG210k	火	3時限	33
大学教育センター	大学教育センター	津田 将行	キャリアデザインⅡ	G04CAE2102	金	5時限	32
大学教育センター	大学教育センター	前田 吉広	インターネット・リテラシ入門	G03NAS1851	水	2時限	64
大学教育センター	大学教育センター	劉 国彬	中国語（Ⅰ）	G02CHI110c	火	4時限	51
大学教育センター	大学教育センター	Lowes Jason	英語Ⅰ	G02ENG110f	火	4時限	33
大学教育センター	大学教育センター	若松 正晃	英語Ⅰ	G02ENG110m	木	2時限	24
大学教育センター	大学教育センター	上村 崇	ヨーロッパ哲学入門 1	HA6ETH2460	火	3時限	14
大学教育センター	大学教育センター	梅木 璃子	英語Ⅲ	G02ENG210i	火	2時限	34
大学教育センター	大学教育センター	遠藤 耕二	哲学（Ⅰ）	G03THC1100	火	2時限	66
大学教育センター	大学教育センター	大牛 英則	英語Ⅲ	G02ENG210n	火	3時限	31
大学教育センター	大学教育センター	崔 眞英	韓国語（Ⅰ）	G02KOR1101	火	3時限	34
大学教育センター	大学教育センター	齊藤 一彦	体育（Ⅰ）	G03AHS1443	火	3時限	40
大学教育センター	大学教育センター	齋藤 拓海	日本史（Ⅰ）	G03HIC1101	水	2時限	77
大学教育センター	大学教育センター	柴原 直樹	日本史（Ⅰ）	G03HIC1104	金	4時限	81
大学教育センター	大学教育センター	神野 靖子	音楽	G03AHS1241	火	2時限	7
大学教育センター	大学教育センター	外林 省二	書道	G03AHS1121	火	3時限	29
大学教育センター	大学教育センター	操 智	中国語（Ⅰ）	G02CHI110k	木	3時限	16
大学教育センター	大学教育センター	高垣 裕子	英語Ⅲ	G02ENG210h	火	2時限	32
大学教育センター	大学教育センター	高橋 和久	剣道（Ⅰ）	G03AHS1360	金	4時限	13
大学教育センター	大学教育センター	田中 宏和	憲法	G03SSL1151	金	1時限	54
大学教育センター	大学教育センター	谷川 充美	日本語表現法	G02JNE110e	月	3時限	46
大学教育センター	大学教育センター	帖佐 幸樹	日本語表現法	G02JNE110i	月	4時限	28
大学教育センター	大学教育センター	張 治清	中国語（Ⅰ）	G02CHI110j	木	3時限	17
大学教育センター	大学教育センター	道法 愛	日本語表現法	G02JNE110a	月	1時限	50
大学教育センター	大学教育センター	中越 信和	自然と人間	G03NAS1453	木	2時限	77
大学教育センター	大学教育センター	橋野 仁史	絵画	G03AHS1161	金	2時限	12
大学教育センター	大学教育センター	橋野 仁史	絵画	G03AHS1165	金	2時限	6
大学教育センター	大学教育センター	平山 直樹	英語Ⅲ	G02ENG2101	金	3時限	26
大学教育センター	大学教育センター	藤井 晶子	日本語表現法	G02JNE110c	月	2時限	52
大学教育センター	大学教育センター	藤本 路加	陶芸	G03AHS1203	金	4時限	30
大学教育センター	大学教育センター	前村 晃子	ドイツ語（Ⅰ）	G02GER1104	木	3時限	13

学部	学科	実施教員	科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
大学教育センター	大学教育センター	溝淵 裕	憲法	G03SSL1152	金	1時限	89
大学教育センター	大学教育センター	宮岡 弥生	日本語表現法	G02JNE110o	金	4時限	33
大学教育センター	大学教育センター	森岡 悦子	英語Ⅰ	G02ENG110l	木	2時限	36
大学教育センター	大学教育センター	山本 賢太郎	囲碁から学ぶ人間学（Ⅰ）	G03AHS1800	火	4時限	45
大学教育センター	大学教育センター	李 政樹	韓国語（Ⅰ）	G02KOR1105	木	3時限	34
大学教育センター	大学教育センター	王 佳子	法学概論（Ⅰ）	G03SSL1200	金	3時限	116
大学教育センター	大学教育センター	Driussi Cordelia	英語Ⅰ	G02ENG110j	木	2時限	39
大学教育センター	大学教育センター	Leriget de la Plante	英語Ⅲ	G02ENG210p	火	3時限	33
大学教育センター	大学教育センター	Medrzycki Krzysztof	英語Ⅰ	G02ENG110x	金	4時限	31
大学教育センター	大学教育センター	Henriquez Millon Adriana Maria	英語Ⅲ	G02ENG210g	火	2時限	36
大学教育センター	大学教育センター	Rodet Frank	フランス語（Ⅰ）	G02FRE1102	火	4時限	45
大学教育センター	大学教育センター	Salfati Paul Gabriel	フランス語（Ⅰ）	G02FRE1103	木	2時限	29
国際センター	国際センター	趙 建紅	日本語（Ⅲ）（留学生用科目）	G02JNI1200	水	3時限	8
共同利用センター	共同利用センター	鶴崎 健一	備後地域学	G03RST1100	水	4時限	232
共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫	情報処理基礎	G02INL110a	月	2時限	34
共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫	情報処理基礎	G02INL110d	月	3時限	33
共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫	情報処理基礎	G02INL110f	火	3時限	28
共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫	情報処理基礎	G02INL110e	月	4時限	18
共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫	情報処理基礎	G02INL110r	金	3時限	37
共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫	情報処理基礎	G02INL110n	木	3時限	41
共同利用センター	共同利用センター	瀬島 紀夫	情報処理基礎	G02INL110o	木	4時限	40
IR室	IR室	片桐 重和	情報処理基礎	G02INL110c	水	3時限	48

8. 令和3年度（後期）授業評価アンケート実施科目一覧

学部	学科	教員名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
経済学部	経済学科	平田 宏二	現代社会と経済	G03SSL1300	水	1時限	229
経済学部	経済学科	楠田 昭二	環境経済学	EE6GME3360	火	4時限	121
経済学部	経済学科	北浦 孝	経済学演習Ⅰ	E06CMS310a	木	4時限	14
経済学部	経済学科	佐藤 彰三	経済学演習Ⅱ	EE6THE410b	金	3時限	15
経済学部	経済学科	三川 敦	経済学演習Ⅱ	EE6THE410d	金	3時限	13
経済学部	経済学科	李 森	経済学演習Ⅱ	EE6THE410e	月	3時限	20
経済学部	経済学科	吉田 卓史	コーチ学Ⅱ	EE6SPM2450	木	3時限	55
経済学部	経済学科	石丸 敬二	コンピュータミュージック	HM6EPS3200	金	4時限	31
経済学部	経済学科	高羅 ひとみ	経済学演習Ⅰ	E06CMS310h	火	3時限	18
経済学部	経済学科	高羅 ひとみ	ミクロ経済学	E05MBS1103	火	2時限	54
経済学部	経済学科	中村 和裕	生涯スポーツ論	EE6SPM2250	木	1時限	49
経済学部	経済学科	野田 光太郎	体育実技Ⅶ（ダンス）	EE6SPM2640	月	3時限	8
経済学部	経済学科	藤本 倫史	スポーツNPO論	EE6SPM3300	木	1時限	45
経済学部	経済学科	村松 悠次	ミクロ経済学入門	E05MBS1112	火	4時限	116
経済学部	経済学科	田中 征史	経済数学入門	E05MBS1132	火	1時限	103
経済学部	経済学科	櫻木 規美子	スポーツ統計学	EE6SPM3150	水	3時限	44
経済学部	経済学科	岡本 昌規	体育実技Ⅴ（球技）	EE6SPM2620	金	1時限	29
経済学部	経済学科	畑本 佳恵	情報処理技法	E05MBS1304	水	4時限	47
経済学部	経済学科	高阪 勇毅	金融論	EE6GME2400	月	2時限	125
経済学部	経済学科	林 聡太郎	学校保健論	EE6SPM1350	月	2時限	49
経済学部	経済学科	野村證券	資本市場論	EE6GME2450	水	4時限	172
経済学部	国際経済学科	足立 浩一	経済学演習Ⅰ	E06CMS310o	木	3時限	11
経済学部	国際経済学科	早川 達二	経済学演習Ⅱ	EE6THE410c	木	4時限	17
経済学部	国際経済学科	Bisset Ian James	国際機関論	EI6IEC3150	月	2時限	24
経済学部	国際経済学科	鍋島 正次郎	スペイン語マスターⅡ	EI6IEC1500	水	3時限	27
経済学部	国際経済学科	呉 青姫	経済学演習Ⅱ	EE6THE410s	月	4時限	5
経済学部	国際経済学科	白 映旻	開発経済学	EE6IEC2100	水	3時限	200
経済学部	国際経済学科	佐野 穂先	英語マスターⅡ	EI6IEC1350	月	2時限	60
経済学部	国際経済学科	佐野 穂先	国際貿易論	EI6IEC3250	木	1時限	62
経済学部	国際経済学科	向井 洋	金融から見える世界Ⅱ	EE6IEC2450	水	5時限	68
経済学部	国際経済学科	平山 亮	アジア直接投資論Ⅱ	EI6IEC3650	木	3時限	24
経済学部	国際経済学科	富士 彰夫	アメリカ経済論Ⅱ	EI6IEC2210	木	1時限	41
経済学部	国際経済学科	尾田 温俊	経済学（2）	G03SSL1450	月	1時限	67
経済学部	税務会計学科	白木 康晴	法人税法	EA6ABA3930	月	2時限	24
経済学部	税務会計学科	小林 正和	経済学演習Ⅱ	EE6THE4101	木	2時限	9
経済学部	税務会計学科	許 霽	監査論Ⅱ	EA6ABA3850	火	2時限	70

学部	学科	教員名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
経済学部	税務会計学科	大城 朝子	経営戦略論Ⅱ	EE6ACM3150	水	3時限	73
経済学部	税務会計学科	堀田 彩	生産システム	EA6ABA2300	金	3時限	119
経済学部	税務会計学科	長濱 照美	会計学総論Ⅱ	EA6ABA1150	月	5時限	56
経済学部	税務会計学科	荒谷 隆紘	税務会計Ⅱ	EA6ABA3750	金	2時限	33
人間文化学部	人間文化学科	小原 友行	人文地理（２）	G03HIC1350	水	3時限	108
人間文化学部	人間文化学科	小原 友行	自然地理（２）	G03NAS1800	木	3時限	245
人間文化学部	人間文化学科	青木 美保	日本文学研究法２	HA6LIT3160	月	3時限	29
人間文化学部	人間文化学科	原 千史	ヨーロッパ文学研究２	HA6LIT3400	木	3時限	6
人間文化学部	人間文化学科	原 千史	文化演習Ⅱ	HA6RPE3133	木	4時限	7
人間文化学部	人間文化学科	重迫 隆司	日英比較文化２	HA6ETH2430	木	3時限	31
人間文化学部	人間文化学科	清水 洋子	中国語表現法２	HA6ETH2190	水	3時限	26
人間文化学部	人間文化学科	脇 忠幸	日本語研究法２	HA6ETH3160	火	3時限	19
人間文化学部	人間文化学科	柳川 真由美	日本近世の政治と文化２	HA6HIC3250	木	3時限	46
人間文化学部	人間文化学科	村上 亮	ヨーロッパ史文献講読２	HA6HIC3310	水	2時限	31
人間文化学部	人間文化学科	古内 絵里子	東アジアの歴史と文化２	HA6HIC2190	火	2時限	47
人間文化学部	人間文化学科	市瀬 信子	中国近世文化研究２	HA6LIT3280	金	4時限	23
人間文化学部	人間文化学科	山崎 桂子	日本文学史２	HA6LIT2430	金	2時限	15
人間文化学部	人間文化学科	竹村 信治	日本の中世文学２	HA6LIT3440	月	2時限	31
人間文化学部	人間文化学科	佐藤 和博	文化企画実習Ⅰ	HA6RPE1130	水	4時限	57
人間文化学部	人間文化学科	新本 万里子	文化人類学	HA5BDS1400	木	4時限	29
人間文化学部	人間文化学科	新本 万里子	日本民俗論	G03HIC1700	木	5時限	68
人間文化学部	人間文化学科	田野 慎二	日本王朝文学研究２	HA6LIT2130	木	1時限	14
人間文化学部	人間文化学科	鈴木 一生	ヨーロッパ美術史２	HA6HIC2310	水	3時限	20
人間文化学部	人間文化学科	嶋村 佳奈	日本古代の社会と文化２	HA6HIC3190	月	4時限	17
人間文化学部	心理学科	日下部 典子	心理学的支援法	HP6CRS2400	金	2時限	58
人間文化学部	心理学科	赤澤 淳子	発達心理学課題実習	HP6SNS3340	木	4時限	7
人間文化学部	心理学科	山崎 理央	感情・人格心理学	HP6CRS2500	水	1時限	66
人間文化学部	心理学科	平 伸二	司法・犯罪心理学	HP6ADS2150	月	2時限	69
人間文化学部	心理学科	枝廣 和憲	教育・学校心理学	HP6ADS2100	火	3時限	123
人間文化学部	心理学科	宮崎 由樹	産業・組織心理学	HP6ADS3400	水	2時限	63
人間文化学部	心理学科	中野 美奈	公認心理師の職責	HP6RLS3250	水	3時限	54
人間文化学部	心理学科	大杉 朱美	交通心理学	HP6ADS3550	金	2時限	90
人間文化学部	心理学科	金平 希	地域とボランティア	H05BFS1300	月	2時限	74
人間文化学部	心理学科	武田 知也	学習・言語心理学	HP6CRS2450	金	1時限	65

学部	学科	教員名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
人間文化学部	心理学科	福留 広大	社会・集団・家族心理学	HP6CRS2300	火	2時限	64
人間文化学部	心理学科	神原 広平	精神疾患とその治療	HP6RLS3150	他	その他	50
人間文化学部	メディア・映像学科	安田 暁	メディアデザイン論	HM6FSU1250	金	3時限	46
人間文化学部	メディア・映像学科	中嶋 健明	C G 表現論	HM6RAS3200	火	4時限	38
人間文化学部	メディア・映像学科	筒本 和広	ソフトウェア制作論	HM6FSU2400	金	3時限	39
人間文化学部	メディア・映像学科	田中 始男	メディア実践（調査）	HM6EPS2400	火	5時限	77
人間文化学部	メディア・映像学科	渡辺 浩司	マルチメディア論	HM6FSU2250	火	4時限	44
人間文化学部	メディア・映像学科	渡辺 浩司	基礎ゼミ	HM6IPS2100	月	2時限	41
人間文化学部	メディア・映像学科	内垣戸 貴之	メディア・リテラシー論	HM6FSU2350	月	5時限	47
人間文化学部	メディア・映像学科	丸山 友美	情報社会とコミュニケーション	HM5BDS1200	火	3時限	10
人間文化学部	メディア・映像学科	村上 博郁	地域メディア論	HM6RAS3250	水	4時限	32
人間文化学部	メディア・映像学科	田中 聡登	広告制作	HM6EPS3100	木	2時限	29
人間文化学部	メディア・映像学科	田中 聡	無線工学	TA6EEC3350	木	1時限	14
工学部	スマートシステム学科	仲嶋 一	瀬戸内の里山・里海学	G03RST1450	水	4時限	165
工学部	スマートシステム学科	仲嶋 一	半導体工学	TA6COM2650	水	2時限	16
工学部	スマートシステム学科	香川 直己	組込みプログラミング	TA6COM2800	木	その他	16
工学部	スマートシステム学科	宮内 克之	地域防災応用	G03RST1300	水	4時限	118
工学部	スマートシステム学科	三谷 康夫	工業数学Ⅱ	TA5FUS1400	火	2時限	18
工学部	スマートシステム学科	関田 隆一	プロジェクトマネジメント	T06SSE2300	木	1時限	50
工学部	スマートシステム学科	菅原 聡	アナログシステム	TA6COM2700	水	3時限	32
工学部	スマートシステム学科	菅原 聡	スマートシステム応用実験Ⅱ	TA6EXE3350	火	5時限	15
工学部	スマートシステム学科	沖 俊任	スマートシステム基礎実験Ⅱ	TA6EXE2250	月	5時限	28
工学部	スマートシステム学科	沖 俊任	設計製図	TA6COM2400	月	1時限	26
工学部	スマートシステム学科	伍賀 正典	教養ゼミ（教養講座を含む）	G01FYE110d	月	その他	17
工学部	建築学科	佐藤 圭一	建築製図演習Ⅱ	TK6FUA1210	火	2時限	69
工学部	建築学科	梅國 章	構造設計演習Ⅱ	TK6ARC3250	金	5時限	15
工学部	建築学科	大島 秀明	建築計画Ⅱ	TK6COM2300	月	2時限	73
工学部	建築学科	田辺 和康	地学実験（教職）	QC7TTC1452	木	4時限	16
工学部	建築学科	都祭 弘幸	不静定力学	TK6COM2750	木	4時限	79
工学部	建築学科	藤原 美樹	インテリア計画Ⅱ	TK6LED2250	月	3時限	41
工学部	建築学科	佐々木 伸子	生活デザイン演習Ⅱ	TK6LED2150	水	2時限	19
工学部	建築学科	伊澤 康一	環境設備演習	TK6COM3500	木	2時限	48
工学部	建築学科	山田 明	静定力学Ⅰ	TK6FUA1350	木	1時限	106
工学部	建築学科	山本 一貴	建築デザイン論	TK6ARC3450	水	2時限	72
工学部	建築学科	酒井 要	C G 演習	TK6COM2250	金	4時限	74
工学部	建築学科	後藤 亜貴	生活デザイン演習Ⅳ	TK6LED3150	水	4時限	15

学部	学科	教員名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
工学部	建築学科	武村 秀志	建築施工	TK6COM3660	木	4時限	79
工学部	建築学科	秋岡 昌彦	造形デザインⅡ	TK6COM2100	木	2時限	21
工学部	建築学科	岡本 康生	建築設計演習Ⅳ	TK6ARC3410	月	4時限	53
工学部	情報工学科	尾関 孝史	線形代数	TI5FUS1800	金	2時限	30
工学部	情報工学科	山之上 卓	情報理論	TI6COM3200	月	2時限	34
工学部	情報工学科	金子 邦彦	情報工学応用演習	TI6SOF2600	木	4時限	37
工学部	情報工学科	中道 上	ソフトウェア開発演習	TI6EXE3200	火	3時限	54
工学部	情報工学科	新谷 敏朗	オートマトンとコンパイラ	TI6SOF3200	金	3時限	47
工学部	情報工学科	宮崎 光二	アプリデザイン演習	TI6APP3200	火	2時限	39
工学部	情報工学科	池岡 宏	プログラミング入門演習	TI6EXE1100	木	4時限	51
工学部	情報工学科	森田 翔太	コンピュータアーキテクチャ	TI6HAR2150	水	2時限	62
工学部	情報工学科	吉原 和明	オペレーティングシステム	TI6SOF2200	月	3時限	55
工学部	機械システム工学科	加藤 昌彦	機械力学	TG6MSA2550	月	4時限	38
工学部	機械システム工学科	木村 純壮	システム制御入門	TG6MSA2650	火	4時限	25
工学部	機械システム工学科	内田 博志	ロボットデザイン	TG6MSB3350	月	5時限	13
工学部	機械システム工学科	内田 博志	自動車整備検査実習Ⅰ	TG6CMT2100	木	4時限	10
工学部	機械システム工学科	内田 博志	自動車構造Ⅱ	TG6AME1150	月	4時限	9
工学部	機械システム工学科	内田 博志	自動車工学実習Ⅱ	TG6AME1250	水	4時限	9
工学部	機械システム工学科	内田 博志	環境自動車工学	TG6AME2150	金	2時限	14
工学部	機械システム工学科	真鍋 圭司	数学Ⅱ	TG5FUS1152	金	2時限	26
工学部	機械システム工学科	山田 宏	バイオデザイン	TG6MSB3250	月	2時限	25
工学部	機械システム工学科	坂口 勝次	メカニカルC A E	TG6MSB3200	木	4時限	19
工学部	機械システム工学科	関根 康史	物理学Ⅱ	TA5FUS1350	火	1時限	50
工学部	機械システム工学科	中東 潤	機械材料学	TG6MSA1250	水	1時限	40
工学部	機械システム工学科	中東 潤	機械設計技術者試験対策講座	TG6MSA3400	水	4時限	20
工学部	機械システム工学科	小林 正明	自動車工学演習	TG6CMT4200	月	4時限	7
工学部	機械システム工学科	土井 康明	流体機械システム	TG6MSA2700	木	2時限	23
生命工学部	生物工学科	山本 覚	植物栽培技術	LB6ABI2500	木	1時限	39
生命工学部	生物工学科	岩本 博行	バイオ機器分析学	LB6BII2600	月	1時限	35
生命工学部	生物工学科	秦野 琢之	微生物学	LN5BMD1200	金	2時限	27
生命工学部	生物工学科	山口 泰典	医療とバイオ	LB6BII3400	水	2時限	19
生命工学部	生物工学科	久富 泰資	細胞生物学	LB6BII1100	水	1時限	29
生命工学部	生物工学科	原口 博行	植物分子育種学	LB6ABI3550	火	2時限	28
生命工学部	生物工学科	松崎 浩明	微生物育種学	LB6BII2200	火	1時限	37
生命工学部	生物工学科	太田 雅也	分析化学	LM5CHE2150	木	1時限	50
生命工学部	生物工学科	広岡 和丈	代謝制御学	LB5BCH3740	金	2時限	20

学部	学科	教員名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
生命工学部	生物工学科	佐藤 淳	保全生物学	LB6BII2850	火	2時限	38
生命工学部	生物工学科	吉崎 隆之	ワイン品質評価学	LB6ABI3350	月	3時限	27
生命工学部	生物工学科	磯崎 哲夫	理科教育法Ⅱ	QC7TTC3830	火	4時限	10
生命工学部	生命栄養科学科	菊田 安至	教養ゼミ（教養講座を含む）	G01FYE1105	水	5時限	27
生命工学部	生命栄養科学科	田中 信一郎	解剖生理学Ⅰ	LN5BMD1250	水	2時限	28
生命工学部	生命栄養科学科	山本 英二	生物物理学	LM5PHS2150	金	1時限	109
生命工学部	生命栄養科学科	井ノ内 直良	食品材料学	LN5FOH1150	月	2時限	28
生命工学部	生命栄養科学科	西 彰子	栄養カウンセリング論	LN6NUE3150	水	1時限	41
生命工学部	生命栄養科学科	西 彰子	栄養教育論Ⅰ	LN6NUE2300	火	2時限	33
生命工学部	生命栄養科学科	吉田 純子	環境・スポーツ栄養学	LN6APN2200	水	2時限	35
生命工学部	生命栄養科学科	中崎 千尋	公衆栄養学	LN6PHN2100	火	1時限	32
生命工学部	生命栄養科学科	石井 香代子	給食管理実習（校外実習）	LN6FIT3200	他	その他	38
生命工学部	生命栄養科学科	村上 泰子	臨床栄養学実習Ⅰ	LN6CLN2450	他	その他	31
生命工学部	生命栄養科学科	久保田 みどり	調理学実習Ⅰ	LN5FOH1250	他	その他	28
生命工学部	海洋生物科学科	北口 博隆	フィールド生態環境実習（2）	LM6FIE3450	木	5時限	30
生命工学部	海洋生物科学科	満谷 淳	沿岸環境の保全と再生	LM6FIE3350	火	2時限	47
生命工学部	海洋生物科学科	満谷 淳	進路探求Ⅱ	LM6CAP3100	火	5時限	108
生命工学部	海洋生物科学科	伊丹 利明	魚介類の疾病と予防	LM6AQS3300	金	1時限	86
生命工学部	海洋生物科学科	三輪 泰彦	基礎分子生物学	LM5BIS2100	水	2時限	119
生命工学部	海洋生物科学科	有瀧 真人	魚類の飼料と栄養	LM6RUD3200	月	2時限	83
生命工学部	海洋生物科学科	高村 克美	海洋基礎実験	LM6EXE1100	月	5時限	113
生命工学部	海洋生物科学科	高村 克美	海洋動物発生学	LM6MCS2150	火	2時限	128
生命工学部	海洋生物科学科	倉掛 昌裕	食品機能科学	LM6MFS3350	火	2時限	99
生命工学部	海洋生物科学科	金子 健司	水産資源の生態	LM6RUD3250	月	1時限	80
生命工学部	海洋生物科学科	阪本 憲司	魚介類の育種	LM6RUD3350	火	1時限	86
生命工学部	海洋生物科学科	山岸 幸正	海洋植物分類学	LM6MCS1250	金	2時限	112
生命工学部	海洋生物科学科	水上 雅晴	水生生物の生態と環境	LM6AQS3350	水	1時限	72
生命工学部	海洋生物科学科	真田 誠至	水生生物の生態と環境	LM6AQS3350	水	1時限	72
生命工学部	海洋生物科学科	我如古 菜月	化学Ⅱ	LM5CHE1152	水	1時限	58
薬学部	薬学科	石津 隆	有機化学Ⅱ	PP6CHE2200	水	2時限	106
薬学部	薬学科	井上 裕文	応用分析科学	PP6PHY3200	木	3時限	101
経済学部	薬学科	高山 健人	病原体としての微生物	PP6BIO1250	火	1時限	101
薬学部	薬学科	中村 徹也	薬学の基礎としての数学B	PP5MBS1220	他	その他	58
薬学部	薬学科	猿橋 裕子	薬剤師を取り巻く法規	PP6LAS3100	木	2時限	101
薬学部	薬学科	田中 哲郎	薬物動態解析	PP6CLP3300	水	2時限	103
薬学部	薬学科	杉原 成美	食品衛生	PP6HLS3150	火	2時限	92

学部	学科	教員名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
薬学部	薬学科	井上 敦子	血液・造血管系疾患の薬・病態・治療	PP6CLP2260	木	3時限	108
薬学部	薬学科	大西 正俊	血液・造血管系疾患の薬・病態・治療	PP6CLP2260	木	3時限	108
薬学部	薬学科	田村 豊	末梢神経系に作用する薬	PP6CLP2180	金	1時限	107
薬学部	薬学科	小川 祥二郎	分析技術の臨床応用	PP6PHY2300	月	2時限	107
薬学部	薬学科	小嶋 英二郎	実習Ⅰ	PP6PET1100	月	5時限	100
薬学部	薬学科	佐藤 英治	調剤	PP6CLP3340	火	1時限	104
薬学部	薬学科	藤岡 晴人	基礎有機化学Ⅱ	PP6CHE1150	月	1時限	103
薬学部	薬学科	町支 臣成	基礎有機化学Ⅱ	PP6CHE1150	月	1時限	103
薬学部	薬学科	森田 哲生	生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系	PP6BIO2200	月	1時限	105
薬学部	薬学科	志摩 亜季保	生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系	PP6BIO2200	月	1時限	105
薬学部	薬学科	上敷領 淳	実習Ⅲ	PP6PET2150	月	5時限	106
薬学部	薬学科	片山 博和	製剤とDDS	PP6CLP3425	他	その他	16
薬学部	薬学科	片山 博和	製剤とDDS	PP6CLP3420	水	1時限	105
薬学部	薬学科	坂根 洋	生命体の基本単位としての細胞	PP6BIO1200	水	1時限	101
薬学部	薬学科	赤崎 健司	生活環境と健康	PP6HLS2100	木	2時限	102
薬学部	薬学科	竹田 修三	食品衛生	PP6HLS3150	火	2時限	92
薬学部	薬学科	秦 季之	物質のエネルギー	PP6PHY1100	金	2時限	102
薬学部	薬学科	今 重之	免疫と疾患	PP6BIO3250	金	1時限	105
薬学部	薬学科	柴田 紗知	免疫と疾患	PP6BIO3250	金	1時限	105
薬学部	薬学科	重永 章	生体分子の構造と化学的性質	PP6CHE3200	木	1時限	102
薬学部	薬学科	佐藤 雄己	製剤の性質	PP6CLP3380	月	3時限	102
薬学部	薬学科	本屋敷 敏雄	物質の構造と放射線	PP6PHY2250	火	2時限	117
薬学部	薬学科	渡邊 正知	中枢神経系疾患の薬・病態・治療Ⅰ	PP6CLP3260	金	2時限	104
薬学部	薬学科	松岡 浩史	生命情報を担う遺伝子	PP6BIO1300	月	2時限	105
薬学部	薬学科	道原 明宏	生命情報を担う遺伝子	PP6BIO1300	月	2時限	105
薬学部	薬学科	前原 昭次	天然物化学	PP6CHE2250	木	4時限	105
薬学部	薬学科	岡村 信幸	漢方薬物治療	PP6CLP1140	水	2時限	101
薬学部	薬学科	稗田 雄三	化学の基礎	G03NAS1700	木	2時限	21
薬学部	薬学科	西山 卓志	化学の基礎	G03NAS1700	木	2時限	21
薬学部	薬学科	半田 由佳	病原体としての微生物	PP6BIO1250	火	1時限	101
薬学部	薬学科	高根 浩	事前学習	PP6PET4250	他	その他	121
薬学部	薬学科	高根 浩	病院・薬局実務実習	PP6PET5100	他	その他	126
薬学部	薬学科	五郎丸 剛	事前学習	PP6PET4250	他	その他	121
薬学部	薬学科	広瀬 雅一	地域薬局	PP6CLP4380	他	その他	121
薬学部	薬学科	山下 純	薬学英語演習Ⅰ	G02ENG4100	他	その他	118
薬学部	薬学科	長崎 信浩	薬学入門Ⅱ	PP5MBS1140	金	5時限	100

学部	学科	教員名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
大学教育センター	大学教育センター	上西 幸治	英語Ⅳ	G02ENG215v	金	3時限	22
大学教育センター	大学教育センター	地主 弘幸	物理学実験	TG5FUS2152	水	2時限	18
大学教育センター	大学教育センター	地主 弘幸	物理学実験	LM5PHS1150	火	2時限	15
大学教育センター	大学教育センター	地主 弘幸	物理学実験	TG5FUS2151	火	3時限	21
大学教育センター	大学教育センター	今井 航	教職概論	QC7TTC1200	金	5時限	95
大学教育センター	大学教育センター	竹盛 浩二	総合的な学習の時間の指導法Ⅱ	QC7TTC3890	金	5時限	30
大学教育センター	大学教育センター	竹盛 浩二	教職実践演習	QC7TTC4301	火	5時限	42
大学教育センター	大学教育センター	劉 国彬	中国語（Ⅱ）	G02CHI115a	火	3時限	20
大学教育センター	大学教育センター	小野 太幹	数学Ⅱ	TI5FUS2250	月	4時限	29
大学教育センター	大学教育センター	Lowes Jason	英語Ⅳ	G02ENG2154	金	3時限	26
大学教育センター	大学教育センター	津田 将行	キャリアデザインⅡ	G04CAE2104	金	5時限	12
大学教育センター	大学教育センター	前田 吉広	キャリアデザインⅠ	G04CAE1105	火	2時限	68
大学教育センター	大学教育センター	前田 吉広	キャリアデザインⅢ	G04CAE3100	月	3時限	7
大学教育センター	大学教育センター	若松 正晃	英語Ⅰ（再）	G02ENG1108	木	5時限	27
大学教育センター	大学教育センター	若松 正晃	英語Ⅱ	G02ENG115m	木	2時限	22
大学教育センター	大学教育センター	Tang Warren	英語Ⅳ	G02ENG215e	火	2時限	32
大学教育センター	大学教育センター	Tang Warren	英語Ⅳ	G02ENG215k	火	3時限	32
大学教育センター	大学教育センター	記谷 康之	情報処理技法	E05MBS1301	火	4時限	43
大学教育センター	大学教育センター	SUZUKI HEATHER ANNE	英語Ⅳ	G02ENG2153	金	3時限	21
大学教育センター	大学教育センター	鳥谷部 茂	市民生活と法	G03SSL1102	金	3時限	107
大学教育センター	大学教育センター	上村 崇	ヨーロッパ哲学入門Ⅱ	HA6ETH2490	火	3時限	14
大学教育センター	大学教育センター	田中 宏和	憲法	G03SSL1154	金	2時限	76
大学教育センター	大学教育センター	宇野 昌樹	イスラム文化	G03HIC1550	水	3時限	45
大学教育センター	大学教育センター	勝部 真人	日本史（Ⅱ）	G03HIC1151	水	2時限	45
大学教育センター	大学教育センター	外林 省二	書道	G03AHS1124	火	4時限	6
大学教育センター	大学教育センター	張 治清	中国語（Ⅱ）	G02CHI115j	木	3時限	19
大学教育センター	大学教育センター	溝淵 裕	憲法	G03SSL1153	金	1時限	97
大学教育センター	大学教育センター	神野 靖子	音楽	G03AHS1242	火	2時限	7
大学教育センター	大学教育センター	高垣 裕子	英語Ⅳ	G02ENG215h	火	2時限	31
大学教育センター	大学教育センター	大牛 英則	英語Ⅳ	G02ENG215n	火	3時限	30
大学教育センター	大学教育センター	木村 真弓	ダンス	G03AHS1680	木	4時限	18
大学教育センター	大学教育センター	柴原 直樹	日本史（Ⅱ）	G03HIC1154	金	4時限	49
大学教育センター	大学教育センター	齊藤 一彦	体育（Ⅱ）	G03AHS1482	火	2時限	18
大学教育センター	大学教育センター	Salfati Paul Gabriel	フランス語（Ⅱ）	G02FRE1153	木	2時限	26
大学教育センター	大学教育センター	平山 直樹	英語Ⅱ	G02ENG115w	金	4時限	24
大学教育センター	大学教育センター	Rodet Frank	フランス語（Ⅱ）	G02FRE1152	火	4時限	44

学部	学科	教員名	授業科目名	講義番号	曜日	時限	受講者数
大学教育センター	大学教育センター	末葭 敏久	中国文化入門	HA5BDS1250	金	3時限	14
大学教育センター	大学教育センター	藤井 晶子	日本語表現法 2	HM5BDS1300	水	2時限	44
大学教育センター	大学教育センター	藤本 路加	陶芸	G03AHS1206	金	3時限	30
大学教育センター	大学教育センター	遠藤 耕二	哲学（２）	G03THC1150	火	2時限	89
大学教育センター	大学教育センター	高澤 健司	生徒指導・進路指導論	QC7TTC2330	火	1時限	135
大学教育センター	大学教育センター	森岡 悦子	英語Ⅳ	G02ENG215j	火	2時限	32
大学教育センター	大学教育センター	岡田 秀一	ドローンで撮る地域の魅力	G03RST1400	木	4時限	33
大学教育センター	大学教育センター	李 政樹	韓国語（Ⅱ）	G02KOR1155	木	3時限	35
大学教育センター	大学教育センター	前村 晃子	ドイツ語（Ⅱ）	G02GER1154	木	3時限	12
大学教育センター	大学教育センター	牧 貴愛	道德教育の指導法	QC7TTC2400	水	5時限	47
大学教育センター	大学教育センター	谷川 充美	日本語表現法	G02JNE110q	月	3時限	18
大学教育センター	大学教育センター	崔 眞英	韓国語（Ⅱ）	G02KOR1151	火	3時限	33
大学教育センター	大学教育センター	山本 賢太郎	囲碁から学ぶ人間学（２）	G03AHS1840	火	4時限	6
大学教育センター	大学教育センター	橋野 仁史	絵画	G03AHS1162	金	2時限	10
大学教育センター	大学教育センター	橋野 仁史	絵画	G03AHS1165	金	2時限	6
大学教育センター	大学教育センター	Henriquez Millon Adriana Maria	英語Ⅳ	G02ENG215g	火	2時限	36
大学教育センター	大学教育センター	操 智	中国語（Ⅱ）	G02CHI115k	木	3時限	21
大学教育センター	大学教育センター	帖佐 幸樹	日本語表現法	G02JNE110r	月	3時限	18
大学教育センター	大学教育センター	梅木 璃子	英語Ⅳ	G02ENG215i	火	2時限	33
大学教育センター	大学教育センター	Driussi Cordelia	英語Ⅱ	G02ENG115j	木	2時限	39
大学教育センター	大学教育センター	中越 信和	里山概論	LB6BII1810	月	2時限	23
大学教育センター	大学教育センター	Leriget de la Plante	英語Ⅳ	G02ENG215p	火	3時限	31
大学教育センター	大学教育センター	Medrzycki Krzysztof	英語Ⅱ	G02ENG115s	木	3時限	25
国際センター	国際センター	趙 建紅	中国語（Ⅱ）	G02CHI115d	火	4時限	45
共同利用センター	共同利用センター	鶴崎 健一	公衆衛生学	EE6SPM3600	水	1時限	34
IR室	IR室	片桐 重和	実用情報処理演習	TI6EXE1150	月	2時限	40
社会連携センター	社会連携センター	中村 雅樹	暮らしと物づくり	G03NAS1200	木	5時限	214